平成 27 年度
高齢者の住まいのアセスメントに関する
調査研究

報　告　書

平成 28 年 3 月

坂井地区広域連合

はじめに

坂井地区広域連合では、「第６期介護保険事業計画（地域包括ケア計画）」を策定し、2025 年（平成 37 年）度を見据えた地域包括ケアシステムの構築に向けて「住み慣れた地域で自分らしく暮らせる、みんなで支え合うまちづくり」のための取組みを進めています。地域包括ケアシステムの医療・介護については、平成 22 年度より、福井県や東京大学高齢社会総合研究機構とも連携し、在宅ケア推進体制整備に向けた先駆的事業を行ってきました。また、介護予防・生活支援については、第６期期間に「介護予防・日常生活支援総合事業」のスタートを予定しているところです。

高齢者の住まいについては、地域包括ケアシステムの基礎として、施策の重要性を認識してきました。そこで、本年度は基礎調査として、本「高齢者の住まいのアセスメントに関する調査研究」を実施し、居宅支援事業所や施設・居住系事業所へのアンケート調査、家族向けアンケート調査、介護保険サービスのデータ分析、介護保険施設等ヒアリング調査を実施し、要介護高齢者の生活実態や施設への入居希望、家族介護の実態等を把握し、課題や必要な支援策を検討することにしました。

調査結果からは、要介護高齢者が住み慣れた自宅での生活を継続していくためには、バリアフリーなどの住まいや生活環境の充実に向けた課題解決とあわせ、より一人ひとりの状態に即したケアプランとそれに基づく介護保険サービスの提供が必要であることがわかりました。また介護意識や認知症の支援、家族の介護負担解消、介護離職の防止などの幅広い対応も必要であることもわかりました。

次年度はこの調査結果を受けて、市民や関係者とともに課題を共有し、また、ケアマネ SAKAI の協力も得ながら「住まいのアセスメント検討会（仮称）」を開催して事例検討を行い、それらの結果を冊子等にまとめていきたいと考えています。皆様方には引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、関係機関の皆様方やご家族、事業所の皆様方には、ご多忙の折にもかかわらず、快く調査にご協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

平成 28 年３月

坂井地区広域連合

目　次

第１章　調査研究の概要 1

１　調査研究の目的 3
２　住まいの考え方 4
３　高齢者の住まいのアセスメントの必要性 5
４　検討フローと調査概要 8

第２章　坂井地区の現状 11

１　超高齢社会に向けた地区の課題 13
２　坂井地区の介護保険サービス 15

第３章　坂井地区の要介護高齢者の在宅生活と住まいの現状 21

手法１　事業所アンケート調査（居宅支援サービス・介護保険施設入所申込調査） . . 23
手法２　家族向けアンケート調査 40
手法３　介護保険データの分析 65
手法４　介護保険施設ヒアリング調査 89

第４章　坂井地区の要介護者の介護保険サービス利用に関する課題整理99

１　調査研究のまとめ 101
２　調査からみえた課題 108
３　今後の方向性 112

資　料　編 113

１　家族向けアンケート調査（調査票） 115
２　介護保険施設ヒアリング調査 127

第１章　調査研究の概要

1　調査研究の目的

・「団塊世代（1947 年から 1949 年生まれ）」がすべて 75 歳を迎える 2025 年に向けて、国及び地方公共団体においては、できる限り住み慣れた地域で人生のさいごまで自分らしい生活を送ることができる社会の実現に向けて、介護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。

・坂井地区広域連合においても、平成 27～29 年度を計画期間とする第６期介護保険事業計画（地域包括ケア計画）を策定し、平成 37（2025）年に向けて、「住み慣れた地域で自分らしく暮らせる、みんなで支え合うまちづくり」をめざした取組みを始めている。

・坂井地区ではこれまでふくい在宅あんしんネットや坂井地区在宅ケア将来モデル事業により、在宅療養の体制づくりを進めてきたが、次期計画ではその取組みに基づき、さらにその基礎になる「住まい」や「生活支援」、「生きがい」についても検討を拡充することとしている。

・そこで本調査研究では、坂井地区で暮らす要介護認定者（とその家族）の生活や介護、医療サービスの利用とあわせ、住まいや生活支援も含めた居住課題について、各種調査・分析により明らかにし、あわせて課題を踏まえた、「高齢者の住まいのアセスメント」の仕組みを構築するものである。

・この取組みを通して、住み続けられる住まいの実現はもとより、真に施設を必要とする方へのサポート、在宅・施設が連続したケア、給付の適正化等、さまざまな面から坂井地区の介護保険の質の向上をめざしたいと考える。

・なお、本調査研究は、地域包括ケアシステムの基礎である「住まい」の充実に向けて、ケアプランにおけるサポート方策を検討するために、東京大学や福井県の助言のもと実施する。

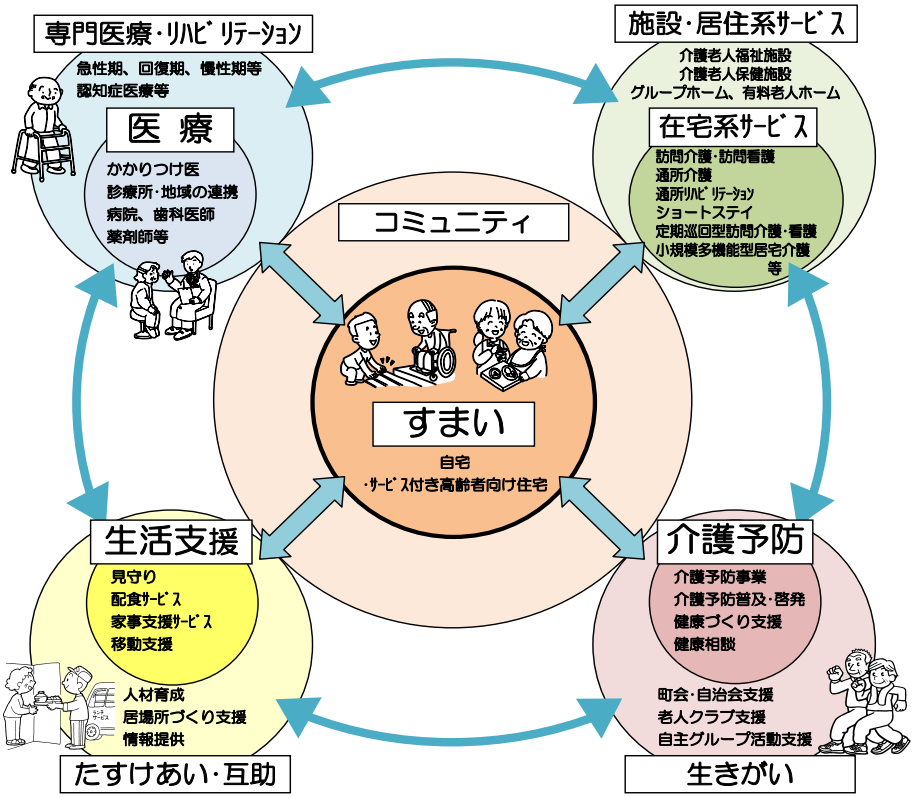
２　住まいの考え方

・「高齢者の住まい」にはさまざまな定義があり、厚生労働省では地域包括ケアシステムの「住まい・住まい方」の考え方では「サービス付き高齢者向け住宅」等の形態が含まれている。また施設を「住まい、生活の場」（外山義氏）として捉える提言から、ユニットケア（特養・老健）、グループホームが展開されてきた。さらに平成 26 年１月の新オレンジプランでは、認知症高齢者が「住み慣れた地域の良い環境で暮らすために」との表現もある。
・一方、国の調査では、介護が必要になった場合でも７割以上が自宅での介護を希望しており、医療についても６割以上が自宅で療養したいと希望している。
・坂井地区においても、平成 24 年に「坂井地区在宅ケア将来モデル推進協議会」を立ち上げ、地域包括ケアシステムを軸とした医療・介護・福祉の連携モデルとして、在宅ケア体制の整備を進めているところである。
・以上のことから、本調査研究では、「高齢者の住まい」を「自宅」と定義して検討を進める。

・平成 37（2025）年に向けた、坂井地区の地域包括ケアシステムの姿（仮）を以下の通りとする。

> 高齢者の尊厳と自立生活の支援のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生のさいごまで続けることができるような地域の包括的な支援・サービス提供体制であり、生活圏域ごとに、＜主役＞となる高齢者の「住まい」を前提に「介護（在宅・施設・居住系）サービス」、「医療（地域医療・専門医療・リハビリ）」、「生活支援」、「介護予防」がその人らしい暮らしをサポートしていく。

図表１－２－１　坂井地区の地域包括ケアシステムの姿（仮）



３　高齢者の住まいのアセスメントの必要性

（１）　地域包括ケアシステムに向けた取組み

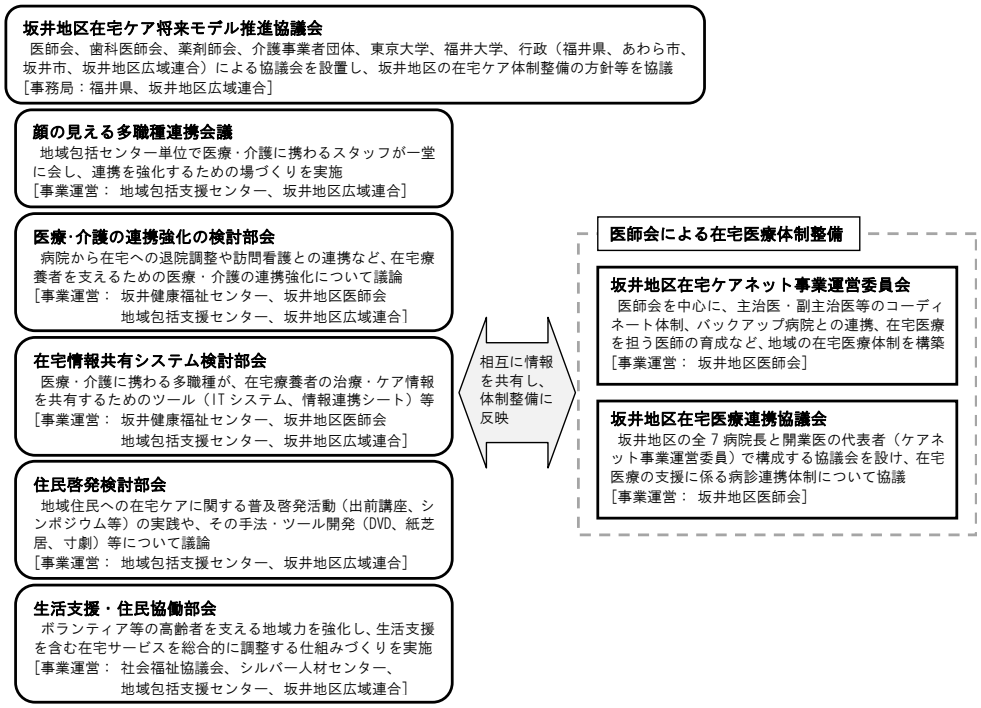
・坂井地区広域連合は、坂井市とあわら市において介護保険に係る事務等を行うため設立され、平成 20 年度からは坂井地区医師会でのこれまでの活動をベースに「ふくい在宅あんしんネット構築支援事業」、平成 22 年度からは在宅ケア体制づくりを研究する「ジェントロジー共同研究」等を実施し、構成市と福井県、東京大学、関係機関等による在宅ケア体制のモデルづくりを進めてきた。

・平成 24 年度からは厚労省在宅医療連携拠点事業による「坂井地区在宅ケア将来モデル」の推進に取組み、拠点事業の推進と合わせ『坂井地区在宅ケア将来モデル推進協議会』を設立するなど、全国における在宅医療の先導地域としての事業を推進している。

１）医療連携体制の構築：主治医・副主治医の選定　後方支援病院の協力
２）訪問看護など在宅ケアサービスとの連携強化：多職種間での患者情報共有化
３）住民啓発：在宅医療・介護に関する市民の意識啓発

・第６期介護保険事業計画（地域包括ケア計画）では、重点項目に「在宅医療・介護の一体的な提供」、「介護予防・日常生活支援サービスの充実と地域で支える体制整備」、「認知症ケア体制の充実と認知症予防の推進」を掲げている。

図表１－３－１　坂井地区在宅ケアモデル整備の推進体制



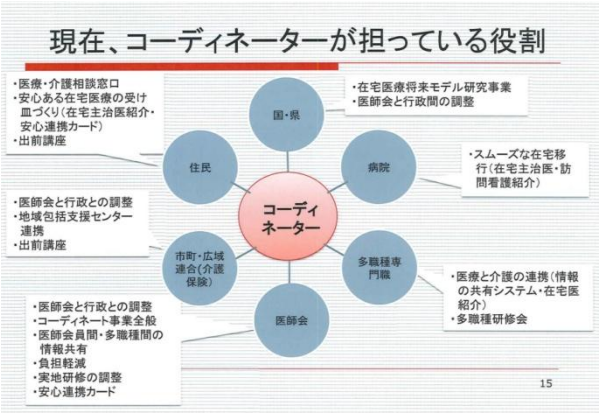
出典：福井県ホームページ「福井県における在宅ケア体制づくり」）

＜参考＞坂井地区医師会における在宅医療体制の整備

・坂井地区医師会の在宅医療の取組みは、平成５年の坂井郡医師会訪問看護ステーション、平成 12 年の医師会ケアセンター、平成 25 年坂井地区医師会訪問看護ステーションの設立と地域包括ケアシステムの先駆的な動き等にあわせて段階的に展開されてきた。

・特に介護保険制度改正のあった平成 17 年度以降、在宅療養支援診療所の創設とあわせ、在宅医療のコーディネートの必要性が高まり、在宅ケアネットがスタート、在宅主治医・副主治医の紹介、在宅医療調整、相談、福祉との連携、研修事業を実施している。

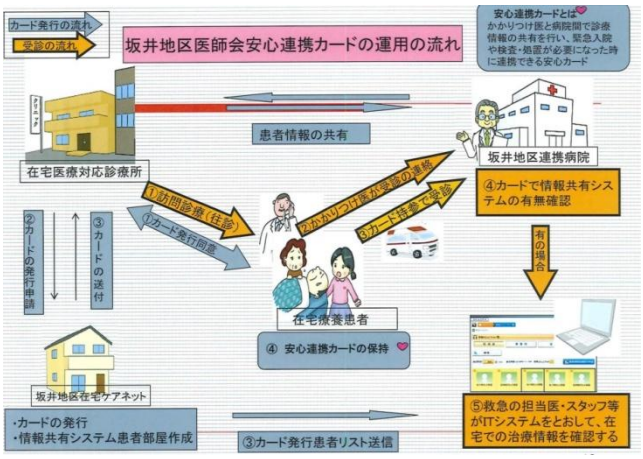
図表１－３－２　坂井地区在宅ケアネット

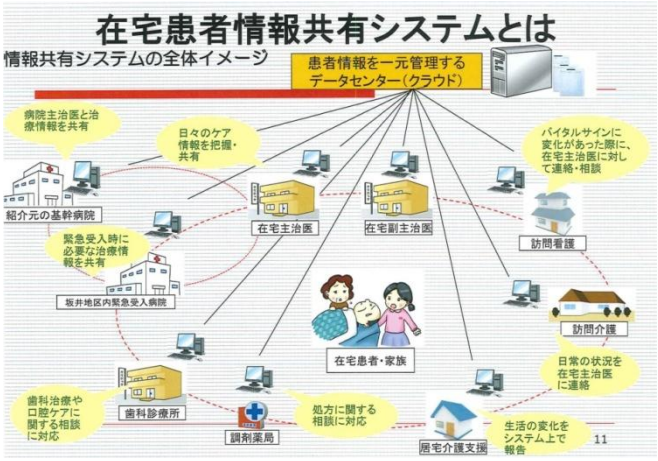


出典：坂井地区在宅ケアネット　在宅医療コーディネーター　北川ひで子氏資料より

・また、東京大学・福井県ジェロントロジー共同研究協力の成果により、安心連携カードの運用と情報共有システムの活用や、在宅患者情報共有システムが構築され、IT を効果的に活用した患者情報の共有や在宅医療を後方支援するシステムの構築が進められた。

図表１－３－３　坂井地区医師会の IT を活用した情報教諭システム





出典：第２回日本医師会在宅医療支援フォーラム
「地域包括ケアシステムにおける福井県坂井地区医師会の役割」坂井健志氏資料より

（２）　住まいのアセスメントの必要性

・高齢者が住み慣れた環境の中で、さいごまで尊厳を保持してその人らしく生活を営むことを可能としていくためには、在宅の介護サービスと在宅の医療サービスとを適切に組み合わせて、施設と同様に安心感の継続できる環境を整備していくことが重要である。

・しかしながら、現在の介護保険制度のケアプランは、ケアサービスの計画が中心であり、居宅サービスでは住まい、生活支援、生きがいが十分にカバーされていない、また施設サービスでも居宅からの連続性のもとでの支援が行われにくいことが課題となっている。

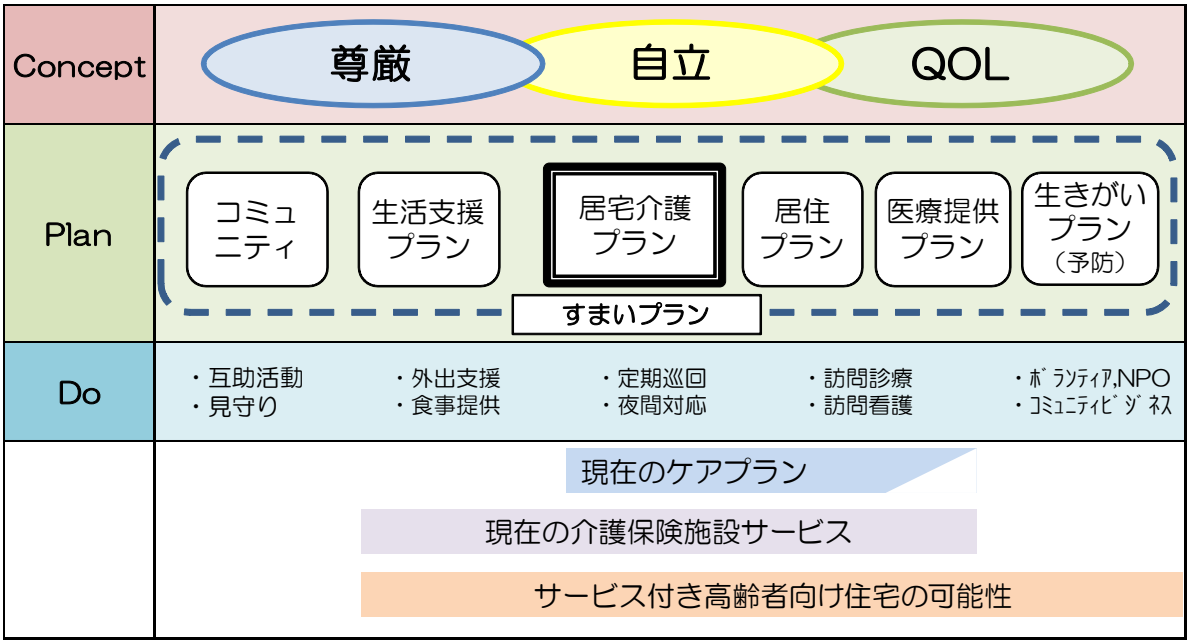
・こうしたことから、坂井地区の地域包括ケアシステムには、高齢者の居住継続の視点や移住の視点から「高齢者の住まいのアセスメント」が必要であると考える。

・住まいのアセスメントは「要介護状態でも在宅で暮らし続けるために、ケアプランを作成する際、「住まい」や「住まう」点からも評価する」ということである。

・坂井地区では、基礎調査や検討会を実施し、福祉の専門家でもわかりやすく評価できる指標を作成し、その人にふさわしい介護の選択の支援や在宅・施設の切れ目のないケアの実現を支援することをめざす。

・平成 27 年度は、調査を実施し、その結果を受けて、平成 28 年度に高齢者の住まいのアセスメントを行う。それらをベースに、第７期介護保険事業計画に反映し、地域包括ケアシステムの機能強化を進めていくものである。

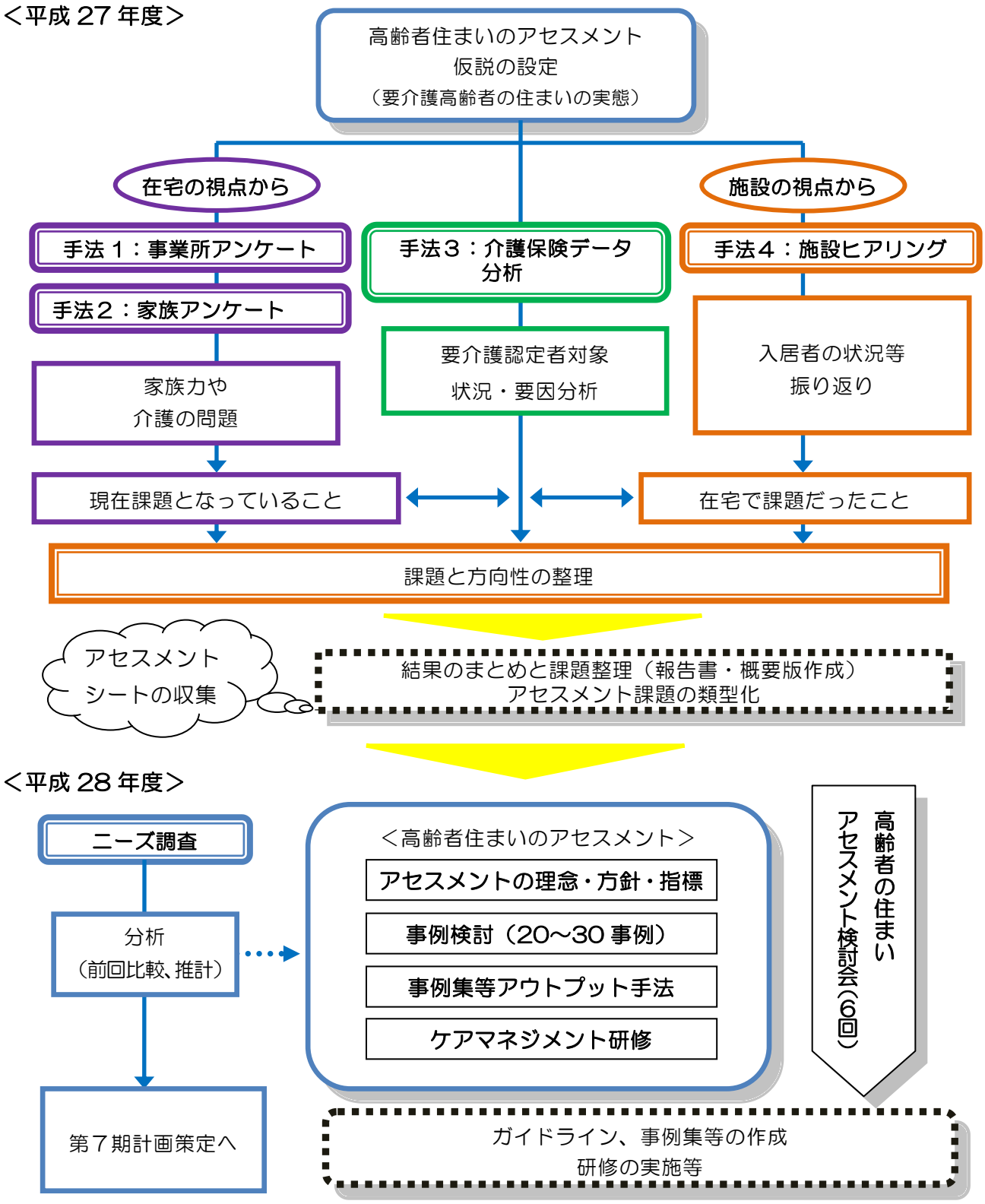
図表１－３－４　高齢者の住まいのアセスメントの概念図（案）



4　検討フローと調査概要

（1）検討フロー

・本調査研究は平成 27 年度～平成 28 年度に実施し、第７期介護保険事業計画に反映する。



（2）調査概要

・本調査研究における調査は以下の通りである。

①　平成 27 年度

手法１　事業所アンケート調査（介護保険施設等入所申込調査）

【目的】　介護保険施設等入所申込調査を実施するにあたり、住まいや家族介護の現状と課題等に関する項目も加えて調査を行い、施設ニーズの背景要因を探る。
【方法】　アンケート調査
（待機者の照会に合わせて調査票を添付し、担当ケアマネジャーに回答していただく）
（督促なし）
【対象】　坂井地区における居宅支援事業所（40 事業所 204 人）
坂井地区における施設・居住系事業所（35 事業所 805 人）
【内容】　申込理由（個票）
【分析】　クロス集計、介護保険データ等との結合による詳細分析

手法２　家族向けアンケート調査

【目的】　待機者調査で名寄せした方のご家族に調査を行い、施設へ申込んだ理由、住まいの状況、療養場所の希望、介護負担感等についての詳しい状況を明らかにする。
【方法】　郵送配布・郵送回収によるアンケート調査（督促１回）
【対象】　坂井地区における施設等居住系サービス待機者の家族 250 人
【内容】　Ａ回答者属性　Ｂ本人状況　Ｃ住まいと生活支援　Ｄ申込状況　Ｅ介護・療養の希望
Ｆ家族の状況　Ｇ介護の負担感　Ｈその他
【分析】　単純集計、クロス集計

手法３　介護保険データ分析

【目的】　坂井地区広域連合の介護保険サービスデータ・住民基本台帳結合データを用い、介護保険サービス利用の状況や背景要因の分析を行うことで、在宅や施設支援のあり方を検討し、住まいのアセスメントの参考とする。
【方法】　手法１・２の結果を合わせた分析
【対象】　坂井地区広域連合の介護保険サービス利用データ
【分析】　クロス集計・分析、調査結果と介護保険データの結合による総合的な分析
【内容】　①性・年齢、②要介護度・認知症自立度・寝たきり度、③地区、④保険料賦課段階、⑤介護保険提供保険請求額等、⑥過去 14 日間に受けた医療措置　等

手法４　介護保険施設ヒアリング調査

【目的】　施設・居住系サービスの利用者について、本人や家族の状況や施設・居住系サービスを希望した理由、申し込んでから入居までに困ったこと、あったらよかった支援等を探り、生活の継続性や連続性の実態を検討し、高齢者の住まいのアセスメントの参考とする。

【方法】　特別養護老人ホーム等施設・居住系サービス職員へのヒアリング

【対象】　特別養護老人ホーム・地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護・老人保健施設・グループホーム・特定施設に入居している方。計 150 人程度抽出し、ケアマネ・相談員へのヒアリングを実施

【内容】　①入居前の生活環境、②認知症の状況、③経済状況、④家族状況、⑤経過・サービス⑥入所前後について、⑦効果・変化、⑧在宅で必要な支援策

②　平成 28 年度

・平成 28 年度は、高齢者の住まいのアセスメントの仕組みと指標を考える検討会を開催し、事例集やガイドブック等を作成する。

手法５　高齢者の住まいのアセスメント検討会（事例検討）

【目的】　上記の調査結果から類型化を行い、さらに同居・独居等などの本人・家族を取り巻く状況に分けて詳細化し、事例検討を行う。それにより現状の住まいの問題点・課題、また将来考えられる住まいの問題点等も探り、ケアプラン反映シート、チェックリスト等を作成する。

【方法】　事例検討会（ワークショップ）での話し合い

【対象】　住まいのアセスメントが必要だと考えられる事例（20 事例程度）

【内容】　①本人・家族、取り巻く環境、サービス、関係者の関係図
②住まいの間取り
③調査結果の提示　④ケアプランの分析

【成果】　①住まいアセスメント（フレームの作成、アセスメント項目の設定等）
②住まい・生きがいアセスメントシート（住まいプラン）の作成
③多様な専門職が活用できる事例集やガイドブック等作成

第２章　坂井地区の現状

1　超高齢社会に向けた地区の課題

・坂井地区は、福井県北部に位置し、あわら市と坂井市で構成されている。平成 27 年４月現在、坂井地区の人口は 11 万 8,984 人、世帯数は 39,337 世帯である。

図表２－１－１　坂井地区の人口と世帯

・面積　326.9㎢
・人口　11 万 8984 人
あわら市　28,653 人
坂井市　90,331 人
（平成 27 年 4 月 1 日現在）
・世帯　39,337 世帯
あわら市　9,590 世帯
坂井市　29,747 世帯

・坂井地区の年齢３区分別人口をみると、年少人口が 16,331 人、生産年齢人口が 70,306 人、高齢者人口が 32,103 人となっている。また、坂井地区における前期高齢者人口と後期高齢者人口は 16,060 人、16,043 人とほぼ同数となっている。

図表２－１－２　坂井地区の年齢３区分別人口

（単位：人）

人口		合計	あわら市	坂井市
年少人口（0～14歳）		16,331	3,335	12,996
生産年齢人口（15～64歳）		70,306	16,500	53,806
高齢者人口（65歳以上）		32,103	8,793	23,310
	前期高齢者人口（65～74歳）	16,060	4,294	11,766
	後期高齢者人口（75歳以上）	16,043	4,499	11,544
年齢不詳		244	25	219
合計		118,984	28,653	90,331

（平成27年4月1日現在）

・坂井地区広域連合提供資料によれば、平成 32 年の高齢者人口は 34,264 人、高齢化率は 29.1%、平成 37 年の高齢者人口は 34,676 人、高齢化率は 30.9%に上昇することが予想されている。

・高齢者数の内訳をみると平成 27 年から平成 37 年までの間に、前期高齢者は減るのに対し、後期高齢者の人数が増えることが予想されている。

図表２－１－３　坂井地区の高齢者人口の推計

確定値←→推計値　（単位：人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成32年	平成37年
坂井地区の総人口	122,215人	121,558人	120,606人	117,557人	112,131人
65歳以上人口	32,732人	33,364人	33,775人	34,264人	34,676人
65～74歳	16,445人	16,815人	17,011人	17,361人	15,380人
75歳以上	16,287人	16,549人	16,764人	16,903人	19,296人
高齢化率	26.8%	27.4%	28.0%	29.1%	30.9%

各年10月1日推計

・要介護認定者数と認定率については、高齢化の進行、特に後期高齢者数の増加により、増加・上昇することが予想されている。平成 27 年には 5,883 人であった認定者数が平成 37 年には 7,042 人になると推計されている。
・この取組みを通して、住み続けられる住まいの実現はもとより、真に施設を必要とする方へのサポート、在宅・施設が連続したケア、給付の適正化等、さまざまな面から坂井地区の介護保険の質の向上をめざしたいと考える。

図表２－１－４　坂井地区の要介護認定者の推計

確定値←→推計値　（単位：人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成32年	平成37年
認定者数	5,883人	6,179人	6,417人	6,725人	7,042人
要支援	1,166人	1,200人	1,225人	1,287人	1,348人
要介護	4,717人	4,979人	5,192人	5,438人	5,694人
認定率	17.7%	18.3%	18.8%	19.4%	20.1%

各年9月末

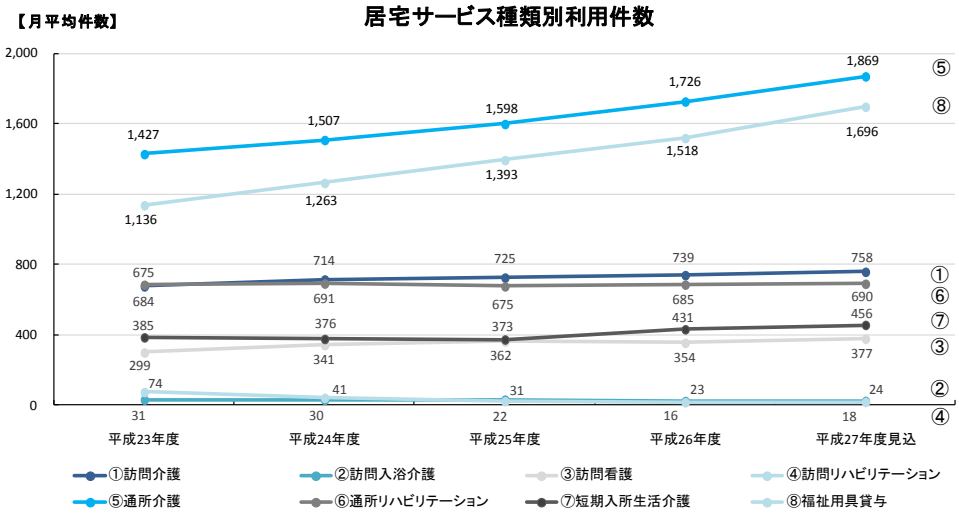
出典：坂井地区広域連合提供資料より

２　坂井地区の介護保険サービス

（１）サービス利用の特徴

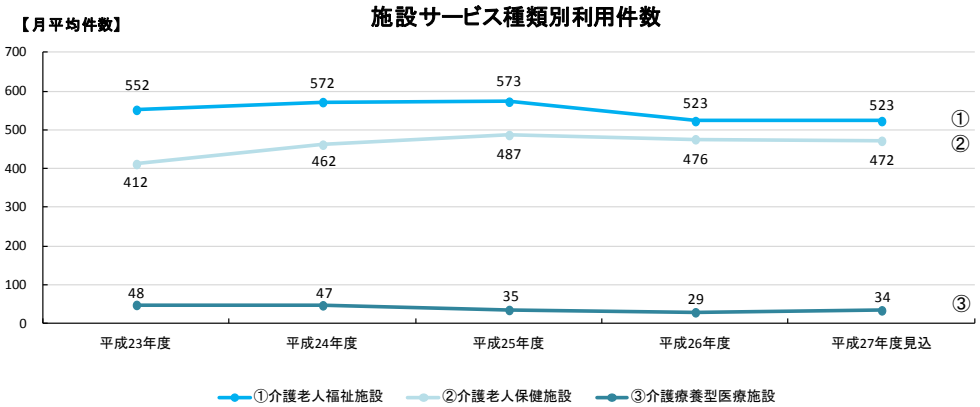
・坂井地区介護保険サービスの平成 21 年度～平成 27 年度の利用実績（見込み）によれば、８つの居宅サービスの中では通所介護の利用が最も多く月平均件数は 1,869 件であった。同様に福祉用具貸与の利用も多くまた増加しており、平成 26 年度の月平均件数は 1,518 件だった。以上のことから坂井地区では通所系サービスと福祉用具の利用が活発であることが分かる。

図表２－２－１　坂井地区の居宅サービス種類別利用件数
（坂井地区広域連合提供資料より作成）



・同様に、施設サービスの利用をみると、介護老人福祉施設の利用が最も多く月平均件数は 523 件であった。施設サービスの利用は今後も横ばいの見通しであるが、直近のデータによれば利用件数の伸びが指摘されており、その精査が必要となっている。

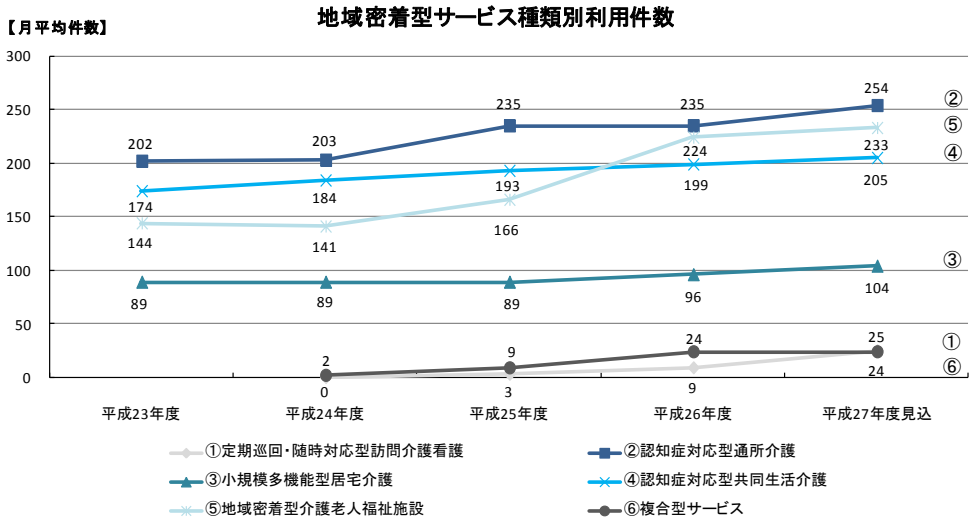
図表２－２－２　坂井地区の施設サービス種類別利用件数
（坂井地区広域連合提供データより作成）



・地域密着型サービス種類別利用件数をみると、認知症対応型通所介護の利用が最も多く、月平均件数は 254 件となっている。また、地域密着型介護老人福祉施設の利用が伸びている。

・定期巡回・随時対応型訪問介護看護や小規模多機能型居宅介護は整備状況の関係もあり大きくは伸びていない状況にある。

図表２－２－３　坂井地区の地域密着型サービス種類別利用件数
（坂井地区広域連合提供データより作成）



（２）地域資源の現状

・坂井地区を構成するあわら市・坂井市は、それぞれ金津町・芦原町の旧２町、三国町・坂井町・丸岡町・春江町の旧４町が合併してできた市であり、坂井地区の日常生活圏域も、６圏域から構成されてきた。こうした町の成り立ちの経過をふまえ、介護保険サービスの整備も、旧６町エリアごとに進められてきている。

・このことから、拠点となる特別養護老人ホーム・介護老人保健施設や、居宅サービスや医療機関についても旧町の中心部に集積がみられる。また、地域密着型サービスである認知症対応型共同生活介護（グループホーム）も三国町・坂井町・丸岡町にはそれぞれ３施設ずつ整備されるなど、生活圏域ごとにサービス基盤整備が進められてきている。

・また坂井地区には、医療機関、介護保険施設、居住系サービス・居宅サービスを幅広く運営・提供する医療法人や社会福祉法人が活動しており、地域の地域包括ケアシステムの基盤づくりに寄与してきた。

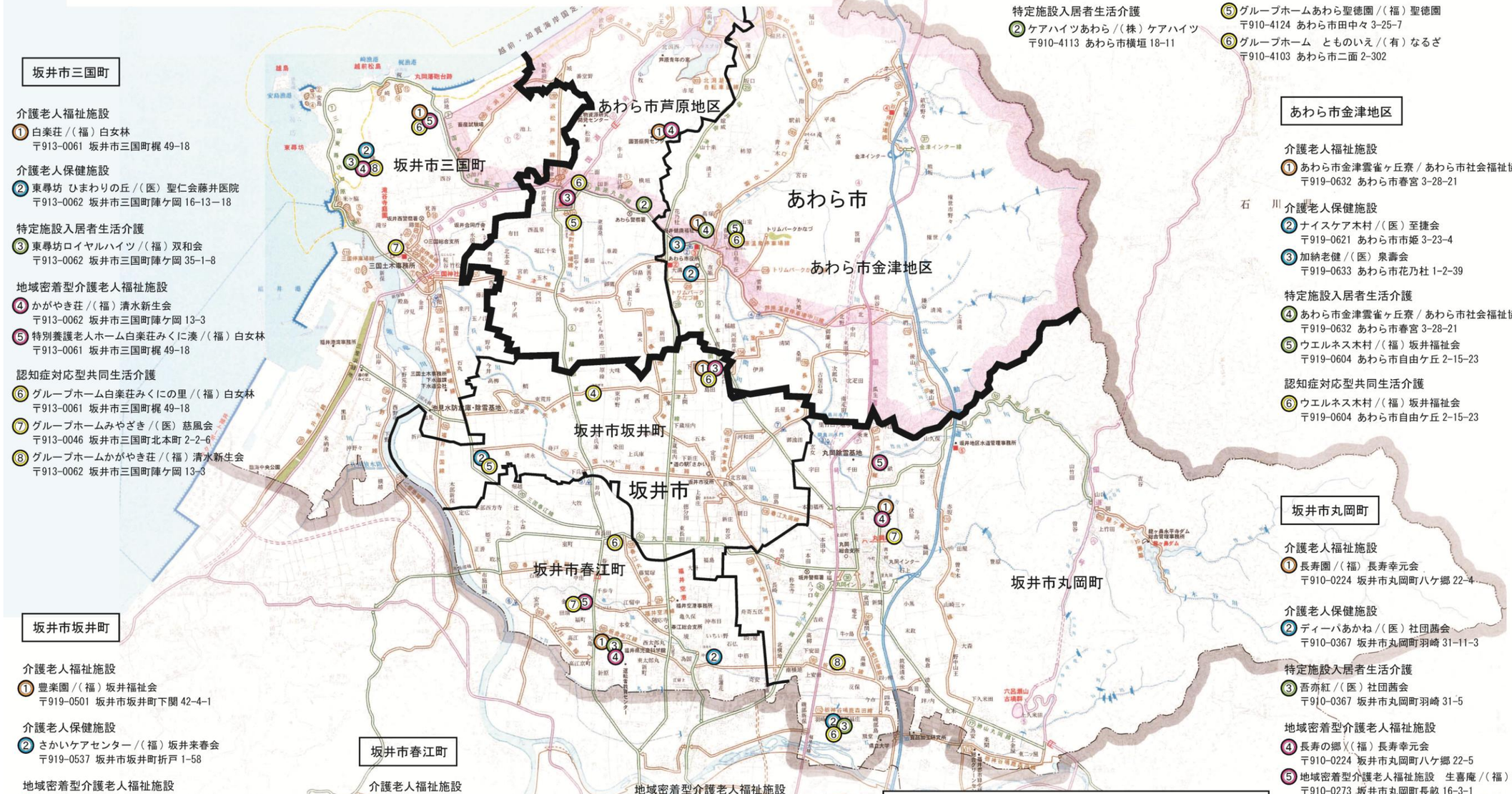
・以上のように、坂井地区では日常生活圏域ごとの条件整備が進められていることから、今後の地域包括ケアシステムの構築にあたっては、在宅・施設が連携したケアマネジメントの充実、介護保険サービスの提供、医療・介護の円滑な連携が鍵になると考えられる。

図表２－２－４　坂井地区における介護保険施設・居住系サービスの一覧

平成 28 年 . 3. 1 現在

坂井地区における介護保険施設・居住系サービスの一覧

（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護）



坂井市三国町

介護老人福祉施設

① 白楽荘 /（福）白女林
〒913-0061 坂井市三国町梶 49-18

介護老人保健施設

② 東尋坊 ひまわりの丘 /（医）聖仁会藤井医院
〒913-0062 坂井市三国町陣ケ岡 16-13－18

特定施設入居者生活介護

③ 東尋坊ロイヤルハイツ /（福）双和会
〒913-0062 坂井市三国町陣ケ岡 35-1-8

地域密着型介護老人福祉施設

④ かがやき荘 /（福）清水新生会
〒913-0062 坂井市三国町陣ケ岡 13-3

⑤ 特別養護老人ホーム白楽荘みくに湊 /（福）白女林
〒913-0061 坂井市三国町梶 49-18

認知症対応型共同生活介護

⑥ グループホーム白楽荘みくにの里 /（福）白女林
〒913-0061 坂井市三国町梶 49-18

⑦ グループホームみやざき /（医）慈風会
〒913-0046 坂井市三国町北本町 2-2-6

⑧ グループホームかがやき荘 /（福）清水新生会
〒913-0062 坂井市三国町陣ケ岡 13-3

あわら市芦原地区

介護老人福祉施設

① 芦原メロン苑 /（福）緑進会
〒910-4112 あわら市井江葭 50-18

特定施設入居者生活介護

② ケアハイツあわら /（株）ケアハイツ
〒910-4113 あわら市横垣 18-11

地域密着型介護老人福祉施設

③ 湯の町メロン苑 /（福）緑進会
〒910-4103 あわら市二面 42-20

④ 地域密着型特別養護老人ホーム　芦原メロン苑 /（福）緑進会
〒910-4112 あわら市井江葭 50-18

認知症対応型共同生活介護

⑤ グループホームあわら聖徳園 /（福）聖徳園
〒910-4124 あわら市田中々 3-25-7

⑥ グループホーム　とものいえ /（有）なるざ
〒910-4103 あわら市二面 2-302

あわら市金津地区

介護老人福祉施設

① あわら市金津雲雀ヶ丘寮 / あわら市社会福祉協議会
〒919-0632 あわら市春宮 3-28-21

介護老人保健施設

② ナイスケア木村 /（医）至捷会
〒919-0621 あわら市市姫 3-23-4

③ 加納老健 /（医）泉壽会
〒919-0633 あわら市花乃杜 1-2-39

特定施設入居者生活介護

④ あわら市金津雲雀ヶ丘寮 / あわら市社会福祉協議会
〒919-0632 あわら市春宮 3-28-21

⑤ ウエルネス木村 /（福）坂井福祉会
〒919-0604 あわら市自由ケ丘 2-15-23

認知症対応型共同生活介護

⑥ ウエルネス木村 /（福）坂井福祉会
〒919-0604 あわら市自由ケ丘 2-15-23

坂井市坂井町

介護老人福祉施設

① 豊楽園 /（福）坂井福祉会
〒919-0501 坂井市坂井町下関 42-4-1

介護老人保健施設

② さかいケアセンター /（福）坂井来春会
〒919-0537 坂井市坂井町折戸 1-58

地域密着型介護老人福祉施設

③ 地域密着型介護老人福祉施設　潟池野 /（福）坂井福祉会
〒919-0501 坂井市坂井町下関 42-4-2

認知症対応型共同生活介護

④ 県民せいきょう坂井きらめきグループホーム / 福井県民生協
〒919-0547 坂井市坂井町大味 56 号

⑤ グループホームさかい /（福）坂井来春会
〒919-0537 坂井市坂井町折戸 1-58

⑥ 認知症対応型共同生活介護　潟池野 /（福）坂井福祉会
〒919-0501 坂井市坂井町下関 42-4-2

坂井市春江町

介護老人福祉施設

① ガーデンハイツ春江 /（福）双和会
〒919-0476 坂井市春江町針原 48-28-1

介護老人保健施設

② ライフケアはるさか /（医）松福会
〒919-0449 坂井市春江町中筋 100-77

特定施設入居者生活介護

③ ケアハウス　スプリングヒルズ /（福）双和会
〒919-0474 坂井市春江町西太郎丸 21-12-1

地域密着型介護老人福祉施設

④ プライムハイツ春江 /（福）双和会
〒919-0476 坂井市春江町針原 59-2

⑤ ケアセンターゆり /（福）坂井来春会
〒919-0473 坂井市春江町本堂 27-1-1

認知症対応型共同生活介護

⑥ グループホームすいせん春江 /（株）すいせん
〒910-0404 坂井市春江町西長田 15-43-4

⑦ グループホームゆり /（福）坂井来春会
〒919-0473 坂井市春江町本堂 27-1-1

凡例

- 介護老人福祉施設
- 介護老人保健施設
- 特定施設入居者生活介護
- 地域密着型介護老人福祉施設
- 認知症対応型共同生活介護

坂井市丸岡町

介護老人福祉施設

① 長寿園 /（福）長寿幸元会
〒910-0224 坂井市丸岡町八ケ郷 22-4

介護老人保健施設

② ディーパあかね /（医）社団茜会
〒910-0367 坂井市丸岡町羽崎 31-11-3

特定施設入居者生活介護

③ 吾亦紅 /（医）社団茜会
〒910-0367 坂井市丸岡町羽崎 31-5

地域密着型介護老人福祉施設

④ 長寿の郷 /（福）長寿幸元会
〒910-0224 坂井市丸岡町八ケ郷 22-5

⑤ 地域密着型介護老人福祉施設　生喜庵 /（福）生喜会
〒910-0273 坂井市丸岡町長畝 16-3-1

認知症対応型共同生活介護

⑥ あかねの里 /（医）社団茜会
〒910-0367 坂井市丸岡町羽崎 31-11-3

⑦ グループホーム　まるおか /（有）ライフサポート
〒910-0224 坂井市丸岡町八ケ郷 23-19-3

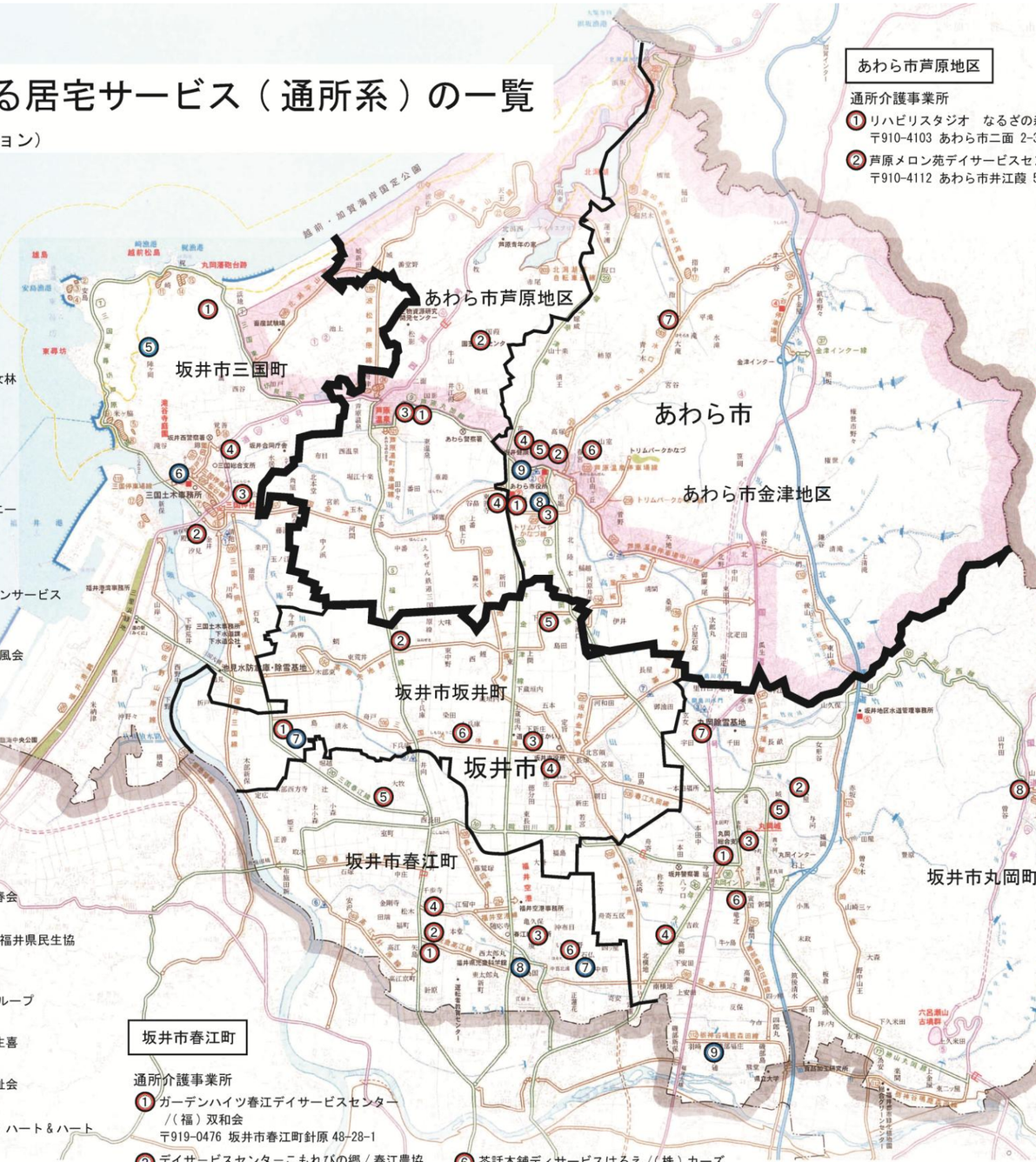
⑧ グループホーム　しおんの里 /（福）城久会
〒910-0361 坂井市丸岡町安田新 4-3-1

図表２－２－５　坂井地区における居宅サービス（通所系）の一覧

平成 28 年 . 3. 1 現在

坂井地区における居宅サービス（通所系）の一覧

（通所介護、通所リハビリテーション）



あわら市芦原地区

通所介護事業所

1. リハビリスタジオ　なるざの森 /（有）なるざ
   〒910-4103 あわら市二面 2-301
2. 芦原メロン苑デイサービスセンター /（福）緑進会
   〒910-4112 あわら市井江葭 50-18
3. 地域密着型特別養護老人ホーム　芦原メロン苑 /（福）緑進会
   〒910-4112 あわら市井江葭 50-18
4. 坂井地区医師会デイサービスセンター /（一社）坂井地区医師会
   〒910-4131 あわら市東善寺 5-27

坂井市三国町

通所介護事業所

1. デイサービスセンターあじさい園 /（福）白女林
   〒913-0061 坂井市三国町梶 49-18
2. デイハウスいってこさ /(NPO) 汐騒
   〒913-0026 坂井市三国町殿島 5-23
3. アプトケア・三国 /（株）アプト
   〒913-0016 坂井市三国町三国東 2-9-23
4. リハビリデイサービスあすなろ /（株）コーエー
   〒913-0041 坂井市三国町覚善 8-65-1

通所リハビリテーション事業所

5. 東尋坊ひまわりの丘　通所リハビリテーションサービス /（医）聖仁会 藤井医院
   〒913-0062 坂井市三国町陣ヶ岡 16-13-18
6. 宮崎病院 通所リハビリテーション /（医）慈風会
   〒913-0046 坂井市三国町北本町 2-2-6

あわら市金津地区

通所介護事業所

1. みんなの家大溝 /（株）森川在宅介護支援開発
   〒919-0628 あわら市大溝 3-4-32
2. デイサービス　みんなの家 /（株）森川在宅介護支援開発
   〒919-0632 あわら市春宮二丁目 29-17
3. コンフォガーデン木村　デイサービスセンター /（福）坂井福祉会
   〒919-0621 あわら市市姫三丁目 24-8
4. デイサービスセンター あわらサンホーム /（福）金津福祉会
   〒919-0633 あわら市花乃杜 3 丁目 22-32
5. あわら市金津雲雀ヶ丘寮デイサービスセンター /（福）あわら市社会福祉協議会
   〒919-0632 あわら市春宮 3 丁目 28-21
6. ウエルネス木村 /（福）坂井福祉会
   〒919-0604 あわら市自由ケ丘 2-15-23
7. 細川接骨院デイサービスセンター /（有）リコンディション
   〒919-0805 あわら市滝 7-21

通所リハビリテーション事業所

8. ナイスケア木村 /（医）至捷会
   〒919-062 あわら市市姫 3-2 3-4
9. 加納病院 加納デイケア /（医）泉壽会
   〒919-0633 あわら市花乃杜 1-2-39

坂井市坂井町

通所介護事業所

1. さかいディサービスセンター /（福）坂井来春会
   〒919-0537 坂井市坂井町折戸 1-58
2. 県民せいきょう坂井きらめきデイサービス / 福井県民生協
   〒919-0547 坂井市坂井町大味 56
3. デイサービス　リハビリセンター　木の花 /（有）トゥモローズリハビリテーショングループ
   〒919-0521 坂井市坂井町下新庄 18-15-1
4. デイサービスセンターさかい生喜庵 /（株）生喜
   〒919-0522 坂井市坂井町上新庄第 40-59
5. 豊楽園デイサービスセンター /（福）坂井福祉会
   〒919-0501 坂井市坂井町下関 42-4-1
6. デイサービス　リハビリハウス陽和緑 /（株）ハート＆ハート
   〒919-0526 坂井市坂井町上兵庫 60-27
   デイサービスリハビリハウス陽和緑

通所リハビリテーション事業所

7. 坂井ケアセンター通所リハビリテーション /（福）坂井来春会
   〒919-0537 坂井市坂井町折戸 1-58

坂井市春江町

通所介護事業所

1. ガーデンハイツ春江デイサービスセンター /（福）双和会
   〒919-0476 坂井市春江町針原 48-28-1
2. デイサービスセンターこもれびの郷 / 春江農協
   〒919-0473 坂井市春江町本堂 23-21
3. デイサービスいこいはるえ /（株）アットホーム
   〒919-0432 坂井市春江町為国亀ケ久保 134
4. ゆりデイサービスセンター /（福）来春会
   〒919-0473 坂井市春江町本堂 27-1-1
5. Be' 健ハウス /（株）島田整骨院グループ
   〒919-0406 坂井市春江町下小森 1-3-1
6. 茶話本舗ディサービスはるえ /（株）カーズ
   〒919-0424 坂井市春江町いちい野 514

通所リハビリテーション事業所

7. 通所リハビリテーション　はるさか /（医）松福会
   〒919-0449 坂井市春江町中筋 100-77
8. 通所リハビリ カルミア春江 /（医）博俊会
   〒919-0414 坂井市春江町江留下屋敷 54-1

坂井市丸岡町

通所介護事業所

1. デイサービスセンターはなさき / 花咲ふくい農協
   〒910-0254 坂井市丸岡町一本田 33-14
2. 坂井市社会福祉協議会　霞の郷デイサービスセンター /（福）坂井市社会福祉協議会
   〒910-0224 坂井市丸岡町八ケ郷 21-7-1
3. すいせんの家　ディサービス /(NPO) すいせんの家
   〒910-0231 坂井市丸岡町霞町 1-23
4. すいせんの家　横地 /(NPO) すいせんの家
   〒910-0374 坂井市丸岡町北横地 38-2-1
5. まるおかデイサービスセンター /（有）ライフサポート
   〒910-0224 坂井市丸岡町八ヶ郷 23-19-3
6. 長寿園デイサービスセンター　りらく /（福）長寿幸元会
   〒910-0246 坂井市丸岡町西瓜屋 6-17
7. デイサービス 和みの里 /（株）コーワ
   〒910-0276 坂井市丸岡町玄女 18-24-1
8. デイサービス　山のいえ　笑楽日 /（有）ダイケイ
   〒910-0203 坂井市丸岡町山口 59-13

認知症対応型共同生活介護

9. ディーパあかね /（医）茜会
   〒910-0367 坂井市丸岡町羽崎 31-11-3

凡例

- 通所介護事業所
- 通所リハビリテーション事業所

第３章　坂井地区の要介護高齢者の在宅生活と住まいの現状

＜図表のみかた＞

１　回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はＮ（Number of case)、それ以外の場合には n と表記しています。

２　%は小数点以下２位を四捨五入し、小数点以下第１位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも 100.0%にならない場合（例えば 99.9%、100.1%）

３　回答者が２つ以上回答することができる質問（複数回答）については、%の合計は 100%にならないことがあります。

手法１　事業所アンケート調査

（居宅支援サービス・介護保険施設入所申込調査）

１　調査概要

（１）調査の目的

居宅支援サービス・介護保険施設に対し、待機者の実態に関する調査を実施し、在宅での住まいや家族介護の現状と課題等に関する項目も加え、待機者の居宅支援サービス・施設ニーズの背景となる住まいや家族介護等の状況を探る。

（２）調査対象

居宅支援事業所	40 事業所	204 人
施設・居住系事業所	35 事業所	805 人

（３）調査方法

アンケート調査（待機者の照会に合わせて調査票を添付し、担当ケアマネジャーに回答いただく）（督促なし）

（４）調査時期

平成 27 年 12 月 1 日から平成 28 年 1 月 5 日

（５）回答結果

事業者に対する待機者調査

①居宅支援事業所	286 人
②施設・居住系事業所	255 人

（６）調査項目

（A）【居宅支援事業所向け調査項目】

調査項目	問番号	設　問
１基本属性	問１	要介護度
２状況と申込理由	問２	申込施設種別
	問３	居室形態
	問４	住まい環境
	問５	家族構成
	問６	主たる介護者の状況
	問７	主たる介護者の続柄
	問８	主たる介護者の年齢
	問９	介護サービスの利用状況

（B）【施設・居住系事業所向け調査項目】

調査項目	問番号	設　問
１基本属性	問１	要介護度
２状況と申込理由	問２	申込施設種別
	問３	居室形態
	問４	現在の療養先
	問５	主たる介護者の状況

２　調査結果

（１）調査結果のまとめ

①　基本属性

・居宅支援は、要介護度別にみると「要介護４」が 29.7%で最も多い。次いで「要介護３」が 28.0%となっている。施設・居住系も、「要介護４」が 22.0%で最も多い。次いで「要介護３」が 18.8%となっている。（居宅支援-問１，施設・居住系-問１）

②　居宅支援事業所向け調査の結果

・申込施設の種別では、「特別養護老人ホーム」が最も多く、60.1%で全体の約６割を占めている。（居宅支援-問２）
・希望する施設の居室形態では、「ユニット型」が 45.1%で最も多い。（居宅支援-問３）
・住まい環境は、「持家」が 55.9%で最も多く半数以上である。（居宅支援-問 4）
・家族構成は、「家族などと同居」が 60.1%で最も多く、「二人暮らし」の 20.2%を合わせた同居の割合は半数を占める。「独居」は 15.7%である。（居宅支援-問 5）
・主たる介護者の状況では、「主たる介護者が就労中」が 46.2%で最も多い。次いで「主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中」が 29.4%であり、以上の２つの回答で、全体の４分の３を占めている。（居宅支援-問 6）
・主たる介護者の続柄では、「娘」や「息子」の子どもの合計が約３割を占め、「配偶者」は 15.0%となっている。（居宅支援-問 7）
・主たる介護者の年齢では、「65 歳未満」34.6%、「65 歳以上」24.5%という割合で、約４人に１人が高年齢層となっている。（居宅支援-問 8）
・介護サービスの利用状況は、「短期入所生活介護（ショートステイ）」が 60.1%で最も多く６割を占めている。次いで「福祉用具貸与」（40.4%）、「通所介護」（39.3%）の利用も多い。（居宅支援-問 9）
・要介護度別にみた申込施設種別は、要支援２から要介護５まで「特別養護老人ホーム」の割合が高く、「要介護４」は 74.1%となっている。要支援１は、「介護老人保健施設」が８割を占めている。
・要介護度別にみた主たる介護者の状況は、要介護１から５まで「主たる介護者が就労中」の割合が高く、要介護２は 68.2%で６割強となっている。

③　施設・居住系事業所向け調査の結果

・施設種別では、「特別養護老人ホーム」が 61.2%で最も多く６割を占めている。次いで「老人保健施設」が 20.0%である。（施設・居住系-問２）
・希望する施設の居室形態では、「従来型」が 54.1%で半数以上を占めている。「ユニット型」は 36.1%となっている。（施設・居住系-問３）
・現在の療養先では、「医療機関（病院）」が 40.4%が最も多い。続く「老人保健施設」は 16.5%、「その他（ケアハウス・有料老人ホーム等）」は 15.3%で大きく上回っている。（施設・居住系-問４）

・主たる介護者の状況では、「主たる介護者が就労中」が 35.7%で最も多い。次いで「主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中」で 19.2%となっている。（施設・居住系-問 5）
・要介護度別にみた申込施設種別は、「特別養護老人ホーム」が軽度から高度まで割合が高い。要支援１は６割、要支援２は７割と軽度の高さも目立つ。
・要介護度別にみた主たる介護者の状況は、要介護１の「主たる介護者が就労中」が 66.7%で最も多い。

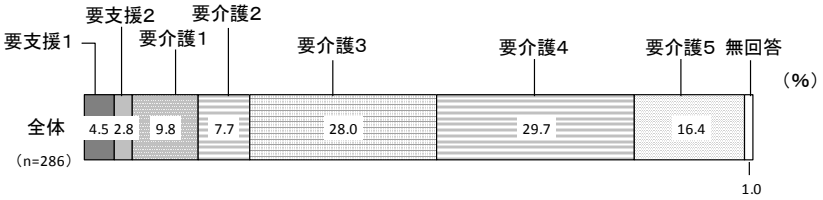
（２）基本属性

①　要介護度（居宅支援-問１，施設・居住系-問１）

要介護度は、居宅支援では「要介護 4」が 29.7%で最も多い。次いで「要介護３」が 28.0%、「要介護５」が 16.4%、「要介護１」が 9.8%と続いている。

施設・居住系では、「要介護４」が 22.0%で最も多い。次いで「要介護３」が 18.8%、「要支援１」が 18.4%、「要介護５」が 18.0%と続いている。

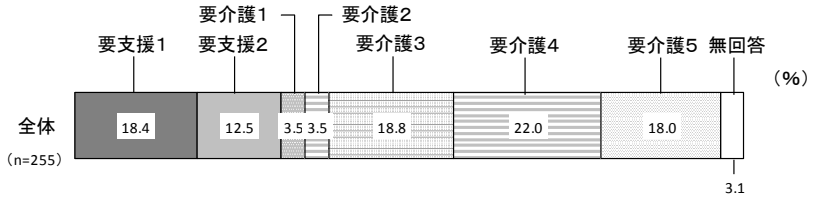
図表３－１－１　要介護度構成比（居宅支援）（全体）



［上段:n、下段:%］

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
全体 286	13	8	28	22	80	85	47	3
100.0	4.5	2.8	9.8	7.7	28.0	29.7	16.4	1.0

図表３－１－２　要介護度構成比（施設・居住系）（全体）



［上段:n、下段:%］

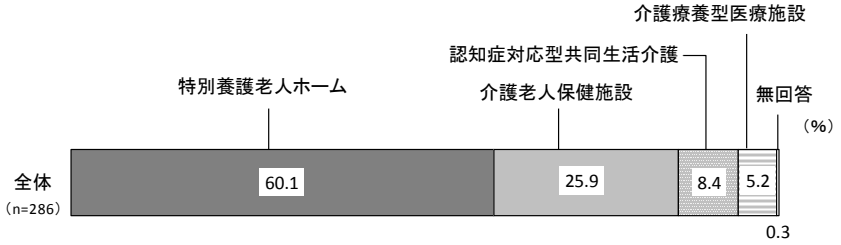
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
全体 255	47	32	9	9	48	56	46	8
100.0	18.4	12.5	3.5	3.5	18.8	22.0	18.0	3.1

（３）状況と申込理由（居宅支援事業所向け調査の結果）

①　申込施設種別（居宅支援-問２）

申込施設の種別は、「特別養護老人ホーム」が 60.1%で全体の約６割を占めている。次に多いのが「介護老人保健施設」の 25.9%で４分の１弱の割合を占め、「認知症対応型共同生活介護」や「介護療養型医療施設」はそれぞれ 8.4%、5.2%にとどまっている。

図表３－１－３　申込施設種別構成比（居宅支援）（全体）



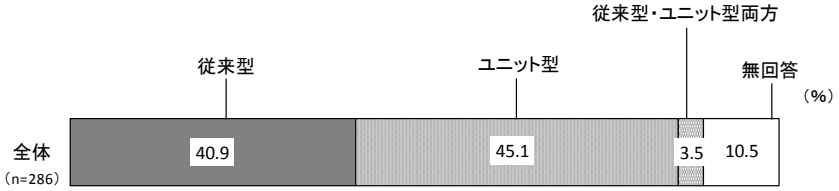
［上段:n、下段:%］

		特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	認知症対応型共同生活介護	介護療養型医療施設	無回答
全体	286	172	74	24	15	1
	100.0	60.1	25.9	8.4	5.2	0.3

②　居室形態（居宅支援-問３）

希望する施設の居室形態は、「ユニット型」が 45.1%で最も多い。次いで「従来型」が 40.9%、「従来型・ユニット型両方」が 3.5%と続いている。

図表３－１－４　居室形態の構成比（居宅支援）（全体）



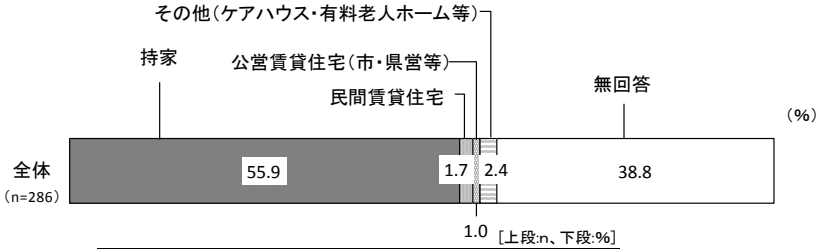
［上段:n、下段:%］

		従来型	ユニット型	従来型・ユニット型両方	無回答
全体	286	117	129	10	30
	100.0	40.9	45.1	3.5	10.5

③　住まい環境（居宅支援-問４）

住まいの環境は、「持家」が 55.9%で最も多くなっている。

図表３－１－５　住まい環境の構成比（居宅支援）（全体）



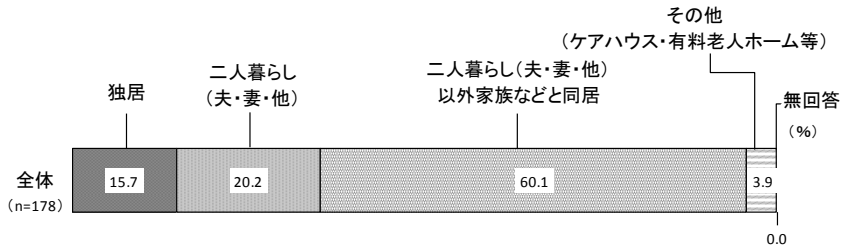
［上段:n、下段:%］

	持家	民間賃貸住宅	公営賃貸住宅（市・県営等）	その他（ケアハウス・有料老人ホーム等）	無回答
全体 286 / 100.0	160 / 55.9	5 / 1.7	3 / 1.0	7 / 2.4	111 / 38.8

④　家族構成（居宅支援-問５）

家族構成別割合は、「家族などと同居」が最も多く 60.1%を占める。「二人暮らし」（20.2%）や「独居」（15.7%）であった。

図表３－１－６　家族構成比（居宅支援）（全体）



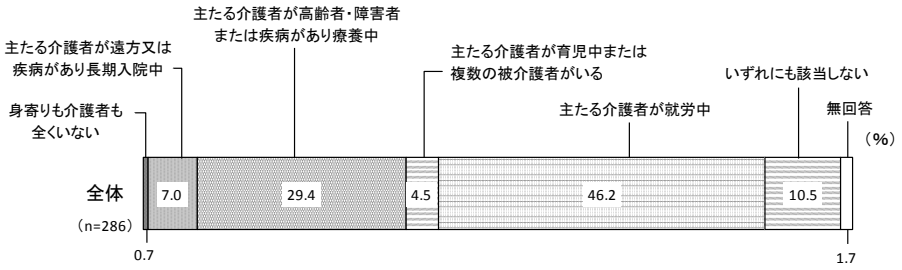
［上段:n、下段:%］

	独居	二人暮らし（夫・妻・他）	二人暮らし（夫・妻・他）以外家族などと同居	その他（ケアハウス・有料老人ホーム等）	無回答
全体 178 / 100.0	28 / 15.7	36 / 20.2	107 / 60.1	7 / 3.9	0 / 0.0

⑤　主たる介護者の状況（居宅支援-問６）

主たる介護者の状況は、「主たる介護者が就労中」が 46.2%で最も多い。次いで「主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中」が 29.4%と約３割を占める。

図表３－１－７　主たる介護者の状況の構成比（居宅支援）（全体）



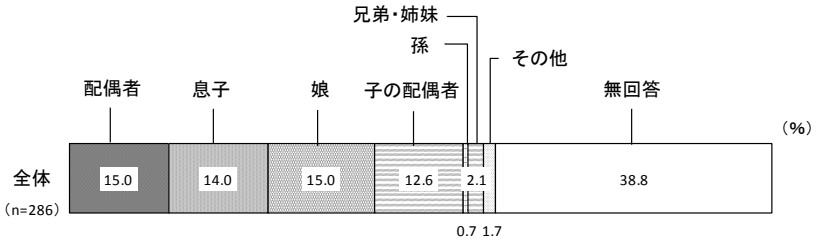
［上段:n、下段:%］

	身寄りも介護者も全くいない	主たる介護者が遠方又は疾病があり長期入院中	主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中	主たる介護者が育児中または複数の被介護者がいる	主たる介護者が就労中	いずれにも該当しない	無回答
全体 286	2	20	84	13	132	30	5
100.0	0.7	7.0	29.4	4.5	46.2	10.5	1.7

⑥　主たる介護者の続柄（居宅支援-問７）

主たる介護者の続柄は、「娘」（15.0%）と「息子」（14.0%）の子どもが合わせて約３割を占め、次いで「配偶者」（15.0%）、「子の配偶者」（12.6%）の順となっている。

図表３－１－８　主たる介護者の続柄の構成比（居宅支援）（全体）



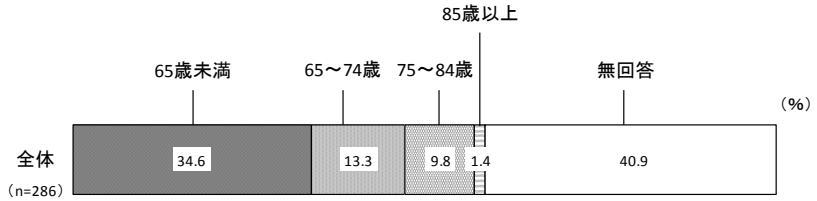
［上段:n、下段:%］

	配偶者	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体 286	43	40	43	36	2	6	5	111
100.0	15.0	14.0	15.0	12.6	0.7	2.1	1.7	38.8

⑦　主たる介護者の年齢（居宅支援-問８）

主たる介護者の年齢は、「65 歳未満」が 34.6%で最も多くなっている。「65～74 歳未満」13.3%、「75～84 歳未満」9.8%、「85 歳以上」1.4%で、65 歳以上は合わせて 24.5%であった。

図表３－１－９　主たる介護者の年齢の構成比（居宅支援）（全体）



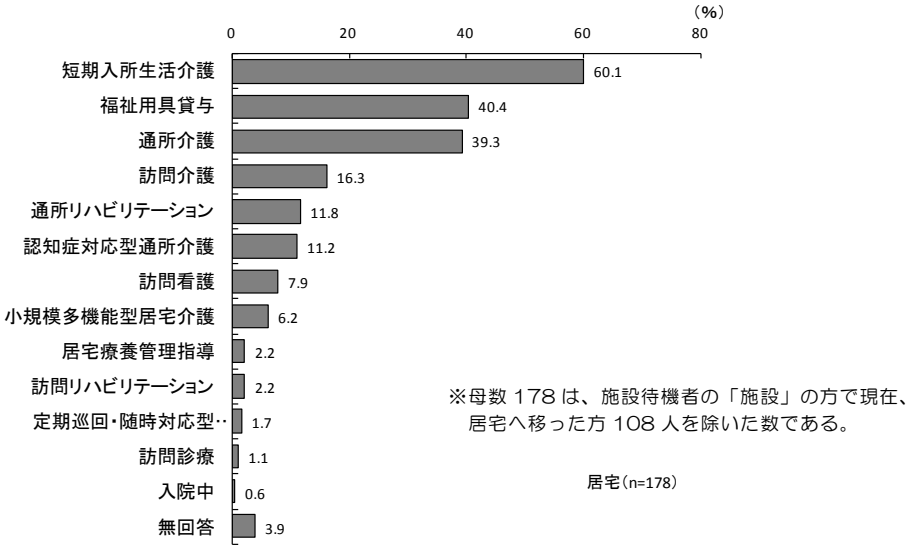
［上段:n、下段:%］

	65歳未満	65～74歳	75～84歳	85歳以上	無回答
全体 286 / 100.0	99 / 34.6	38 / 13.3	28 / 9.8	4 / 1.4	117 / 40.9

⑧　介護サービスの利用状況（居宅支援-問９）

利用サービス別割合は、「短期入所生活介護」（60.1%）、「福祉用具貸与」（40.4%）、「通所介護」（39.3%）の順に高く、「訪問介護」や「訪問看護」はそれぞれ 16.3%、7.9%であった。

図表３－１－１０　介護サービスの利用状況（居宅支援）（全体：複数回答）



［上段:n、下段:%］

	短期入所生活介護	福祉用具貸与	通所介護	訪問介護	通所リハビリテーション	認知症対応型通所介護	訪問看護	小規模多機能型居宅介護	居宅療養管理指導	訪問リハビリテーション	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	訪問診療	入院中	無回答
全体 178 / 100.0	107 / 60.1	72 / 40.4	70 / 39.3	29 / 16.3	21 / 11.8	20 / 11.2	14 / 7.9	11 / 6.2	4 / 2.2	4 / 2.2	3 / 1.7	2 / 1.1	1 / 0.6	7 / 3.9

⑨　要介護度別申込施設種別（居宅支援）

要介護度別にみた申込施設種別の区分では、「要支援２」は「特別養護老人ホーム」が約６割を占める。「要介護１」以上では「特別養護老人ホーム」の割合が４割台から介護度が上がるにしたがって増加し、「要介護４」では７割に達している。

一方、「要支援１」は「介護老人保健施設」が84.6%で老人保健施設への希望が多い。

図表３－１－１１　申込施設種別（居宅支援）（全体、要介護度別）

［上段:n、下段:%］

			特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	認知症対応型共同生活介護	介護療養型医療施設	無回答
全体		286 100.0	172 60.1	74 25.9	24 8.4	15 5.2	1 0.3
要介護度別	要支援1	13 100.0	2 15.4	11 84.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要支援2	8 100.0	5 62.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0
	要介護1	28 100.0	12 42.9	7 25.0	8 28.6	0 0.0	1 3.6
	要介護2	22 100.0	9 40.9	8 36.4	4 18.2	1 4.5	0 0.0
	要介護3	80 100.0	52 65.0	18 22.5	3 3.8	7 8.8	0 0.0
	要介護4	85 100.0	63 74.1	13 15.3	5 5.9	4 4.7	0 0.0
	要介護5	47 100.0	29 61.7	13 27.7	3 6.4	2 4.3	0 0.0
	無回答	3 100.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0

⑩　住まい環境（居宅支援）

施設待機者の居宅の方の住まいの状況を要介護度別みると、「要介護１～４」までが「持家」で６割以上となっている。「要介護５」は「持家」が 44.7%である。

図表３－１－１２　住まい環境（居宅支援）（全体、要介護度別）

[上段:n、下段:%]

			持家	民間賃貸住宅	公営賃貸住宅（市・県営等）	その他（ケアハウス・有料老人ホーム等）	無回答
全体		286 100.0	160 55.9	5 1.7	3 1.0	7 2.4	111 38.8
要介護度別	要支援1	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 100.0
	要支援2	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 100.0
	要介護1	28 100.0	18 64.3	1 3.6	0 0.0	3 10.7	6 21.4
	要介護2	22 100.0	15 68.2	0 0.0	1 4.5	2 9.1	4 18.2
	要介護3	80 100.0	48 60.0	1 1.3	0 0.0	1 1.3	30 37.5
	要介護4	85 100.0	58 68.2	1 1.2	2 2.4	1 1.2	23 27.1
	要介護5	47 100.0	21 44.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	24 51.1
	無回答	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0

⑪　主たる介護者の状況（居宅支援）

主たる介護者の状況を要介護度別にみると、「主たる介護者が就労中」という回答が「要介護 1」は 53.6%、「要介護 2」は 68.2%となっている。

図表３－１－１３　主たる介護者の状況（居宅支援）（全体、要介護度別）

［上段:n、下段:%］

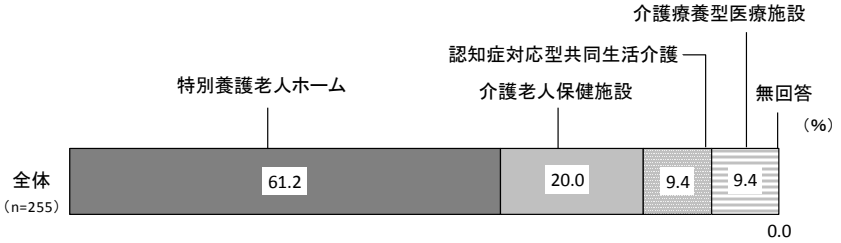
			身寄りも介護者も全くいない	主たる介護者が遠方又は疾病があり長期入院中	主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中	主たる介護者が育児中または複数の被介護者がいる	主たる介護者が就労中	いずれにも該当しない	無回答
全体		286	2	20	84	13	132	30	5
		100.0	0.7	7.0	29.4	4.5	46.2	10.5	1.7
要介護度別	要支援1	13	0	0	7	1	5	0	0
		100.0	0.0	0.0	53.8	7.7	38.5	0.0	0.0
	要支援2	8	0	0	3	0	3	2	0
		100.0	0.0	0.0	37.5	0.0	37.5	25.0	0.0
	要介護1	28	1	3	3	3	15	2	1
		100.0	3.6	10.7	10.7	10.7	53.6	7.1	3.6
	要介護2	22	0	0	4	2	15	0	1
		100.0	0.0	0.0	18.2	9.1	68.2	0.0	4.5
	要介護3	80	1	9	28	1	32	8	1
		100.0	1.3	11.3	35.0	1.3	40.0	10.0	1.3
	要介護4	85	0	5	22	3	42	12	1
		100.0	0.0	5.9	25.9	3.5	49.4	14.1	1.2
	要介護5	47	0	2	16	3	20	5	1
		100.0	0.0	4.3	34.0	6.4	42.6	10.6	2.1
	無回答	3	0	1	1	0	0	1	0
		100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0

（４）状況と申込理由（施設・居住系事業所向け調査の結果）

①　施設種別（施設・居住系-問２）

施設の種別は、「特別養護老人ホーム」が 61.2%で最も多い。次いで「介護老人保健施設」が 20.0%、「認知症対応型共同生活介護」、「療養型医療施設」はそれぞれ 9.4%である。

図表３－１－１４　申込施設種別構成比（施設・居住系）（全体）



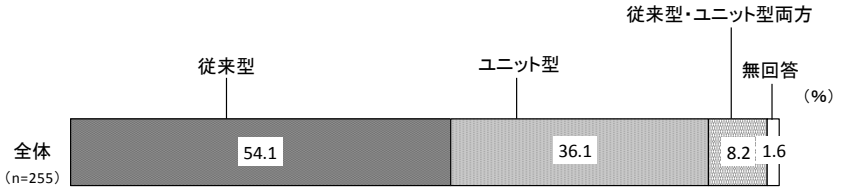
［上段:n、下段:%］

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	認知症対応型共同生活介護	介護療養型医療施設	無回答
全体 255	156	51	24	24	0
100.0	61.2	20.0	9.4	9.4	0.0

②　居室形態（施設・居住系-問３）

希望する施設の居室形態は、「従来型」が 54.1%で半数以上を占めている。「ユニット型」は 36.1%、「従来型・ユニット型両方」は 8.2%となっている。

図表３－１－１５　居室形態の構成比（施設・居住系）（全体）



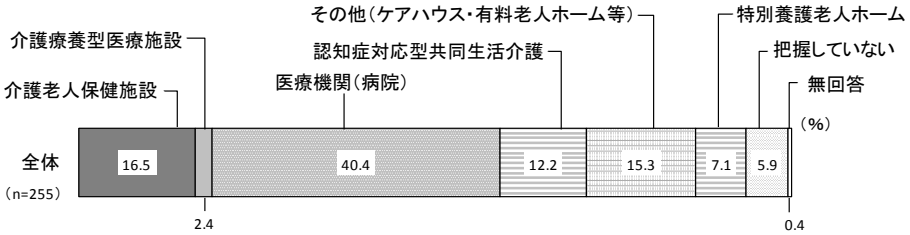
［上段:n、下段:%］

	従来型	ユニット型	従来型・ユニット型両方	無回答
全体 255	138	92	21	4
100.0	54.1	36.1	8.2	1.6

③　現在の療養先（施設・居住系-問４）

現在の療養先をみると、「医療機関（病院）」が 40.4%で最も多い。それ以外では「介護老人保健施設」（16.5%）、「その他（ケアハウス・有料老人ホーム等）」（15.3%）、「認知症対応型共同生活介護」（12.2%）と続いている。

図表３－１－１６　現在の療養先（施設・居住系）（全体）



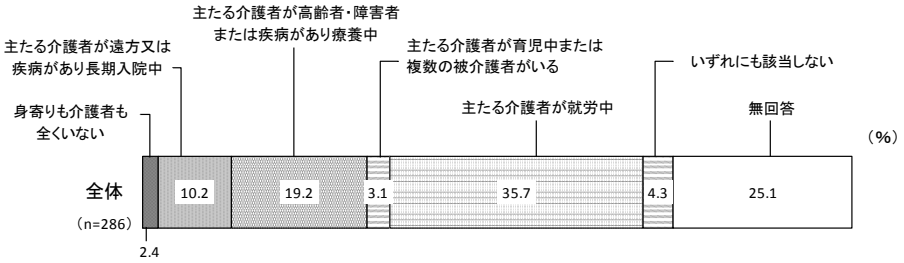
［上段:n、下段:%］

	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	医療機関（病院）	認知症対応型共同生活介護	その他（ケアハウス・有料老人ホーム等）	特別養護老人ホーム	把握していない	無回答
全体 255	42	6	103	31	39	18	15	1
100.0	16.5	2.4	40.4	12.2	15.3	7.1	5.9	0.4

④　主たる介護者の状況（施設・居住系-問５）

主たる介護者の状況は、「主たる介護者が就労中」が 35.7%で最も多い。次いで「主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中」で 19.2%、「主たる介護者が遠方又は疾病があり長期入院中」が 10.2%で続いている。

図表３－１－１７　主たる介護者の状況の構成比（施設・居住系）（全体）



［上段:n、下段:%］

		身寄りも介護者も全くいない	主たる介護者が遠方又は疾病があり長期入院中	主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中	主たる介護者が育児中または複数の被介護者がいる	主たる介護者が就労中	いずれにも該当しない	無回答
全体	255	6	26	49	8	91	11	64
	100.0	2.4	10.2	19.2	3.1	35.7	4.3	25.1

⑤　要介護度別申込施設種別（施設・居住系）

申込施設種別の区分を要介護度別にみると、「要支援１」、「要支援２」ともに「特別養護老人ホーム」が、それぞれ 61.7%、72.5%で多い。「要介護１」以上では「特別養護老人ホーム」の割合が４割強から介護度が上がるにしたがって増加し、「要介護５」では７割に達している。

図表３－１－１８　申込施設種別（施設・居住系）（全体、要介護度別）

［上段:n、下段:%］

			特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	認知症対応型共同生活介護	介護療養型医療施設	無回答
全体		255	156	51	24	24	0
		100.0	61.2	20.0	9.4	9.4	0.0
要介護度別	要支援1	47	35	5	3	4	0
		100.0	61.7	26.7	5.0	6.7	0.0
	要支援2	32	24	5	3	0	0
		100.0	72.5	17.5	10.0	0.0	0.0
	要介護1	9	6	2	1	0	0
		100.0	48.6	24.3	24.3	0.0	2.7
	要介護2	9	6	0	2	1	0
		100.0	48.4	25.8	19.4	6.5	0.0
	要介護3	48	19	9	6	14	0
		100.0	55.5	21.1	7.0	16.4	0.0
	要介護4	56	29	17	6	4	0
		100.0	65.2	21.3	7.8	5.7	0.0
	要介護5	46	37	6	2	1	0
		100.0	71.0	20.4	5.4	3.2	0.0
	無回答	8	0	8	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

⑥　主たる介護者の状況（施設・居住系）

主たる介護者の状況を要介護度別にみると、「主たる介護者が就労中」が「要介護 1」は 66.7%、「要介護 3」は 52.1%となっている。

図表３－１－１９　主たる介護者の状況（施設・居住系）（全体、要介護度別）

［上段:N、下段:%］

			身寄りも介護者も全くいない	主たる介護者が遠方又は疾病があり長期入院中	主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中	主たる介護者が育児中または複数の被介護者がいる	主たる介護者が就労中	いずれにも該当しない	無回答
全体		255	6	26	49	8	91	11	64
		100.0	2.4	10.2	19.2	3.1	35.7	4.3	25.1
要介護度別	要支援1	47	1	3	4	2	13	0	24
		100.0	2.1	6.4	8.5	4.3	27.7	0.0	51.1
	要支援2	32	0	4	8	3	10	0	7
		100.0	0.0	12.5	25.0	9.4	31.3	0.0	21.9
	要介護1	9	0	1	0	0	6	1	1
		100.0	0.0	11.1	0.0	0.0	66.7	11.1	11.1
	要介護2	9	0	2	4	0	3	0	0
		100.0	0.0	22.2	44.4	0.0	33.3	0.0	0.0
	要介護3	48	0	7	5	0	25	4	7
		100.0	0.0	14.6	10.4	0.0	52.1	8.3	14.6
	要介護4	56	2	8	14	1	19	3	9
		100.0	3.6	14.3	25.0	1.8	33.9	5.4	16.1
	要介護5	46	3	1	10	1	12	3	16
		100.0	6.5	2.2	21.7	2.2	26.1	6.5	34.8
	無回答	8	0	0	4	1	3	0	0
		100.0	0.0	0.0	50.0	12.5	37.5	0.0	0.0

手法２　家族向けアンケート調査

１　調査概要

（１）調査の目的

待機者調査に加え、家族向け調査についても実施を行い、施設入所申込理由や住まいの状況、介護負担感、療養場所の希望等についての詳しい状況を明らかにする。

（２）調査対象

坂井地区における施設等居住系サービス待機者の家族 250 人
内訳：居宅介護支援事業所　　149 人
　　施設・居住系事業所　　101 人

（３）調査方法

郵送配布、郵送回収によるアンケート調査
督促を兼ねた礼状はがき１回送付

（４）調査時期

平成 28 年 1 月 18 日から平成 28 年 2 月 1 日

（５）回収率

発送・配布数	回収数	回収率
２５０	１６９	67.6%

（6）調査項目

調査項目	問題番号	設問
A 回答者属性	問 1	調査票記入者の続柄
	問 2	調査票記入者の居住地
B 本人状況	問 3	本人の性別
	問 4	本人の年齢
	問 5	本人の世帯状況
	問 6	本人の要介護度
C 住まいと生活支援	問 7	本人の療養先
	問 8	本人の住まいの種類
	問 9	エレベーターの有無
	問 10	本人の住まいの広さ
	問 11	介護している居室の畳数
	問 12	本人の住まいのバリアフリー化の有無
	問 13	住まいの困りごと
	問 14	本人の居住地
	問 15	在宅生活を続けるための支援で困っていること
	問 16	本人が受けている医療処置
	問 17	本人の受診の状況
D 申込状況	問 18	希望している施設
	問 19	希望した理由
	問 20	最初に申込みをした年度
	問 21	申込みしている施設数
	問 22	サ高住、グループホーム等検討の有無
	問 22-1	サ高住を選ばなかった理由
	問 22-2	グループホームを選ばなかった理由
E 療養・介護の希望	問 23	本人が希望する生活・療養の場
	問 24	家族が希望する生活・療養の場
	問 25	在宅で療養する上で困っていること
	問 26	介護サービスの利用状況
F 家族の状況	問 27	主介護者の続柄
	問 28	主介護者の年齢
	問 29	主介護者の居住地
	問 30	主介護者の状況
G 介護負担感	問 31	主介護者の仕事への影響
	問 32	主介護者以外の家族の介護との関わり方
	問 33	介護の負担感
	問 34	介護をしていて良かったこと
H その他	問 35	必要な介護支援策
	問 36	自由回答

２　調査結果

（１）調査結果のまとめ

①　本人の状況

・性別は、女性が７割を占める。平均年齢は 84.38 歳である。（問 3）（問 4）

・世帯状況は、「65 歳未満の子や孫などと同居」が半数を占める。65 歳以上の配偶者や子などとの二人世帯は 18.9%、「ひとり暮らし」は 7.7%である。（問 5）

・要介護度は、「要介護４」が 29.0%で最も多く、「要介護３」が 26.0%で続いており、要介護３以上が 65.7%を占める。平均要介護度は 2.97 である。（問 6）

・現在の療養先は、「自宅」が 52.7%で半数を超え、「介護老人保健施設（老健）」が 13.0%、「特別養護老人ホーム」が 9.5%である。（問 7）

②　住まいと生活支援

・住まいの状況は、「一戸建て」が 94.1%であるが、65.1%がバリアフリー化されていない。住宅の広さは「46 坪以上（56.2%）」が５割を超え、介護を受けている広さは「6、７畳」が 42.0%、「8、９畳」が 36.1%となっている。（問８、10、11、12）

・バリアフリー化されていないことへの住まいの困りごとは、「段差による移動の支障」が７割に近く、「風呂場、トイレが車いすで利用できない」が６割、「室内や廊下に手すりがない」が５割を超えている。（問 13）

・在宅生活を続けるための支援で困っていることは、前述の住まいの困りごとで段差解消や手すりなどの割合が高いが、「介護に適した住宅に改修できないこと（22.5%）」は１位にあがっているが２割台である。次いで「食事やトイレの介助など１日に何度か自宅へ訪問し、必要があれば 24 時間いつでも訪問してくれるサービスがないこと」、「通院に付き添ってくれるサービスがないこと」、「自宅に定期的に訪問して診療し、緊急時にも対応してくれる医師がいないこと」などが１割台で続いているが、いずれもサービスとして導入されており、特に在宅医療については坂井地区は充実している点であり、これらがあがったことは介護者への情報の周知が十分でないことが考えられる。（問 15）

③　介護保険施設への入居希望と在宅での療養

・介護保険施設への入居希望は、「特別養護老人ホーム」が 46.2%、「介護老人保健施設」が 20.7%となっている。（問 18）

・入居希望の理由は、「家族（介護者）が介護を続けることが困難になってきたため（32.5%）」が最も多く、「今は自宅で生活できているが、将来に対する不安を感じたため（29.0%）」が続いており、具体的には、介護者の高齢化と本人の状態悪化・高齢化があがっている。（問 19）

・他の住まいの検討は、「グループホーム（13.0%）」、「サービス付き高齢者向け住宅（12.4%）」ともに１割台にとどまる。（問 22）

・療養場所についての希望は、本人、介護者ともに「できるだけ入居した施設で過ごし、さいごも病院や施設で過ごす（本人：32.0%、介護者：45.6%）」が最も多い。さいごを除いた療養中の過ごし方としては、『できるだけ入居した施設』は本人 45.6%、介護者 56.8%、『できるだけ自宅』は本人 23.7%、介護者 16.6%で、本人、介護者ともに施設志向がみられ、特に介護者の施設志向が強い。（問 23）（問 24）
・在宅で療養する上で困っていることは、「家族介護者にゆとりがない（43.2%）」が最も多く、「家族介護者の、清拭や移乗など介護技術が難しい（24.9%）」が続くなど、在宅での家族介護の厳しさ・難しさが施設志向に通じる。住宅については、住まいも介護する部屋も広く、「療養するのに適切な住環境の調整が難しい」が１割台にとどまっていることから、住まいの広さ、住宅の状況よりも介護者の負担感が在宅を困難にさせる要因となっていることがわかる。（問 25）
・利用している介護サービスは、「通所介護」、「短期入所療養介護」が３割を超えるが、「訪問介護」、「訪問看護」は１割前後であり訪問系サービス利用が低い。（問 26）

④　介護者の状況

・主たる介護者は「配偶者」、「娘・息子の配偶者」、「娘」が２割台となっている。（問 27）
・年齢は、『65 歳未満』が 53.9%、『65 歳以上』が 39.6%であり、『75 歳以上』も 22.5%となっている。平均年齢は 64.49 歳である。本人との同居が約８割を占める。（問 28）（問 29）
・主たる介護者の状況は、「病気で通院している」が 30.8%、「要支援または要介護認定を受けている」が 24.9%、「フルタイムの仕事をしている」が 23.7%などとなっている。（問 30）
・介護と仕事の両立については、「介護のために仕事をやめた」と「介護のために働き方を変えた」がともに 15.4%であり、３割が実際に仕事への影響を受けている。これに「仕事を辞めたり、働き方を変えることを考えたことがある（19.5%）」の２割を加えると介護者の半数が仕事への影響を感じている。（問 31）

⑤　介護の負担感と必要な介護者支援策

・介護者の介護負担感については、「思わない（0 点）」、「たまに思う（1 点）」、「ときどき思う（2 点）」、「いつも思う（4 点）」の５段階尺度を用い、得点付けをした。
それによれば８項目中点数が高いのは「１.介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか」（平均 2.49 点）、「４.介護を受けている方のそばにいると、気が休まらないと思いますか」（平均 2.10 点）であった。
また、0 点から 9 点を『軽度』、10 点から 19 点を『中等度』、20 点から 32 点を『重度』とすると、『軽度』が 27.3%、『中等度』が 48.2%、『重度』が 24.5%となっている。
要介護度別に負担感をみると、介護度が低いほど負担感が強く、介護度が高くなるに従い負担感が低くなっている。介護者の年齢別では、50 歳代、65～69 歳など若い層で負担感が強く、70 歳代は低い。

介護の負担感別にサービスの利用状況をみると、負担感が軽度の人は、「訪問看護」、「訪問介護」などの訪問系サービスの利用に加え、中等度、重度の人よりもサービスの利用が活発である。一方で負担感が中等度、重度の人は「通所介護」「短期入所療養介護」を利用しており、これらサービスを利用していても負担感は強い。（問 33）

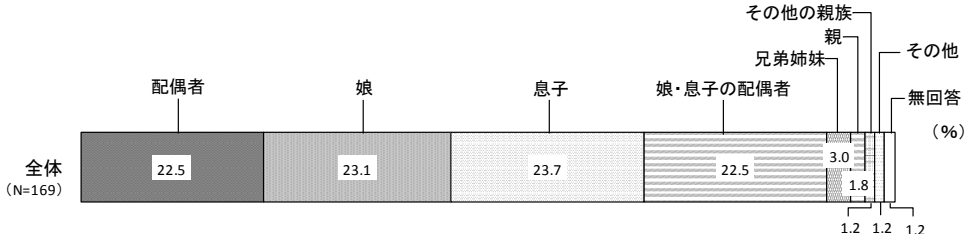
・主たる介護者が必要としている介護者支援策は、「在宅介護者への手当（34.3%）」、「介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度、再就職支援施策（33.7%）」、「介護者に対する定期的な情報提供（29.6%）」、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり（29.0%）」などが上位にあがっている。（問 35）

（２）回答者属性

①　調査票記入者の続柄（問１）

調査票記入者は、「配偶者（22.5%）」、「娘（23.1%）」、「息子（23.7%）」、「娘・息子の配偶者（22.5%）」がそれぞれ２割台となっている。

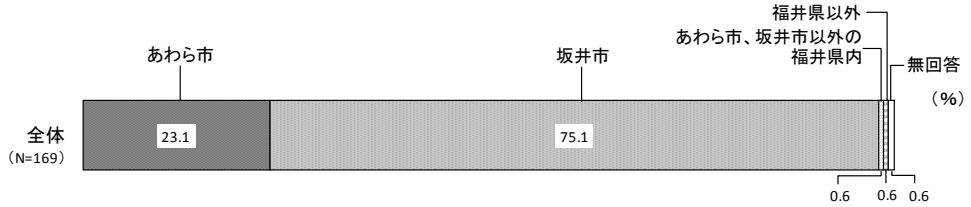
図表３－２－１　調査票記入者の続柄（全体）



②　調査票記入者の居住地（問２）

調査票記入者の住まいは、「坂井市」が 75.1%、「あわら市」が 23.1%である。

図表３－２－２　調査票記入者の居住地（全体）

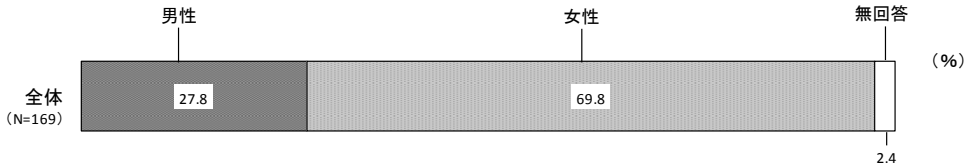


（３）本人の状況

①　本人の性別（問３）

本人の性別は、「男性」が 27.8%、「女性」が 69.8%である。

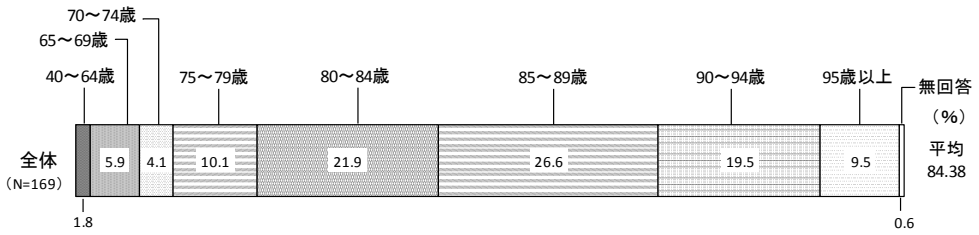
図表３－２－３　本人の性別（全体）



②　本人の年齢（問４）

本人の年齢は、「85～89 歳（26.6%）」が最も多く、「80～84 歳（21.9%）」、「90～94 歳（19.5%）」が続いている。平均年齢は 84.38 歳である。

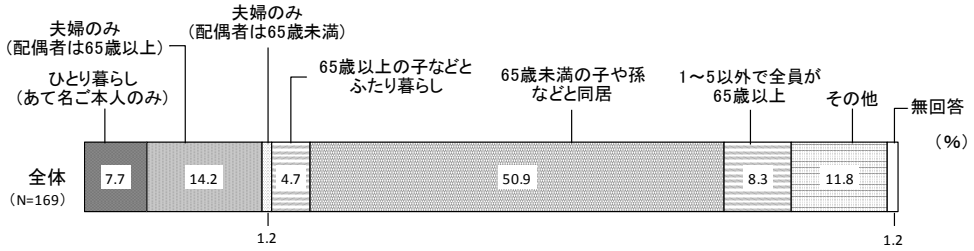
図表３－２－４　本人の年齢（全体）



③　本人の世帯状況（問５）

本人の世帯状況は、「65 歳未満の子や孫などと同居（50.9%）」が半数を占める。「夫婦のみ（配偶者は 65 歳以上）（14.2%）」と「65 歳以上の子などとふたり暮らし（4.7%）」をあわせて 65 歳以上の二人世帯が 18.9%、「ひとり暮らし」が 7.7%である。

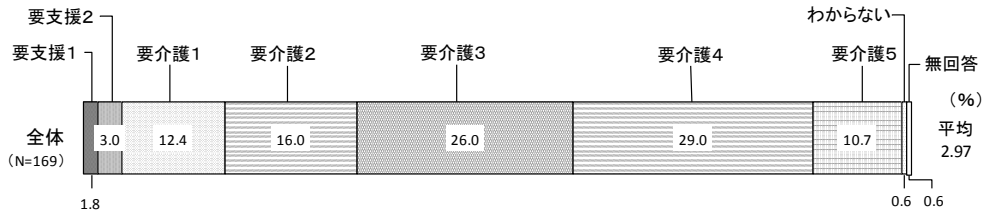
図表３－２－５　本人の世帯状況（全体）



④　本人の要介護度（問６）

本人の要介護度は、「要介護４」が 29.0%で最も多く、「要介護３」が 26.0%で続いている。要介護３以上が 65.7%を占める。平均要介護度は 2.97 である。

図表３－２－６　本人の要介護度（全体）

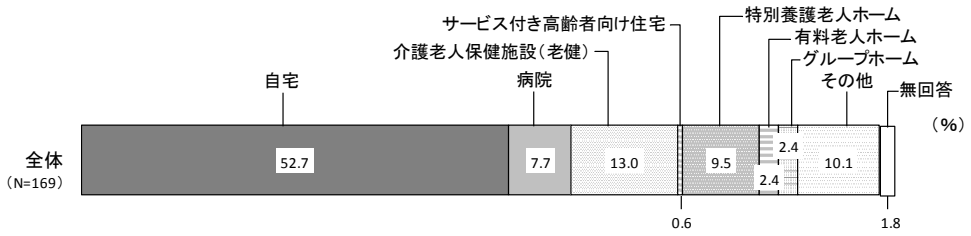


（４）住まいと生活支援

①　現在の療養先（問７）

現在の療養先は、「自宅」が 52.7%で半数以上を占めて最も多く、「介護老人保健施設（老健）」が 13.0%、「特別養護老人ホーム」が 9.5%で続いている。

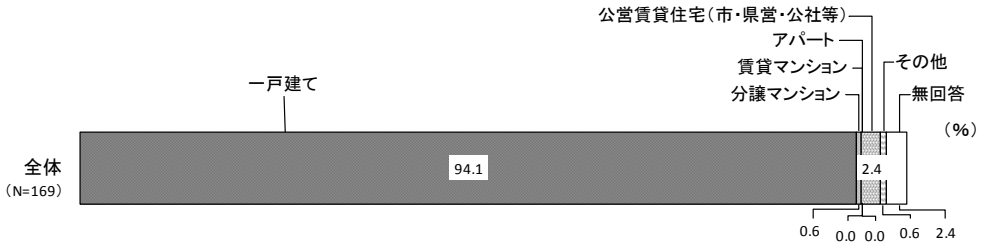
図表３－２－７　現在の療養先（全体）



②　現在の住まい（問８）

現在の住まい（入院や施設入所している場合はその直前の住まい）は、「一戸建て」が 94.1%を占める。

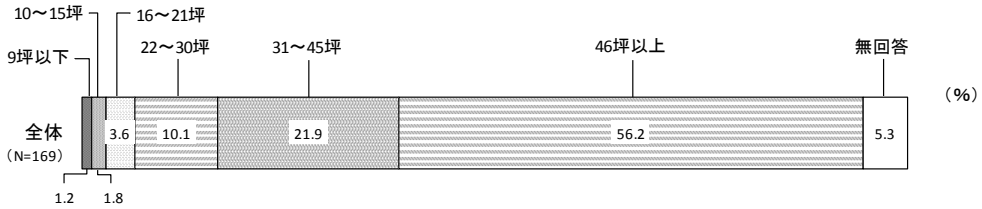
図表３－２－８　現在の住まい（全体）



③　住宅の広さ（問 10）

現在の住まい（入院や施設入所している場合はその直前の住まい）の広さは、「46 坪以上」が 56.2%を占める。

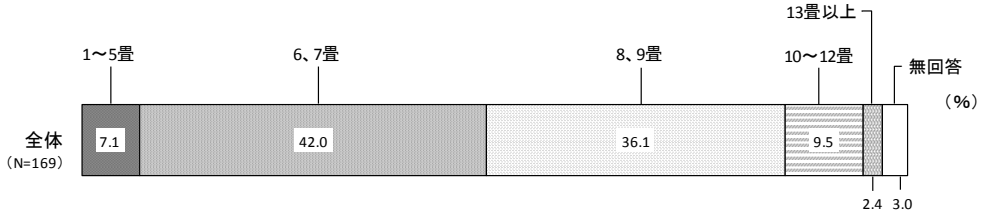
図表３－２－９　住宅の広さ（全体）



④　介護を受けている部屋の広さ（問 11）

現在の住まい（入院や施設入所している場合はその直前の住まい）で主に介護を受けている部屋の広さは、「6、７畳」が 42.0%で最も多く、「8、９畳」が 36.1%で続いている。

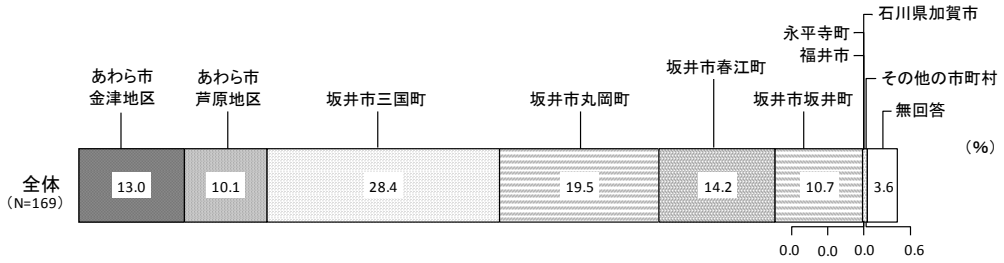
図表３－２－１０　介護を受けている部屋の広さ（全体）



⑤　居住地（問 14）

住まいの場所は、『坂井市』が 72.8%、『あわら市』が 23.1%である。

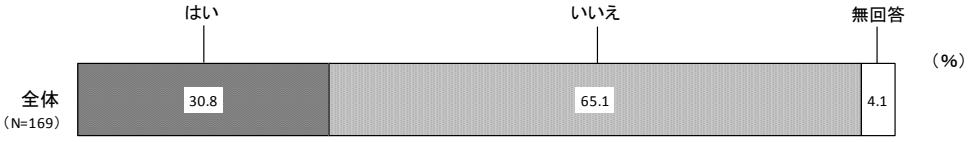
図表３－２－１１　居住地（全体）



⑥　住まいのバリアフリー化（問 12）

住まいのバリアフリー化など介護に適した状態かどうかは、「いいえ（適した状態でない）」が 65.1%を占め、「はい（適した状態である）（30.8%）」は３割である。

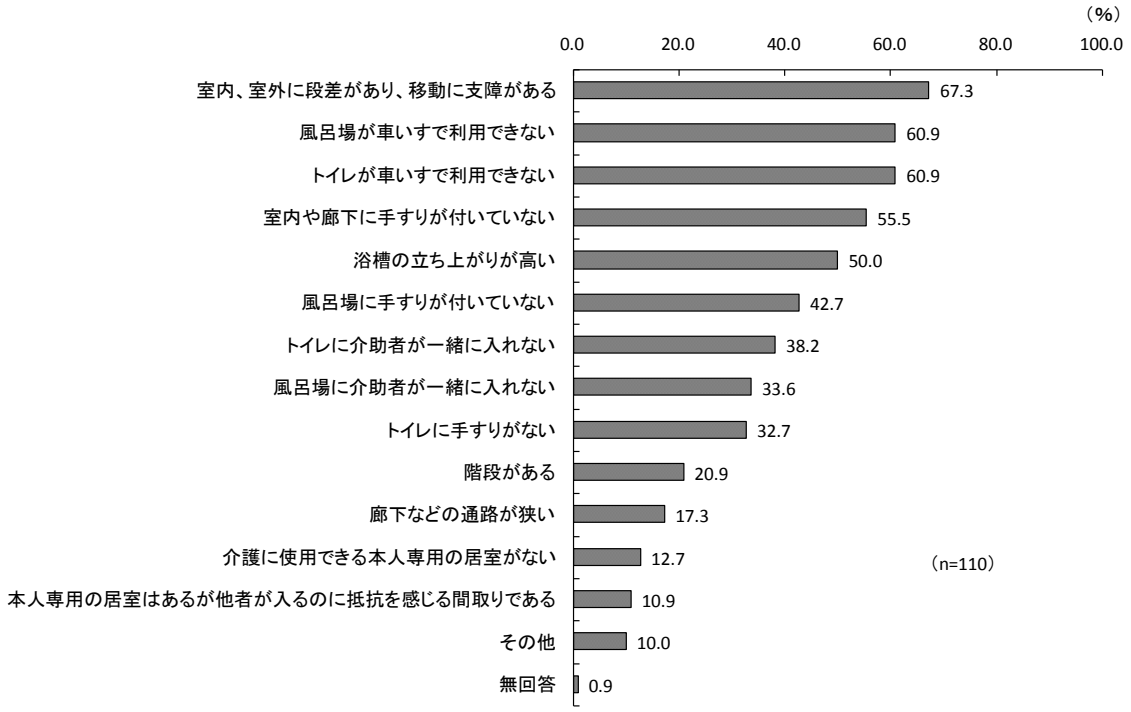
図表３－２－１２　住まいのバリアフリー化（全体）



⑦　介護に適していない住まいの状況（問 13）

住まいがバリアフリー化など介護に適した状態になっていないと答えた人に具体的な状況をたずねたところ、「室内、室外に段差があり、移動に支障がある（67.3%）」の段差についてが６割を超えて最も多く、次いで「風呂場が車いすで利用できない（60.9%）」、「トイレが車いすで利用できない（60.9%）」の車いす利用が６割、「室内や廊下に手すりが付いていない（55.5%）」の手すりについてが５割を超えて続いている。

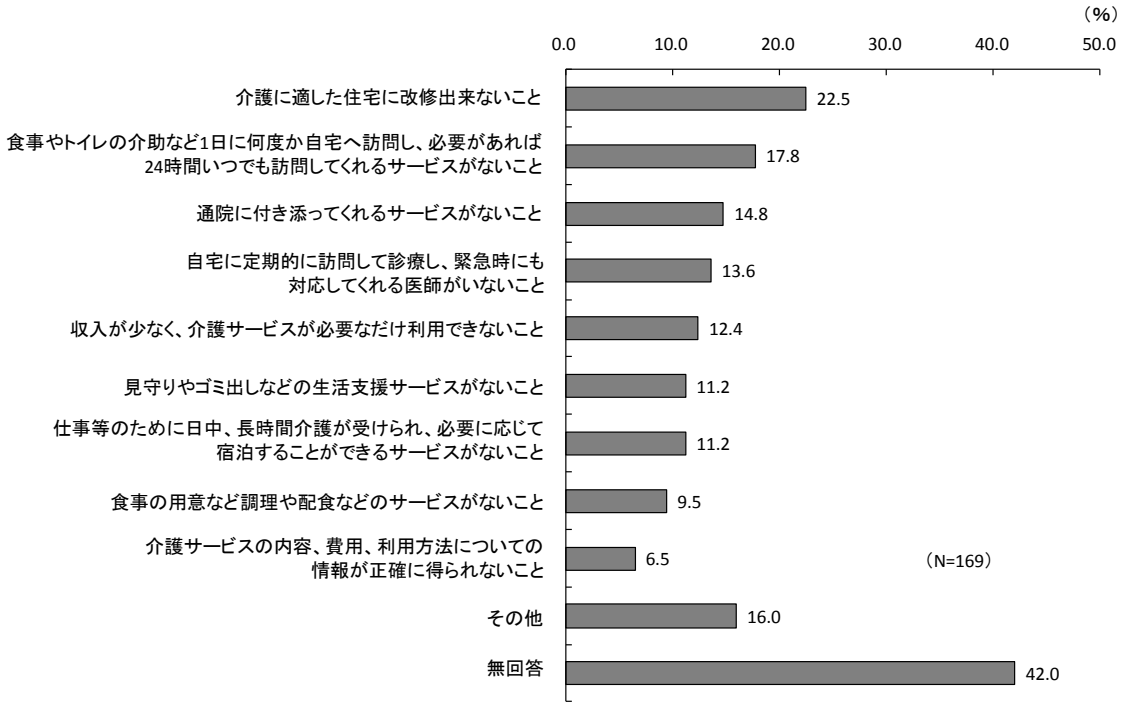
図表３－２－１３　介護に適していない住まいの状況（全体：複数回答）
＜住まいがバリアフリー化など介護に適した状況になっていないと答えた人＞



⑧　在宅生活を続けるための支援で困っていること（問 15）

在宅生活を続けるための支援で困っていることは、「介護に適した住宅に改修できないこと（22.5%）」が最も多いが２割台である。次いで「食事やトイレの介助など１日に何度か自宅へ訪問し、必要があれば２４時間いつでも訪問してくれるサービスがないこと（17.8%）」、「通院に付き添ってくれるサービスがないこと（14.8%）」、「自宅に定期的に訪問して診療し、緊急時にも対応してくれる医師がいないこと（13.6%）」などが１割台で続いている。

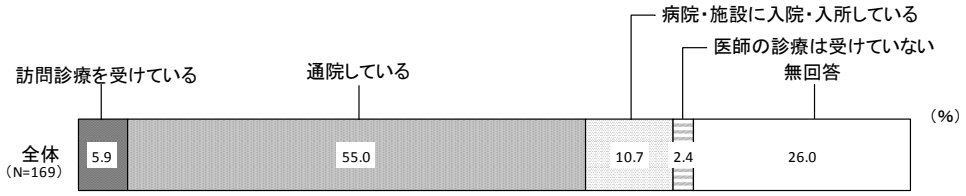
図表３－２－１４　在宅生活を続けるための支援で困っていること（全体：複数回答）



⑨　受診状況（問 17）

受診状況は、「通院している（55.0%）」が半数を超える。「訪問診療を受けている」は5.9%にとどまる。

図表３－２－１５　受診状況（全体）

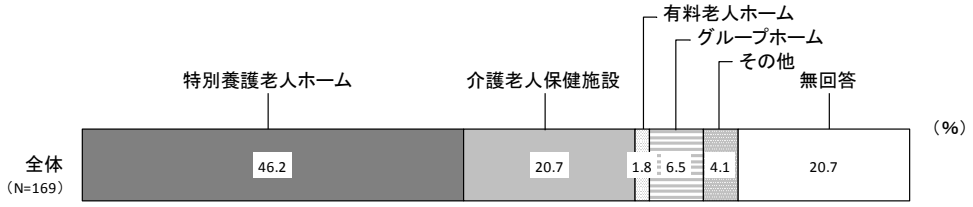


（５）介護保険施設への入居希望と在宅での療養

①　入居希望施設（問 18）

入居希望施設は、「特別養護老人ホーム」が 46.2%、「介護老人保健施設」が 20.7%となっている。

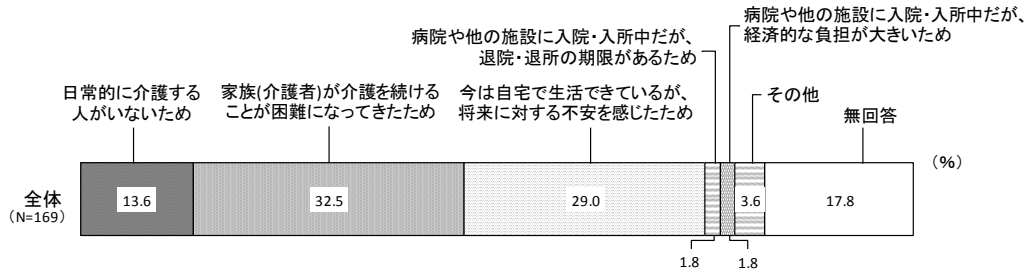
図表３－２－１６　入居希望施設（全体）



②　入居希望の理由（問 19）

入居希望の理由は、「家族（介護者）が介護を続けることが困難になってきたため（32.5%）」が最も多く、「今は自宅で生活できているが、将来に対する不安を感じたため（29.0%）」が続いている。将来の不安について具体的には、「介護者の高齢化」と「本人の状態悪化、高齢化」の回答が寄せられた。

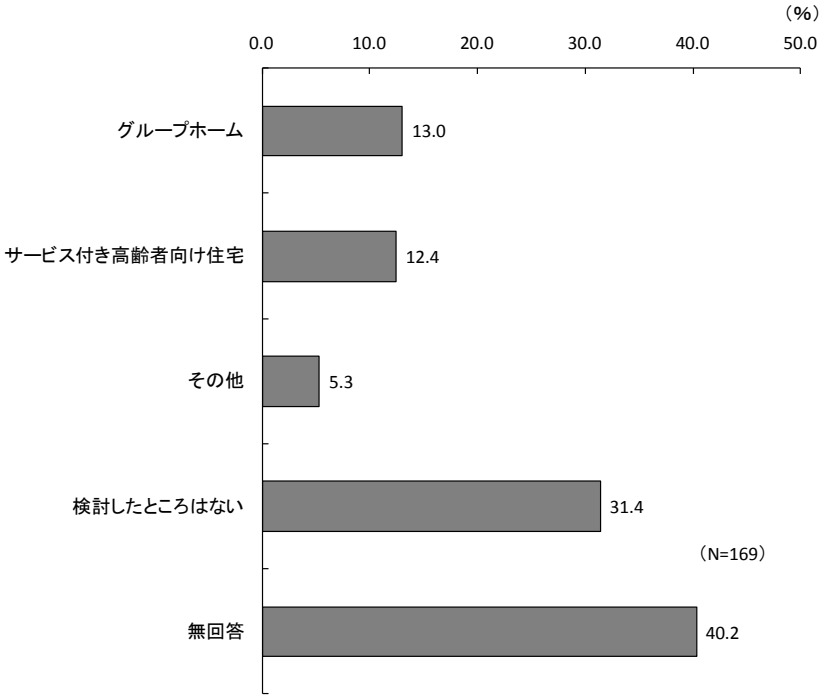
図表３－２－１７　入居希望の理由（全体）



③　他の住まいの検討（問 22）

特別養護老人ホームを検討する際に他の住まいの検討は、「グループホーム」が 13.0%、「サービス付き高齢者向け住宅」が 12.4%である。

図表３－２－１８　他の住まいの検討（全体：複数回答）

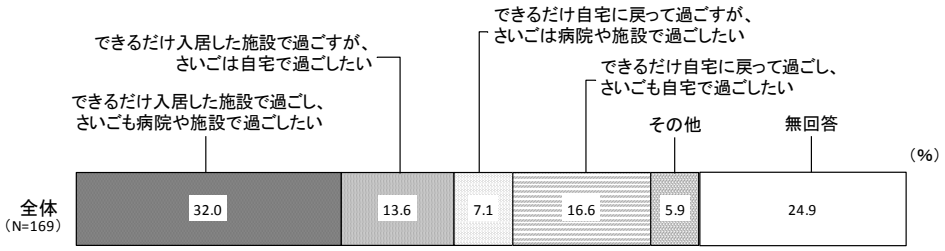


④　本人が希望する生活・療養の場（問 23）

本人が希望する生活・療養の場は、「できるだけ入居した施設で過ごし、さいごも病院や施設で過ごす（32.0%）」が最も多く、「できるだけ自宅に戻って過ごし、さいごも自宅で過ごしたい（16.6%）」が続いている。

さいごを除く療養中の過ごし方としては、『できるだけ入居した施設』が 45.6%、『できるだけ自宅』が 23.7%となっている。

図表３－２－１９　本人が希望する生活・療養の場（全体）

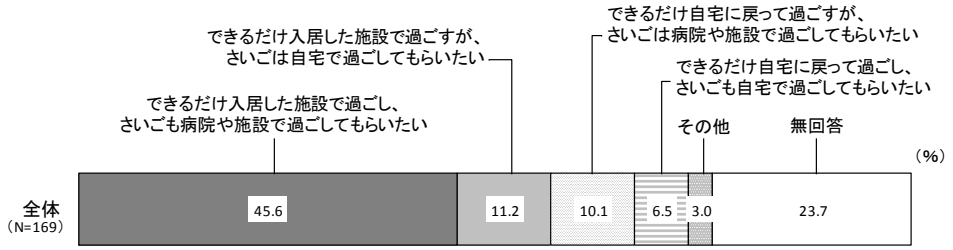


⑤　介護者が希望する生活・療養の場（問 24）

介護者が希望する生活・療養の場は、「できるだけ入居した施設で過ごし、さいごも病院や施設で過ごしてもらいたい（45.6%）」が最も多く、「できるだけ入居した施設で過ごすが、さいごは自宅で過ごしてもらいたい（11.2%）」が続いている。

さいごを除く療養中の過ごし方としては、『できるだけ入居した施設』が 56.8%を占め、『できるだけ自宅』は 16.6%となっている。

図表３－２－２０　介護者が希望する生活・療養の場（全体）

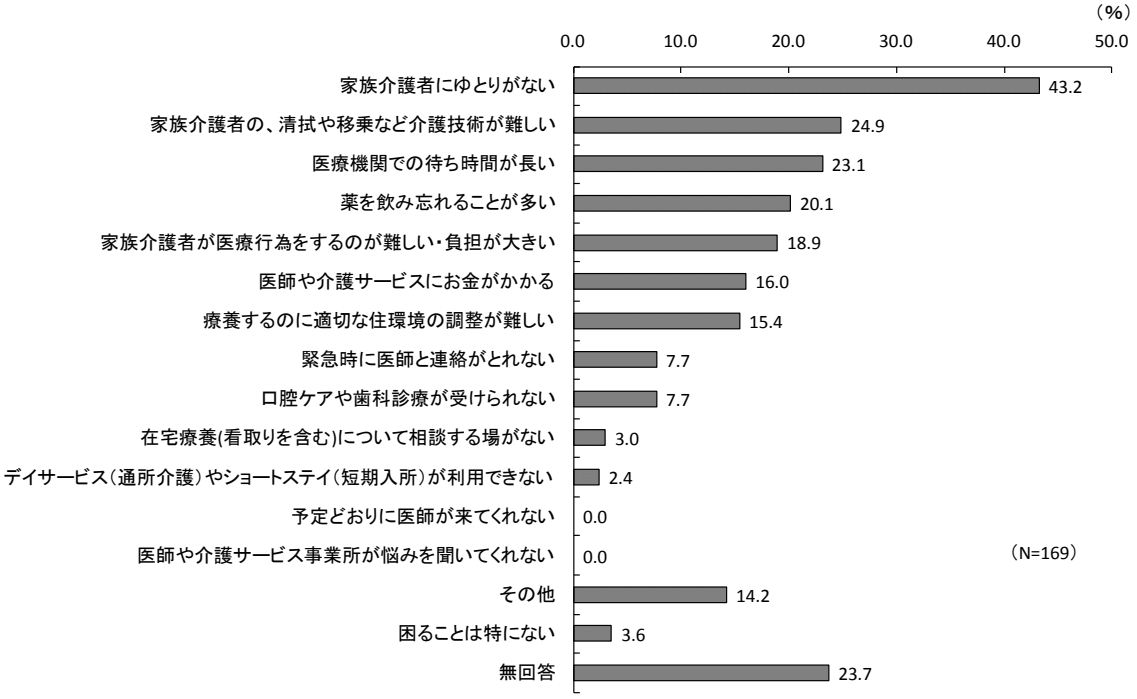


⑥　在宅で療養する上で困っていること（問 25）

在宅で療養する上で困っていることは、「家族介護者にゆとりがない（43.2%）」が４割を超え、次いで「家族介護者の、清拭や移乗など介護技術が難しい（24.9%）」となっており、家族介護者の負担が上位にあがっている。

住宅については「療養するのに適切な住環境の調整が難しい」は 15.4%となっている。

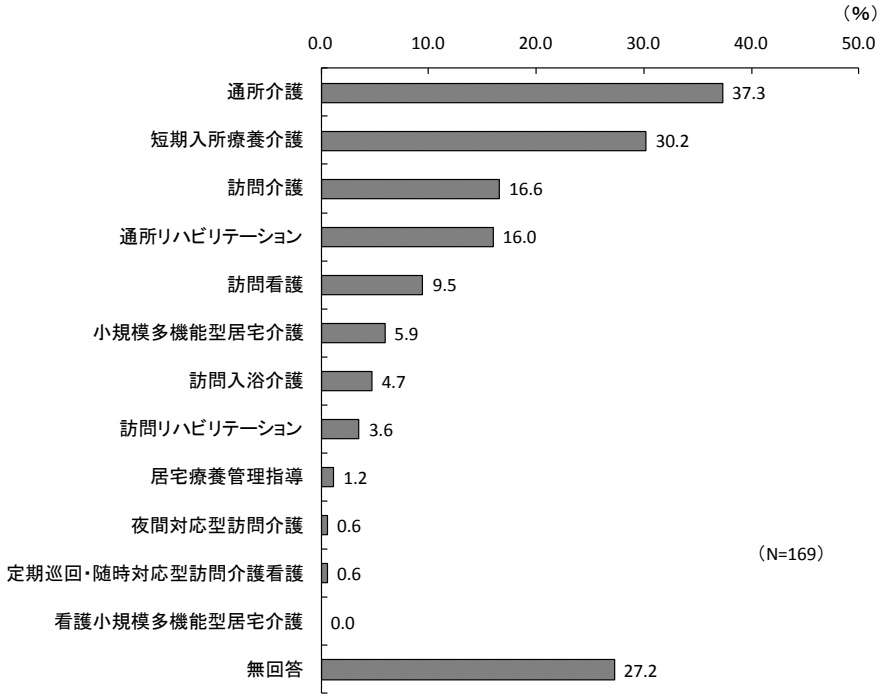
図表３－２－２１　在宅で療養する上で困っていること（全体：複数回答）



⑦　介護サービスの利用状況（問 26）

利用している介護サービスは、「通所介護（37.3%）」、「短期入所療養介護（30.2%）」が３割を超えるが、「訪問介護（16.6%）」、「訪問看護（9.5%）」は１割前後である。

図表３－２－２２　介護サービスの利用状況（全体：複数回答）

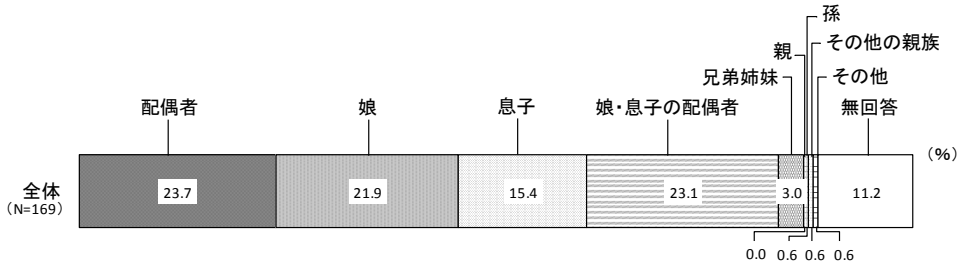


（６）介護者の状況

①　介護者の続柄（問 27）

主たる介護者は、「配偶者（23.7%）」、「娘・息子の配偶者（23.1%）」、「娘（21.9%）」が２割台となっている。

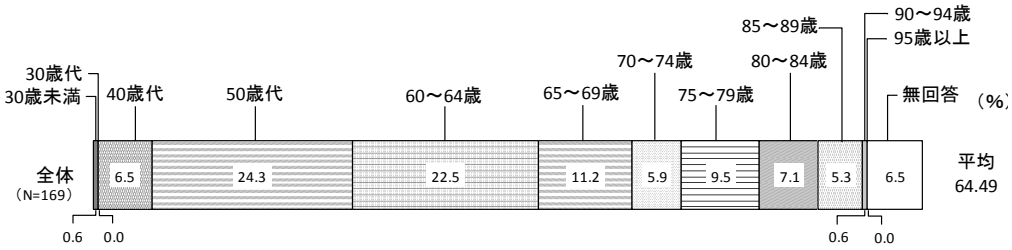
図表３－２－２３　介護者の続柄（全体）



② 介護者の年齢（問 28）

主たる介護者の年齢は、『65 歳未満』が 53.9%、『65 歳以上』が 39.6%で４割が高齢者である。なお 75 歳以上も 22.5%となっている。平均年齢は 64.49 歳である。

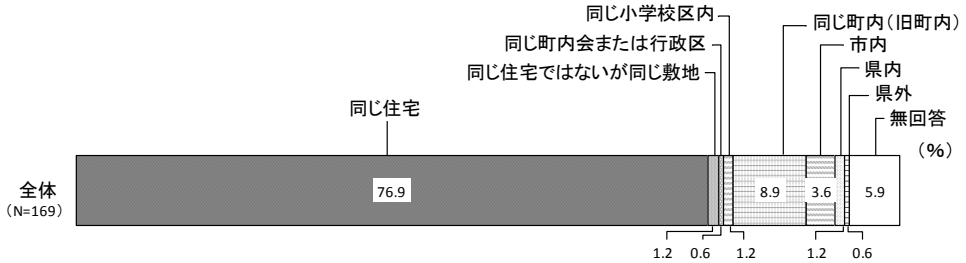
図表３－２－２４　介護者の年齢（全体）



③ 介護者の住まい（問 29）

主たる介護者の住まいは、「同じ住宅」が 76.9%、「同じ住宅ではないが同じ敷地」が 1.2%であり、これらをあわせて同居が約８割を占める。

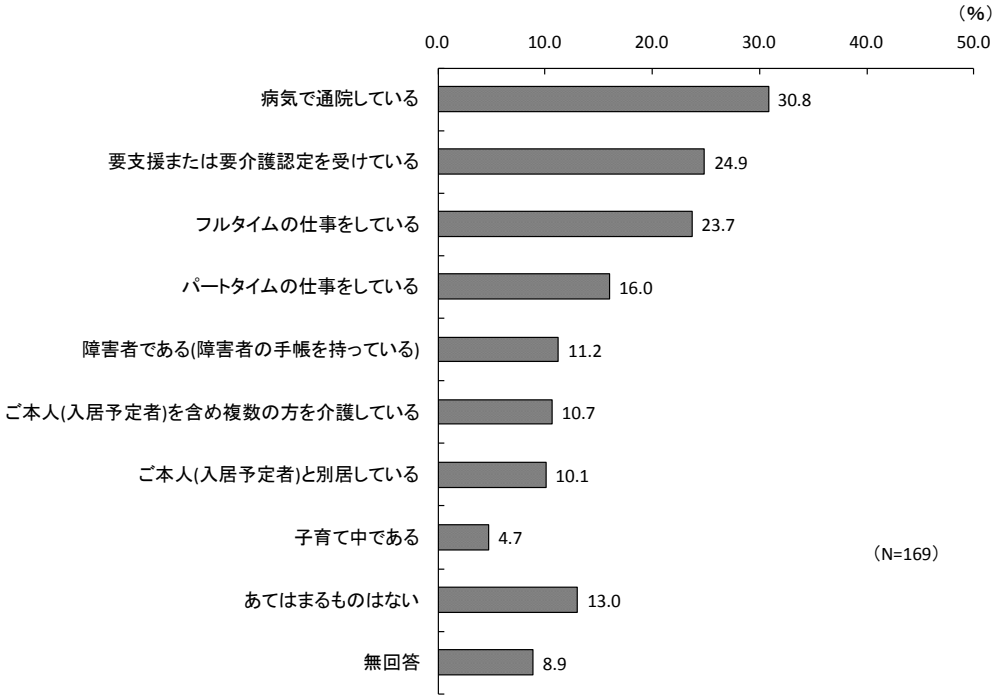
図表３－２－２５　介護者の住まい（全体）



④ 介護者の状況（問 30）

主たる介護者の状況は、「病気で通院している」が 30.8%、「要支援または要介護認定を受けている」が 24.9%、「フルタイムの仕事をしている」が 23.7%などとなっている。

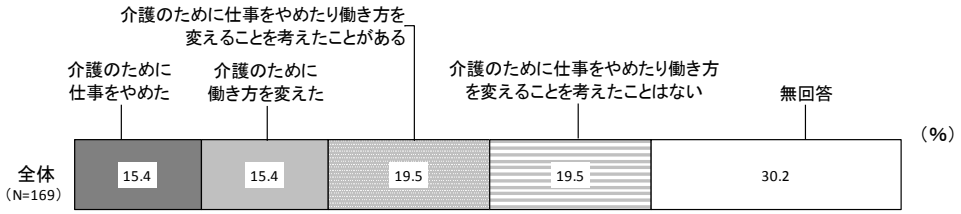
図表３－２－２６　介護者の状況（全体：複数回答）



⑤　仕事への影響（問 31）

介護による仕事への影響については、「介護のために仕事をやめた」が 15.4%、「介護のために働き方を変えた」が 15.4%であり、３割が仕事への影響を受けており、また、「介護のために仕事をやめたり働き方を変えることを考えたことがある（19.5%）」も２割となっている。

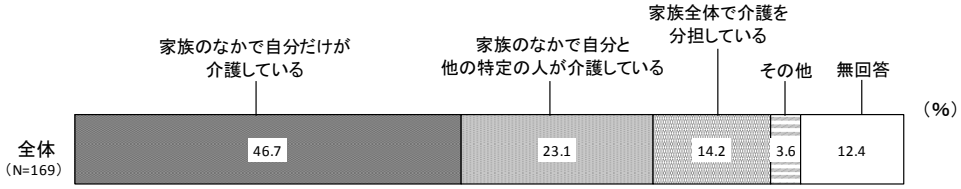
図表３－２－２７　仕事への影響（全体）



⑥　家族の介護への関わり方（問 32）

家族の介護への関わり方は、「家族のなかで自分だけが介護している（46.7%）」が最も多く５割に近い。

図表３－２－２８　家族の介護への関わり方（全体）



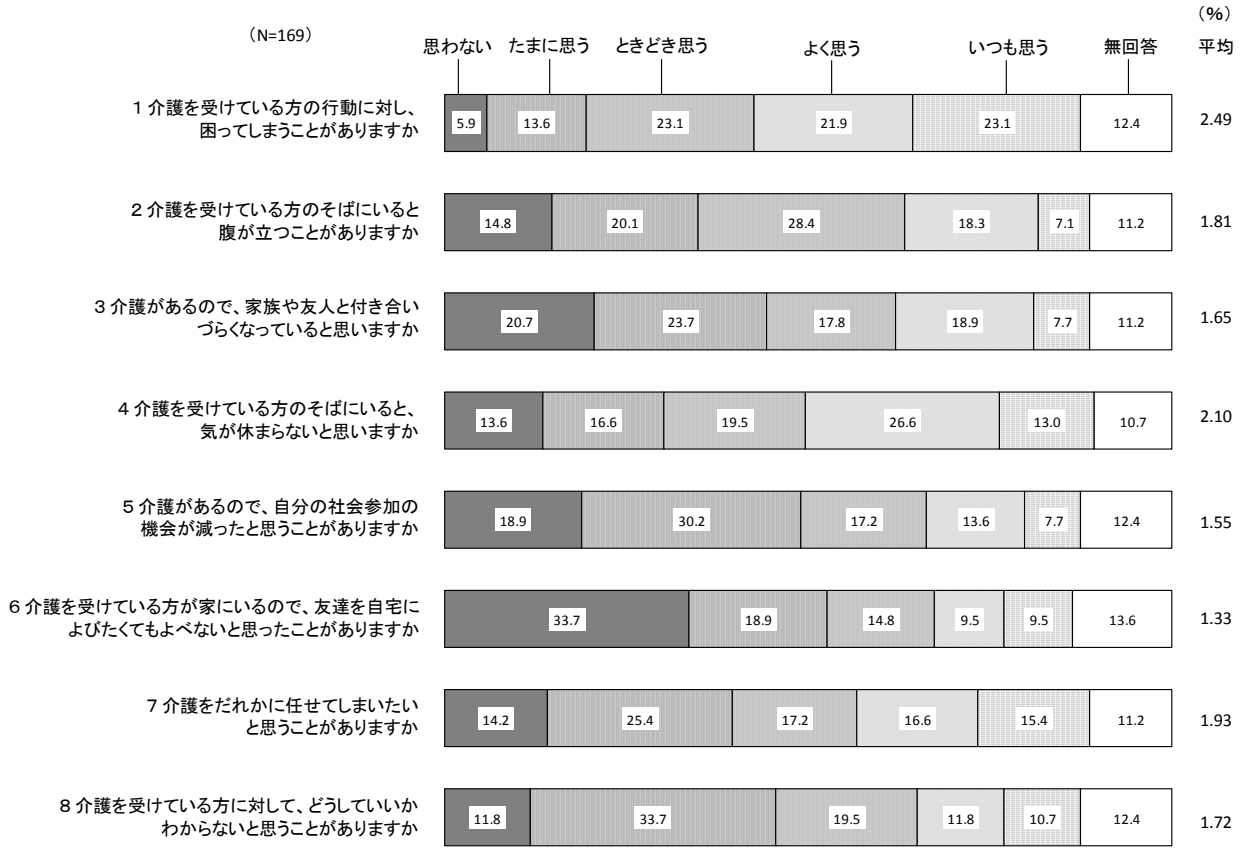
（６）介護の負担感と必要な介護者支援策

①　介護の負担感（問 33）

介護者の介護負担感については、「思わない（０点）」、「たまに思う（１点）」、「ときどき思う（２点）」、「いつも思う（４点）」の５段階尺度を用い、得点付けをした。

それによれば８項目中点数が高いのは「１介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか」（平均 2.49 点）、「４介護を受けている方のそばにいると、気が休まらないと思いますか」（平均 2.10 点）であった。

図表３－２－２９　介護の負担感（全体）



介護の負担感の得点付けについて、１～9 点を『軽度』、10 点～19 点を『中等度』、20 点～32 点を『重度』の負担度とした。

その結果、『軽度』が 27.3%、『中等度』が 48.2%、『重度』が 24.5%となった。また平均は 14.58 点となった。

要介護度別に負担度をみると、要介護１と要介護４は『重度（要介護１：31.6%、要介護４：30.2%）』が３割を占める。平均点をみると、要介護１が 16.68 点で最も高く、次いで要介護２の 15.46 点、要介護３の 15.06 点が続いており、介護度が高くなるに従い負担感は低くなる。

図表３－２－３０－①　介護の負担感_負担度（全体、要介護度別）

[上段:N、下段:%]

			軽度	中等度	重度	無回答	平均
全体		139 100.0	38 27.3	67 48.2	34 24.5	0 0.0	14.58
要介護度別	要支援１	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	13.00
	要支援２	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	9.33
	要介護１	19 100.0	5 26.3	8 42.1	6 31.6	0 0.0	16.68
	要介護２	26 100.0	3 11.5	17 65.4	6 23.1	0 0.0	15.46
	要介護３	32 100.0	8 25.0	16 50.0	8 25.0	0 0.0	15.06
	要介護４	43 100.0	15 34.9	15 34.9	13 30.2	0 0.0	14.23
	要介護５	14 100.0	5 35.7	8 57.1	1 7.1	0 0.0	12.21
	わからない	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1.00

主な介護者の年齢別に負担度をみると、40 歳代は『中等度』が 63.6%と高く、50 歳代、65～69 歳は『重度』がそれぞれ 35.9%、37.5%と高い。

主な介護者の年齢別に平均点をみると、65～69 歳が 16.69 点で最も高く、次いで 50 歳代が 16.03 点で続いている。70 歳代は 11 点台と低い。

図表３－２－３０－②　介護の負担感_負担度（全体、主な介護者の年齢別）

［上段:N、下段:%］

			軽度	中等度	重度	無回答	平均
全体		139 100.0	38 27.3	67 48.2	34 24.5	0 0.0	14.58
主な介護者の年齢別	30歳未満	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	12.00
	30歳代	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	－
	40歳代	11 100.0	2 18.2	7 63.6	2 18.2	0 0.0	14.27
	50歳代	39 100.0	11 28.2	14 35.9	14 35.9	0 0.0	16.03
	60～64歳	36 100.0	8 22.2	20 55.6	8 22.2	0 0.0	14.64
	65～69歳	16 100.0	4 25.0	6 37.5	6 37.5	0 0.0	16.69
	70～74歳	7 100.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0	0 0.0	11.43
	75～79歳	12 100.0	4 33.3	7 58.3	1 8.3	0 0.0	11.33
	80～84歳	10 100.0	5 50.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	12.20
	85～89歳	5 100.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	14.20
	90～94歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	－
	95歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	－

主な介護者の続柄別に負担度をみると、配偶者は『軽度』が 38.7%と高い。平均点をみると、娘・息子の配偶者が 15.25 点と高く、配偶者は 12.97 点と低い。

図表３－２－３０－③　介護の負担感_負担度（全体、主な介護者の続柄別）

[上段:N、下段:%]

			軽度	中等度	重度	無回答	平均
全体		139 100.0	38 27.3	67 48.2	34 24.5	0 0.0	14.58
主な介護者の続柄別	配偶者	31 100.0	12 38.7	14 45.2	5 16.1	0 0.0	12.97
	娘・息子	59 100.0	14 23.7	29 49.2	16 27.1	0 0.0	14.93
	娘・息子の配偶者	36 100.0	9 25.0	18 50.0	9 25.0	0 0.0	15.25
	その他	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	10.00

家族の関わり方別に平均点をみると、自分だけが介護をしているは 14.86 点、家族全体で介護を分担しているが 14.90 点となっており、介護者が多くても負担感は変わっていない。

図表３－２－３０－④　介護の負担感_負担度（全体、家族の関わり方別）

[上段:N、下段:%]

			軽度	中等度	重度	無回答	平均
全体		139 100.0	38 27.3	67 48.2	34 24.5	0 0.0	14.58
家族の介護への関わり方別	家族のなかで自分だけが介護している	73 100.0	18 24.7	36 49.3	19 26.0	0 0.0	14.86
	家族のなかで自分と他の特定の人が介護している	38 100.0	12 31.6	16 42.1	10 26.3	0 0.0	14.66
	家族全体で介護を分担している	21 100.0	5 23.8	11 52.4	5 23.8	0 0.0	14.90
	その他	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	8.50

介護の負担度別に介護サービスの利用状況（問 26）をみると、軽度の人は「訪問介護（18.4%）」、「訪問看護（15.8%）」など 10 項目中 7 項目で中等度、重度に比べて利用割合が高くなっている。中等度の人は、「通所介護（47.8%）」、「短期入所療養介護（38.8%）」の利用が高い。

図表３－２－３１　介護サービスの利用状況（全体、介護の負担度別：複数回答）

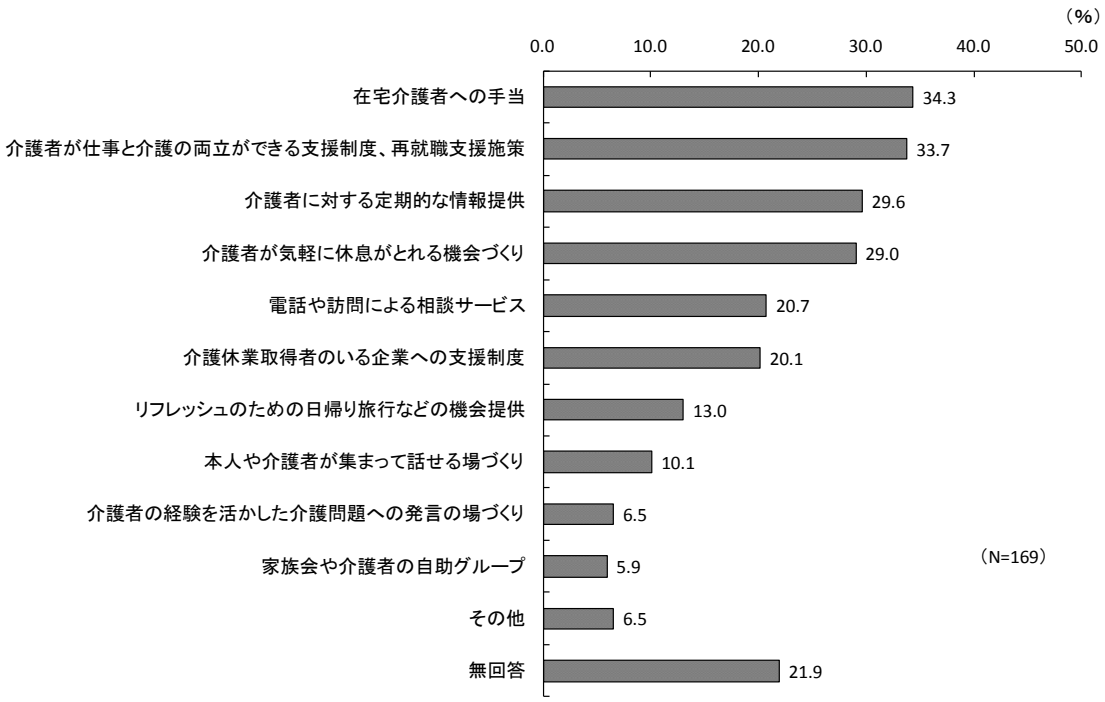
［上段:N、下段:%］

			訪問介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	訪問入浴介護	居宅療養管理指導	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所療養介護	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	無回答
全体		169	28	16	6	8	2	63	27	51	1	1	10	0	46
		100.0	16.6	9.5	3.6	4.7	1.2	37.3	16.0	30.2	0.6	0.6	5.9	0.0	27.2
介護の負担度別	軽度	38	7	6	2	3	1	13	7	9	1	0	0	0	11
		100.0	18.4	15.8	5.3	7.9	2.6	34.2	18.4	23.7	2.6	0.0	0.0	0.0	28.9
	中等度	67	11	6	3	1	1	32	12	26	0	0	5	0	13
		100.0	16.4	9.0	4.5	1.5	1.5	47.8	17.9	38.8	0.0	0.0	7.5	0.0	19.4
	重度	34	6	3	1	2	0	13	3	12	0	0	3	0	7
		100.0	17.6	8.8	2.9	5.9	0.0	38.2	8.8	35.3	0.0	0.0	8.8	0.0	20.6

⑧　必要な介護者支援策（問 35）

主たる介護者が必要としている介護者支援策は、「在宅介護者への手当（34.3%）」、「介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度、再就職支援施策（33.7%）」、「介護者に対する定期的な情報提供（29.6%）」、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり（29.0%）」などが上位にあがっている。

図表３－２－３２　必要な介護者支援策（全体：複数回答）



（7）自由回答（問 36）

在宅療養者の医療や介護サービスについてのお考えや満足もしくは不満に思われること、坂井地区で取り組んでほしいこと、今後に向けての希望などについて、自由記述で求めたところ、59 人の方からご回答をいただいた。以下、すべてを掲載する。

主な介護者の続柄	主な介護者の年齢	本人の性別	本人の年齢	要介護度	自由回答
–	–	男性	90-94歳	要介護2	以前入所していたグループホームに退所希望を10日位前に伝えたところ、グループホームの態度が急変し、個室の表札も外され、とても気分が悪く退所しました。料金も最後まできっちり収めているのになぜか？こんな職員だと入所時、何回か身体にあざの後がついていたので暴力行為があったのではと疑いたくなります。
娘	50歳代	女性	80-84歳	要介護3	要介護者の状態が悪くなっていくにつれ、介護者の方も体調や健康を害する事があります。介護が長引くにつれ精神的、肉体的、経済的にとてもつらいです。ケアマネにはとても助けられていますが、介護する側の負担を少しでも減らしてほしいと思います。いざという時に必要なサービスが足りないのではないでしょうか。介護していると、夫へ手が回らない時があり、家庭内がギクシャクする時があります。ショートステイで土日曜日利用時、入浴サービスを行ってない施設がありました。職員にとっては良い施設かもしれませんが、利用する側からするとサービを受けていないのにお金を支払っているおいう不満しか残りませんでした。そのような施設が少しでも減ってほしいです。
息子	60-64歳	女性	90-94歳	要介護4	訪問診療、訪問看護、訪問介護共大変満足しています。先生、看護師さん、ヘルパーさん、ケアマネさんお世話になりました。有難うございます。本人も一人一人にお礼もせず入所したことを気になっているようです。落ち着いてからお礼に伺いたいと思います。
配偶者	85-89歳	女性	75-79歳	要介護4	デイサービス、ショートステイが利用者が多く思うように利用できず、介護をする家族（男）に相当の負担がかかり、家庭内でのいさかいが絶えない。もっと簡単に、申し込んだら明日からでも利用できるようならないかと思う。
娘・息子の配偶者	50歳代	女性	90-94歳	要介護3	仕事をやめ、介護をほとんど一人でしていてケアマネジャーやデイサービスの職員さん達の励まし、温かい言葉に何度も救われました。いつも話を聞いてくれて気持ちが軽くなります。感謝しています。
配偶者	75-79歳	女性	75-79歳	要介護4	現在グループホームにお世話になっていますが、特別養護老人ホームへ入れて欲しいのですが、なかなか入れない。尚介護をする家族に対して色々相談を受けて頂けるようにお願いします。
息子	60-64歳	女性	85-89歳	要介護4	毎月自宅へ来るケアマネジャーの仕事。１分位で書類に印を押したら帰ってしまう。「何か有りますか」とか、いつもの言葉だけ。気持ちがこもっていない感じがする。他のケアマネジャーの方はどうなんだろう。
–	–	女性	95歳以上	要介護3	現在、花咲デイサービスと老護施設にお世話になっています。母と小生２人で住んでいます。男でで一人では大変です。なるべく早く施設の方に入住させてほしいです。
–	65-69歳	女性	85-89歳	要介護3	今のところ医師、ケアマネジャー、訪問看護様との連絡も良くしていただいて、不安はあまりありません。
配偶者	80-84歳	男性	80-84歳	要介護5	介護人がいる場合、税金を安くする様にして下さい。例：住民税など。
息子	65-69歳	女性	90-94歳	要介護4	介護者の悩みを話し合える場の設定。介護者間の仲間づくり。介護の技術研究会の開催。
配偶者	75-79歳	男性	75-79歳	要介護3	在宅で療養者がどれだけ快適に過ごせるかは全て介護者にかかっていて、介護者が潰れてしまっては全てが狂ってしまう状態の中、もっと介護者のためのサービスがあっていいと思う。
娘・息子の配偶者	50歳代	女性	85-89歳	要介護1	ショートステイの自費分をなくしてほしい。
娘	50歳代	男性	80-84歳	要介護3	２、３ヶ所施設入所の件で相談に行きましたが、どこも１３万～１５万くらいとのこと。国民年金受給者にはとても無理です。厚生年金受給者を対象にした施設でした。
–	–	女性	90-94歳	要介護3	自宅は車椅子生活が全く不可能なので、サービス付き住宅に入居していますが、トイレにいくのに転倒したりします。また、金銭的負担も大きいです。老健での生活を希望していますが、希望通りいきません。介護３ですので自立型では不安が一杯で心配です。
息子	50歳代	女性	90-94歳	要介護4	地区集落内において一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が目立ち、家族等が町内（近辺）にいるのに地域と疎遠となっている。地域包括ケアシステムに離れて住んでいる家族を巻き込んでいくことが重要。
息子	50歳代	女性	90-94歳	要介護2	身障用トイレを増やしてほしい。屋内で気晴らしが出来るトイレなどの設備が整った建物があると良い。
娘	60-64歳	女性	85-89歳	要介護3	在宅介護について、現在おむつの補助制度がありますが、病気などにより病院へ入院した場合、打ち切られてしまいます。おむつ代の負担はとても大きいので、入院しても制度を継続するような制度にしてほしいと思います。たとえ入院したとしても在宅には変わりはないのではないでしょうか・・・？
配偶者	60-64歳	男性	65-69歳	要介護4	急に用事ができた時、ショートで頼みたいと思っても空いてなくて預かってもらえない。何ヶ月も前から言っておかないと施設を利用する事ができないので、いつでも利用できる施設があったら大変嬉しく思います。脳卒中から認知症になり、徘徊をする時があり、施設の方で見られないと断られる。何ヶ月も利用していて途中で言われると、始めの利用の前に行ってほしいと思います。
娘・息子の配偶者	50歳代	男性	80-84歳	要介護3	おじいちゃんが昨年２月に疥癬の病気になった時に、ショートステイやデイサービスが急に受けられなくなり、家庭で１ヶ月外出できず大変な負担でした。ただでさえ知識のない私や家族が疥癬という未知の病気で大変不安だったのと、病院での医師の説明も不充分だったし、専門の介護施設から通所やショートステイを拒まれたのはとてもショックでした。お風呂や部屋の掃除やおじいちゃんへの薬の介護がとっても負担でした。私も仕事もその時期満足に働けませんでした。 ◎こんな急な病気の時こそ、介護専門の方にお世話してもらいたかったです。自宅でのお風呂も大変でしたし家族も大変不安でした。

主な介護者の続柄	主な介護者の年齢	本人の性別	本人の年齢	要介護度	自由回答
娘	60-64歳	女性	90-94歳	要介護2	お世話になります。紙おむつ支給事業大変安価で助かってます。継続をお願いいたします。 デイサービス、ショートステイを利用し、集落の皆さんにも色々気にかけて頂き、一日でも長く住み慣れたところで生活できればと思っています。ご支援お願いいたします。介護って大変ですね。
娘・息子の配偶者	65-69歳	女性	90-94歳	要介護4	・入所する施設を新しく作ってもらっても一人部屋ばかりで国民年金では入所できない。 ・もっと４人部屋など多く作って部屋代金を安くしてほしい。 ・部屋代金が一番高くて支払が大変です。
娘	50歳代	女性	80-84歳	要介護1	こんなアンケートを書かせている暇があるなら、現場の声を聞いて早く施設（安い）を増やしてほしい。ヘルパーさんたちが働きやすい環境づくりを！ケアマネさんも忙しすぎてきちんと気持ちを聞いてもらえない！
娘	50歳代	男性	80-84歳	要介護1	高齢者がこれから増えていく中、早急に対策（安く、介護度が低くても入れる施設）をしてほしい。
配偶者	80-84歳	女性	70-74歳	要介護3	ケアマネジャーの存在をありがたく思います。
配偶者	85-89歳	女性	85-89歳	要介護3	３ヶ月に１回くらい訪問してほしい。近況、こちらの希望、困っていることなど相談にのってほしい。
配偶者	65-69歳	男性	65-69歳	要介護5	いまデイサービス、ショート、訪問看護など色んな人にお世話になっております。不満などはないです。福井県では坂井地区の介護は一番良いのではと思います。感謝です。ありがとうございます。
配偶者	75-79歳	女性	65-69歳	要支援2	介護している私が高齢で体が思うように動かすことが難しくなり、入所が難しいため、スムーズに入所できるようお願いしたいと希望しています。
息子	60-64歳	女性	85-89歳	要介護3	かがやき荘でお世話になっていて非常に救われています。引き続きお世話になれると助かります。
娘・息子の配偶者	50歳代	女性	75-79歳	要介護4	日帰りの介護施設で緊急の時病院へ付き添って通院できるようにしてほしい。
娘	60-64歳	男性	85-89歳	要介護3	医療を受ける時、毎回私が付き添って連れて行きますが、忙しい時でも半日潰れてしまい、仕事ができない時、だれか付き添っていてくれる人がいればいいなと思います。
配偶者	80-84歳	女性	80-84歳	要介護5	これから先は老老介護なので、一年ずつ疲労するので少しの事柄でも大げさに考えてしまう。
娘・息子の配偶者	60-64歳	女性	90-94歳	要介護4	施設によって異なるとは思いますが、たくさん入居されている方もおられると思いますが、取り扱いが雑だと思うことがあります。たくさんいる中の１人に過ぎませんが、注意が足りないと思う時もあり・・・？一生懸命して頂いていると思うことも有ですが。
配偶者	50歳代	男性	40-64歳	要介護1	紙パンツ等の介護用品支給について。要介護１の主人は失禁が多く、毎月のリハパン３０枚パッド６０枚では足らず、薬局で自己負担で紙パンツや尿取りパットを購入しないといけないことが不満です。坂井市とあわら市では支給される量が違うことを知り、とても不満に思っています。不公平ではないでしょうか？改善してほしいと思います。
娘	60-64歳	女性	85-89歳	要介護5	他県で介護度３以上の人を介護している家に対し、水道料が免除されていることを知りました。こちらの地域ではそのようなサービスはないので、考慮してもらえたら嬉しいです。他、電気料等も・・・。
息子	65-69歳	女性	90-94歳	要介護3	・施設内のスタッフの人数が増えないか（サービス向上） ・介護者への声掛け（行政の方から）→動いてほしい!! ・療養者が今後増えるので（自分自身が）、早めの対応を望む。
息子	65-69歳	女性	90-94歳	要介護4	あわら市はなぜもらえないのか。（以下の新聞か雑誌の切り抜き添付あり） 介護用消耗品の購入支援金：対象_要介護4以上または重度の認知症高齢者を介護している人：年7万5千円の現金または介護用品向けクーポン券など 介護奨励金・介護支援金：対象_要介護3以上の高齢者を半年以上自宅で介護している家族：年4万円など
娘・息子の配偶者	50歳代	女性	85-89歳	要介護4	デイサービスなど介護サービスとても助かっています。今は施設に入居しましたが、デイサービスにお世話になっていた時、朝もう少し早く、夕方もう少し遅かったらと思っていました。預かって頂ける時間がもう少し長かったらいいなあと思っていました。
配偶者	80-84歳	男性	85-89歳	要介護3	毎月市から頂く尿取りパットが小さいので入院すると間に合わず、大きいのを買って欲しいのでと言われ、薬局でパットをたくさん買ってくるのでパット代がかさばり困っています。数が少なくて良いのでもう少し大きい尿取りパットを頂きたいと思います。現在入院中でパット代がかさばり困っています。
-	65-69歳	男性	65-69歳	要介護4	老人ホーム等の施設への入所は、金銭的に無理なので希望したくても希望できません。この先どんな状態になっても在宅ｏｒ入院しか選択できない。以前は施設に行って希望したこともあったが、どこの施設も満員は当たり前、「入れると思わないで下さい」と言われる。態度も横柄で、本人を入所させることに不安を感じてしまうところばかり。坂井市、福井市の施設５～６ヶ所回りました。
娘	50歳代	女性	85-89歳	要介護1	施設での介護者が入所している人に対して少ないと思う。もう少し増やしてもらいたい（特に夜間は感じる）。 入所するにあたっての費用が高いと思います。検討してもらいたい。在宅での介護はとても大変で、介護する者の方が体力、気力、精神的に疲れ、ストレスになる。高齢者が多く、入所待ちでなかなか入れない状態なので、もっと施設を増やし費用ももう少し利用しやすい料金にしてもらえればと願います。
娘・息子の配偶者	60-64歳	女性	85-89歳	要介護3	認知症は先が見えない介護。肉体的にも精神的にもかなり負担になるが、目に見えない介護です。認知が進まないように努力していると介護度が普通ということも多い。時折無茶苦茶になり、暴言を吐き、手がつけられなくなるが、その場にいない他人にはわからないことが多い。もっと認知症を知ってほしい。
息子	70-74歳	女性	90-94歳	要支援1	ありがとう、今の余生は幸せです。
配偶者	80-84歳	女性	80-84歳	要介護5	本人が（栄養、鼻腔）受けている為、入所できるところがなく、お願いしてもどこもありません。一番の不安と悩みはもし私が動けなくなったりボケたりした時、看護ができなくなった時のことで考えただけでも不安です。今はどなたも熱心に本人ともども気遣って介護していただいていますが、先の不安には答えられません。どうぞ（胃の手術を受けているもので）鼻注栄養しているものにも受けて頂けるところをお願いします。そちらまで面接しなければならないのならいつでも行きます。勝手なことをいってすみませんでした。このアンケートで心強く生きてます。
娘・息子の配偶者	50歳代	女性	85-89歳	要介護3	利用している小規模多機能型居宅介護（きらめき）は、デイサービス、ショートステイ、共に大変満足しています。義母を自宅で介護できていると思っています。ただ、まるめなので夕食、掃除などは自費で他業者にお願いしています。夜のオムツ替えサービスはないので、留守が出来ない。

主な介護者の続柄	主な介護者の年齢	本人の性別	本人の年齢	要介護度	自由回答
配偶者	60-64歳	男性	70-74歳	要介護5	よくテレビ等で介護者が一息つきたい時とか用事がある時、３日とか一週間短期に入所させて頂けるような話が出ますが、実際は長期入所者の待機場所みたくなっているのが実情で、なかなか短期で利用したい時利用しづらい現状です。なんとかなりませんでしょうか。
配偶者	75-79歳	男性	80-84歳	要介護5	訪問看護さんに基本週５回、時には６回入っていただいております。こちらの話もよく聞いてくださったり、相談にも乗ってくださったり、教えてくださったり、緊急時（バルーン抜去など）には早朝でも休日でも駆けつけて下さり本当に良くしていただいております。暖かい季節には訪問入浴もお願いしておりました。ケアマネさんも親切で本当に助かります。皆さん大変なお仕事を本当に良くしてくださり、ただただ感謝です。今後、介護老人が増え、現在のような介護サービスが続けられるのか、少し心配になることもあります。
配偶者	75-79歳	男性	80-84歳	要介護3	１日でもショートステイに預けたいですが、本人が認知症で言うことをきかず、困ることがあります。私の愚痴ですが。
娘	50歳代	女性	85-89歳	要介護4	・病院の待ち時間が長かったり、車いす対応になってなかったりして困ることが多い。 ・体調が悪い時に通院できないと薬を出してもらえないので、心配になることがある。
息子	60-64歳	女性	85-89歳	要介護2	タクシーの補助サービスを受けているが、以前と比べて費用負担が高くなっている。年に数回しか使用しないのに高いと本人が利用できないと言っている。また、タクシーチケットを提示したらドライバーが嫌な顔をし、降車時の手伝いをしてくれなかった。
娘	50歳代	男性	95歳以上	要介護1	９６歳の父は、自宅で娘である私が毎日朝・夕食時の世話に行っています。自分で食事を手伝わなくてもとれるし、トイレも自分で歩いていくことができるので、本人の希望通り、自宅におります。高血圧や少しの認知もあり、内科で内服を頂いていますが、通院の時が一番大変です。待ち時間も長く、できればお医者様に自宅に来ていただけたらなといつも思っております。デイサービスなども好きではなく、お昼、ヘルパーさんに来て頂いてお風呂とお昼の食事をお願いしていますが、大変助かっています。病院に連れていくことが一番大変なので、往診して頂けるよう、お願いしたいと思います。よろしくお願いします。
娘・息子の配偶者	50歳代	男性	90-94歳	要介護4	今回急に父が倒れ、脳出血を起こし、右半身麻痺、失語状態になり入院、手術は無理、退院を言われた。在宅介護と言われても家族みんなの協力がなければ出来ない（家の中が暗い）。おかげさまで今回入所することができ、父も顔色が良くなり毎日リハビリをして頑張っています。介護サービスが利用でき、家族一同ありがたく思っています。今後多くの方がサービス利用できますように。
息子	50歳代	男性	90-94歳	要介護3	介護者の状態の進度が想像以上に早い。デイサービスと在宅でしばらく大丈夫と思っていたが、あっという間に入所形での介護が必要となったその時点でショートステイ、ロングステイの申込をしても、「あき」がなし、在宅及びデイサービスでの介護は転倒のリスクが高く、重症化しないか心配する毎日であった。
娘	70-74歳	女性	95歳以上	要介護1	私の老後（１０～１５年後）　８５歳～９０歳 昔は何世代も同居し、助け合いながらの生活でした。今は子家族は独立し、別世帯が多い。その状態で老いてから在宅介護は難しい。介護してもらう本人も遠慮しなければならない。また、女性の社会出現を政策としている中、介護しながら勤めるのは時間的にも制限されるし、精神的にも困難だと思う。訪問介護等も考えられるが、やはり家のことが気になり、仕事が疎かになると思う。負担はかけたくない。私の１０年後の心身はどうなっているか分かりませんが、介護が必要となれば入所を選びます。希望としては有料（10～15万）でも仕方がない。自分のできることは自分でやりながら介護を必要とすることは助けていただく。施設では毎日何らかの活動時間、活動スペースや内容があり、仲間や職員さんとのつながりをもって生きがいのある明るい自分らしく生きられるところがよい。先日「シェアハウス金沢」という施設の様子が放映されていた。一部だけで全体はわからないが私の思いに近い施設と思った。
娘	40歳代	女性	65-69歳	要介護2	話を聞いてくれるだけでいいので電話窓口があると嬉しい。辛くて苦しい時がある。
娘	40歳代	男性	70-74歳	要介護1	子供が小さいので、思うようなお世話が出来ません。申し訳ないと思って自分も責めますが、どうしようもありません。
娘	60-64歳	女性	85-89歳	要介護3	在宅で公共機関、人の手を要したいと思う時は、本人が精神的に不安状態にあるときの対処、排便や失禁等が続く時です。自分の家族だから、親だからと自分たちでできるだけ介護すべきだという気持ちはあるものの、実際のところ大変困難であると痛感します。こういう介護者の気持ちを地域全体が理解してほしいと思います。仕事、または所用で帰りが遅くなる時、家を空けなければならない時、一時的に入所できる、快く引き受けてくれる施設の充実を望んでいます。
-	-	女性	40-64歳	-	あて名本人は両親の介護をしております。今回のアンケートは該当しませんでした。 介護者が仕事と両立できる支援制度（企業側含め）、早急に確立してほしい。今後ますます介護者が増加するので、介護職員、サービス者の安定のため、報酬を見直し改善し、人員の確保を図ってほしい。両親二人の介護は経済面でも負担がかかるので、制度の支援を希望します。共倒れしないよう、行政も出来ることを考えてほしい。
娘・息子の配偶者	40歳代	女性	65-69歳	要介護1	相談しても他人事で、本人、家族のことを考えているとは思えない発言などが多い!!　仕事だからやっている感があり、仕方ないですが、それが見えるので相談もしたくなくなる!!

手法３　介護保険データの分析

１　調査概要

（１）分析の目的

坂井地区広域連合の介護保険サービスデータ・住民基本台帳結合データを用い、介護保険サービス利用の状況や背景要因の分析を行うことで、在宅や施設支援のあり方を検討し、住まいのアセスメントの参考とする。

（２）分析対象

坂井地区広域連合の介護保険サービス利用データ

（３）分析方法

クロス集計

（４）分析項目

項目	番号	設　問
１介護サービス利用者の状況	問１	性別
	問２	年齢
	問３	地区
	問４	世帯人員
	問５	世帯構成
	問６	保険料賦課段階
	問７	利用料負担割合
	問８	要介護度
２サービスの利用状況	問９	サービス利用（サービス名）６種類まで
３認知症と介護保険サービスに関する分析	問 10	認知症自立度（認定調査員）
	問 11	障害自立度（認定調査員）
４医療状況の分析	問 12	医療措置有無
	問 13	医療措置の内容
	問 14	医療措置の個数

２　分析結果

（１）分析結果のまとめ

①　介護サービス利用者の状況

・性別は、女性が７割を占めている。（問１）

・年代は、多い順に「85～89 歳」の 1,434 人（29.3%）、「80～84 歳」の 1,088 人（22.2%）、「90～94 歳」の 1,011 人（20.6%）となっている。平均年齢は 84.94 歳である。（問２）

・世帯人員・世帯構成は、世帯人員「1 人」の「独居世帯」が 1,262 人（25.7%）で全体の４分の１を占めている。世帯人員２人以上の同居世帯は、3,628 人（74.0%）となっている。また、同居世帯で 2 人世帯のうち構成員が 65 歳以上の「老老世帯」が 839 人（17.1%）である。（問４，問５）

・要介護状態は、「要介護１」が 25.5%で最も多い。次いで「要介護４」が 846 人（17.3%）である。（問８）

②　サービス利用状況

・介護サービスの利用者構成比は、「居宅サービス（介護予防含む）」が 3,345 人（68.3%）、「居住系サービス（介護予防含む）」が 358 人（7.3%）、「施設サービス」が 1,198 人（24.4%）となっている。（問９－１）

・要介護１以上の居宅サービス利用者の利用状況は、多い順に「通所介護」が 54.2%、「福祉用具貸与」が 54.1%、「通所リハビリテーション」が 21.1%と続いている。通所系サービスの利用が活発である。（問９－２）

・居住系サービスは、「認知症対応型共同生活介護（短期利用含む）」が 198 人（55.9%）、「特定施設入居者生活介護（地域密着型、短期利用含む）」が 156 人（44.1%）となっている。（問９－３）

・施設系サービスは、「介護老人福祉施設」が 497 人（41.5%）「介護老人保健施設」が 443 人（37.0%）となっている。（問９－４）

・要介護度別みた居宅サービスは、「福祉用具貸与」の利用は、要介護度が高くなると利用率も高くなる。「通所介護」の利用率は、要介護度が高くても 50%前後を推移している。

・要介護度別にみた居住系サービスは、要介護１が最も利用が多い。「特定施設入居者生活介護」は 47 人、「認知症対応型共同生活介護」は 71 人である。

・要介護度別にみた施設サービスは、要介護３以上の介護度で利用者数が増えている。

・要介護度別に居宅サービス利用者が、サービスをどのように組み合わせて利用しているかをみたところ、多かった組み合わせは通所系サービスと福祉用具貸与の組み合わせであった。「通所介護+福祉用具貸与」が 28.6%で最も多く、要介護５では 42.9%となっている。

③　認知症と介護保険サービスに関する分析

・認知症の状況（日常生活自立度）は、「Ⅱb」が 29.9%で最も多い。「自立」が 9.7%であり、何らかの認知機能の低下が認められる人が９割を占めている。また見守りが必要な人（自立度Ⅱ以上）も７割以上となっている。（問 10）

・認知症自立度別にみた利用しているサービスは、「Ⅱb」までは居宅サービスと地域密着型サービスの利用がほとんどで、「Ⅲa」以降は施設サービスの利用となっている。

④　医療の状況の分析

・医療措置の有無は、「あり」が 13.8%となっている。また要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれて医療措置を受けている人が増えている。（問 12）

・医療措置の内容は、「中心静脈栄養」が 35.8%で最も多い。（問 13）

・医療措置の個数は、「1 個」が８割を占めている。（問 14）

⑤　サービス利用の要因に関する分析

・家族構成（独居世帯、同居世帯、老老世帯）によって、３つの居宅サービス（訪問介護、通所介護、ショートステイ）の利用にどのような違いがあるかを要介護度別にみたところ、訪問介護では、独居世帯の要介護３、要介護５の利用割合が高くなっているが、通所介護は世帯構成での違いはなかった。

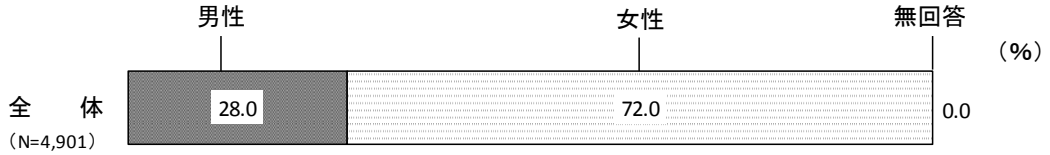
（２）介護サービス利用者の状況

①　性・年代

ア．性別（問１）

性別は、「男性」が 28.0%、「女性」が 72.0%である。

図表３－３－１　性別（全体）



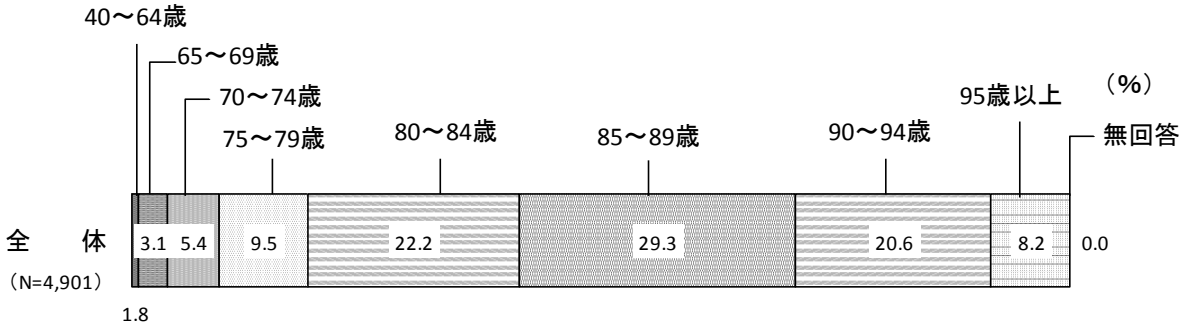
[上段:N、下段:%]

	男性	女性	無回答
全　体 4,901 / 100.0	1,371 / 28.0	3,530 / 72.0	0 / 0.0

イ．年代（問２）

年代（８区分）は、「85～89 歳」が 29.3%、「80～84 歳」が 22.2%、「90～94 歳」が 20.6%であり、平均年齢は 84.94 歳となっている。

図表３－３－２　年代（8 区分）（全体）



[上段:N、下段:%]

	40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	無回答	平均
全　体 4,901 / 100.0	86 / 1.8	152 / 3.1	263 / 5.4	466 / 9.5	1,088 / 22.2	1,434 / 29.3	1,011 / 20.6	401 / 8.2	0 / 0.0	84.94

ウ．地区別の対象者の年代（問１，問２，問３）

あわら市・坂井市それぞれの男女・年代別の年齢構成は、あわら市の対象者平均年齢は84.9 歳（男性 81.8 歳、女性 86.0 歳）、坂井市の対象者平均年齢は 84.9 歳（男性 81.8 歳、女性 86.2 歳）となっている。

図表３－３－３－①　あわら市における対象者の年代（全体、男女・年代別）

[上段:n、下段:%]

			40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	無回答	平均（歳）
全体		1,303 100.0	27 2.1	44 3.4	71 5.4	99 7.6	289 22.2	385 29.5	289 22.2	99 7.6	0 0.0	84.94
男女別	男性	328 100.0	18 5.5	20 6.1	30 9.1	33 10.1	70 21.3	95 29.0	49 14.9	13 4.0	0 0.0	81.81
	女性	975 100.0	9 0.9	24 2.5	41 4.2	66 6.8	219 22.5	290 29.7	240 24.6	86 8.8	0 0.0	85.99

図表３－３－３－②　坂井市における対象者の年代（全体、男女・年代別）

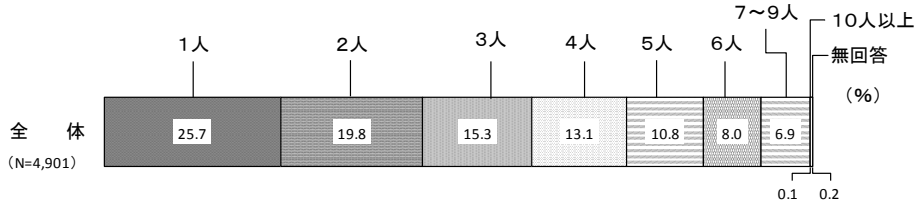
[上段:n、下段:%]

			40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	無回答	平均（歳）
全体		3,538 100.0	58 1.6	107 3.0	186 5.3	364 10.3	793 22.4	1,029 29.1	705 19.9	296 8.4	0 0.0	84.93
男女別	男性	1,030 100.0	34 3.3	69 6.7	88 8.5	152 14.8	261 25.3	249 24.2	142 13.8	35 3.4	0 0.0	81.81
	女性	2,508 100.0	24 1.0	38 1.5	98 3.9	212 8.5	532 21.2	780 31.1	563 22.4	261 10.4	0 0.0	86.20

② 世帯人員（問４）

世帯人員で、最も多いのが「１人」で 25.7%、「２人」が 19.8%、「３人」が 15.3%等となっている。「１人」すなわち独居世帯は全体の４分の１を占めている。

図表３－３－３－③　世帯人員（全体）



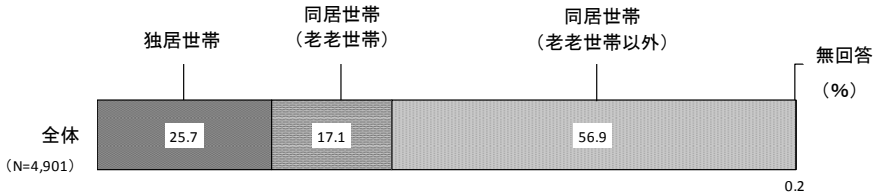
[上段:N、下段:%]

		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7～9人	10人以上	無回答
全　体	4,901 100.0	1,262 25.7	971 19.8	749 15.3	644 13.1	530 10.8	390 8.0	338 6.9	6 0.1	11 0.2

③　世帯構成（問５）

世帯構成の概要は、「独居世帯」（世帯人員１名）は 25.7%、それ以外の同居世帯は 74.0%となっている。同居世帯で２人世帯のうち構成員が 65 歳以上の老老世帯は 839 で全体の 17.1%である。

図表３－３－４　世帯構成の割合（全体）



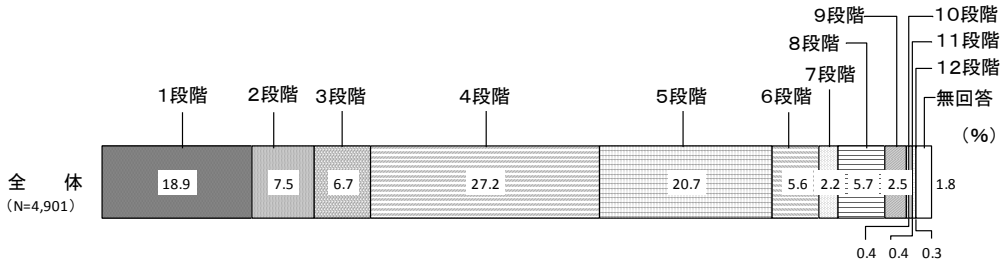
［上段:N、下段:%］

	独居世帯	同居世帯（老老世帯）	同居世帯（老老世帯以外）	無回答
全体 4,901	1,262	839	2,789	11
100.0	25.7	17.1	56.9	0.2

④　保険料賦課段階（問６）

坂井地区広域連合の介護保険料賦課段階は 12 段階となっているが、最も多いのが「４段階」の 27.2%、「５段階」の 20.7%で、全体の半数近くとなっている。「１段階」は 18.9%、「２段階」は 7.5%、「３段階」は 6.7%と、いわゆる低所得層の方は３割となっている。

図表３－３－５　保険料賦課段階構成比（全体）



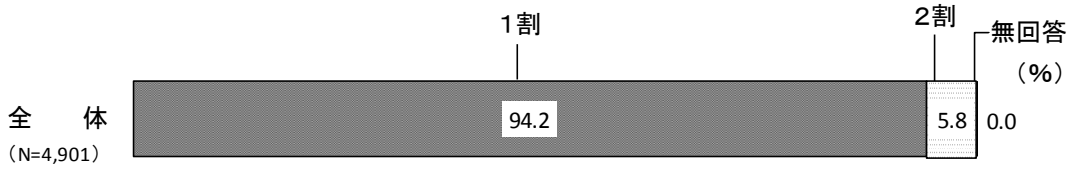
［上段:N、下段:%］

			1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階	7段階	8段階	9段階	10段階	11段階	12段階	無回答
全体		4,901	928	369	330	1,335	1,015	276	107	278	121	19	21	16	86
		100.0	18.9	7.5	6.7	27.2	20.7	5.6	2.2	5.7	2.5	0.4	0.4	0.3	1.8
性別	男性	1,371	106	70	157	119	300	133	81	215	102	10	14	11	53
		100.0	7.7	5.1	11.5	8.7	21.9	9.7	5.9	15.7	7.4	0.7	1.0	0.8	3.9
	女性	3,530	822	299	173	1,216	715	143	26	63	19	9	7	5	33
		100.0	23.3	8.5	4.9	34.4	20.3	4.1	0.7	1.8	0.5	0.3	0.2	0.1	0.9

⑤　利用料負担割合（問７）

平成 27 年度より一定収入以上ある人の利用料が２割となったところだが、２割負担の方は 282 人（5.8%）であった。男女別にみると、男性は「２割負担」が 16.4%だが、女性は 1.6%であった。

図表３－３－６　利用料負担割合区分（全体）



［上段:N、下段:%］

			1割	2割	無回答
全体		4,901 100.0	4,617 94.2	282 5.8	2 0.0
性別	男性	1,371 100.0	1,145 83.5	225 16.4	1 0.1
	女性	3,530 100.0	3,472 98.4	57 1.6	1 0.0

⑥　要介護状態（問８）

対象者の要介護度は、「要支援１」が 7.4%、「要支援２」が 9.0%、「要介護１」が 25.5%、「要介護２」が 16.7%、「要介護３」が 12.6%、「要介護４」が 17.3%、「要介護５」が 11.4%で平均要介護度は 2.35 であった。

図表３－３－７　要介護度（全体）

［上段:実数、下段:%］

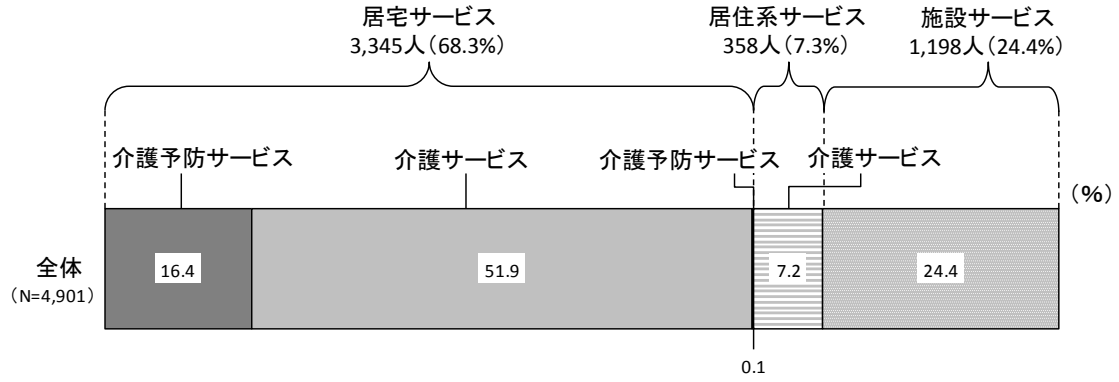
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	平均
全体	4,901 100.0	364 7.4	442 9.0	1,249 25.5	820 16.7	619 12.6	846 17.3	561 11.4	0 0.0	2.35

（３）サービスの利用状況

①　介護サービス利用者の構成比（問９－１）

サービス利用の構成比は、居宅サービス利用者は3,345 人で 68.3%、居住系サービス（介護予防含む）利用者は 358 人で 7.3%、施設サービス利用者は 1,198 人で 24.4%であった。

図表３－３－８－①　サービス利用の構成比（全体）



図表３－３－８－②　要介護度別サービス利用状況
（全体、要介護度別）

［上段:n、下段:%］

			居宅サービス		居住系サービス		施設サービス
			介護予防サービス	介護サービス	介護予防サービス	介護サービス	
全体		4,901 100.0	802 16.4	2,543 51.9	4 0.1	354 7.2	1,198 24.4
要介護度	要支援１	364 100.0	363 99.7	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0
	要支援２	442 100.0	439 99.3	0 0.0	3 0.7	0 0.0	0 0.0
	要介護１	1,249 100.0	0 0.0	1,078 86.3	0 0.0	118 9.4	53 4.2
	要介護２	820 100.0	0 0.0	622 75.9	0 0.0	94 11.5	104 12.7
	要介護３	619 100.0	0 0.0	355 57.4	0 0.0	64 10.3	200 32.3
	要介護４	846 100.0	0 0.0	318 37.6	0 0.0	50 5.9	478 56.5
	要介護５	561 100.0	0 0.0	170 30.3	0 0.0	28 5.0	363 64.7

②　介護サービスの利用状況

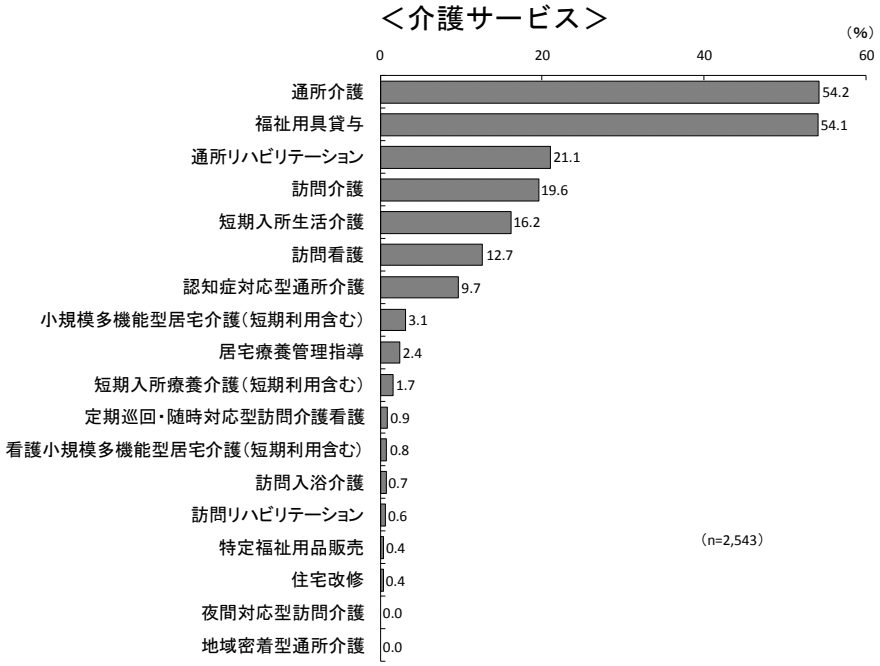
ア．居宅サービス（問９－２）

要介護状態の居宅サービス利用者（2,543 人）のサービスの利用状況は、最も多いのが「通所介護」で 54.2%、次いで「福祉用具貸与」が 54.1%であった。以下、「通所リハビリテーション」が 21.1%、「訪問介護」が 19.6%であり、「ショートステイ」が 16.2%であり、通所介護の利用が最も活発であることがわかる。

要支援状態の居宅サービス利用者（802 人）のサービス利用状況は、最も多いのが「介護予防通所介護」で 50.1%、次いで「介護予防福祉用具貸与」が 36.4%となっている。

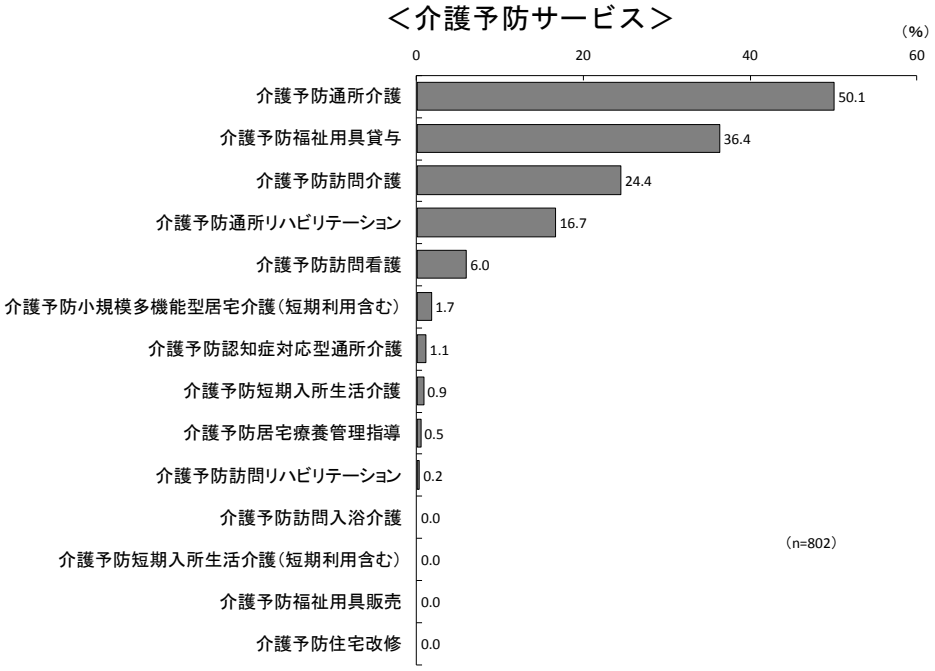
図表３－３－９－①　居宅サービス利用者のサービス利用率（全体：複数回答）

＜介護サービス＞



図表３－３－９－②　居宅サービス利用者のサービス利用率（全体：複数回答）

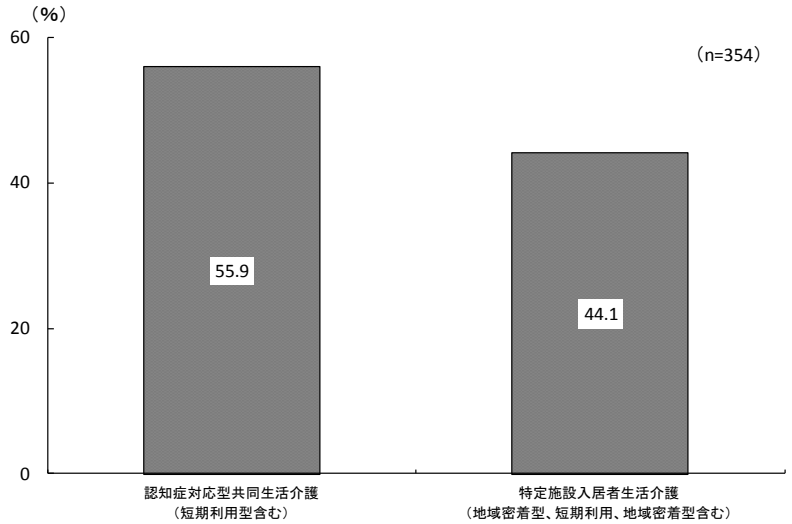
＜介護予防サービス＞



イ．居住系サービス（問９－３）

居住系サービスの利用は、全体で 354 人であるが、このうち認知症対応型共同生活介護は 198 人（55.9%）、特定施設入居者介護は 156 人（44.1%）となっている。

図表３－３－１０　居住系サービス利用者のサービス利用率（全体）



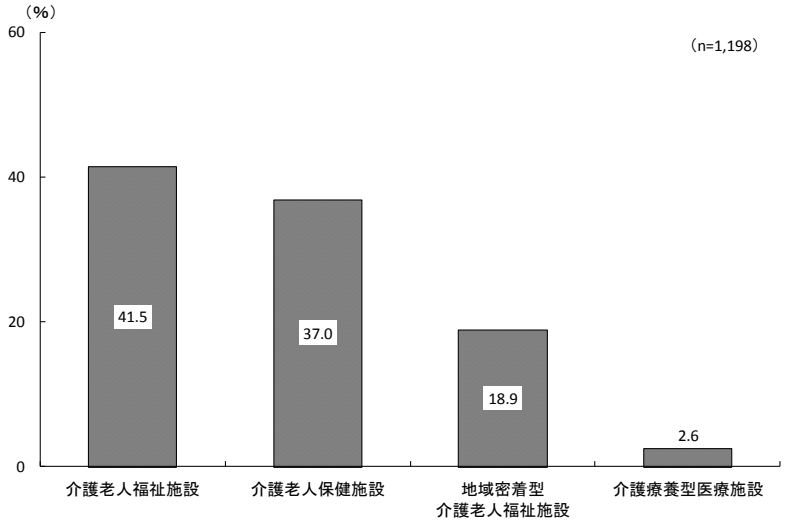
［上段:n、下段:%］

		認知症対応型共同生活介護（短期利用型含む）	特定施設入居者生活介護（地域密着型、短期利用、地域密着型含む）
全体	354	198	156
	100.0	55.9	44.1

ウ．施設系サービス（問９－４）

施設系サービスの利用は、全体で 1,198 人であるが、このうち介護老人福祉施設が 497 人（41.5%）、地域密着型介護老人福祉施設が 227 人（18.9%）であり、介護老人保健施設は 443 人（37.0%）、介護療養型医療施設は 31 人（2.6%）であった。

図表３－３－１１　施設サービス利用者のサービス利用率（全体）



［上段:n、下段:%］

		介護老人福祉施設	介護老人保健施設	地域密着型介護老人福祉施設	介護療養型医療施設
全体	1,198	497	443	227	31
	100.0	41.5	37.0	18.9	2.6

③　要介護度別にみた居宅サービス利用状況

居宅サービス利用者のサービス利用状況は、通所介護が 54.2%で最も多く、通所リハビリテーションが 21.1%、認知症対応型通所介護 9.7%であり、これら通所系サービスの利用が活発である。また福祉用具の貸与も 54.1%となっている。

他方、訪問介護は 19.6%、訪問看護は 12.7%、訪問リハビリテーションは 0.6%で通所系に比べた利用割合は低くなっている。

居宅サービス利用者の数は要介護度が高くなると低くなり、要介護５では 170 人となるが、通所介護の利用率は要介護１～要介護５まで 50%前後で維持される。また、要介護度が高くになるに従い、福祉用具の利用率も上昇し、要介護４以上で 80%を超えるようになる。訪問介護と訪問看護の利用率は要介護５になるとそれぞれ 30%台となる。

図表３－３－１２　居宅サービスの利用状況（全体、要介護度別：複数回答）

［上段:n、下段:%］

		訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	通所介護	地域密着型通所介護	通所リハビリテーション	認知症対応型通所介護	短期入所生活介護	短期入所療養介護（短期利用含む）	小規模多機能型居宅介護（短期利用含む）	看護小規模多機能型居宅介護（短期利用含む）	福祉用具貸与	特定福祉用品販売	住宅改修	無回答
全体		2,543	498	19	322	16	61	0	24	1,378	0	536	246	412	42	80	20	1,375	11	10	0
		100.0	19.6	0.7	12.7	0.6	2.4	0.0	0.9	54.2	0.0	21.1	9.7	16.2	1.7	3.1	0.8	54.1	0.4	0.4	0.0
要介護度別	要介護１	1,078	203	0	81	3	13	0	11	610	0	217	95	76	10	33	2	379	4	4	0
		100.0	18.8	0.0	7.5	0.3	1.2	0.0	1.0	56.6	0.0	20.1	8.8	7.1	0.9	3.1	0.2	35.2	0.4	0.4	0.0
	要介護２	622	102	0	71	3	9	0	6	340	0	134	57	84	5	19	3	357	6	3	0
		100.0	16.4	0.0	11.4	0.5	1.4	0.0	1.0	54.7	0.0	21.5	9.2	13.5	0.8	3.1	0.5	57.4	1.0	0.5	0.0
	要介護３	355	67	1	45	2	4	0	4	189	0	76	42	103	8	13	3	238	0	1	0
		100.0	18.9	0.3	12.7	0.6	1.1	0.0	1.1	53.2	0.0	21.4	11.8	29.0	2.3	3.7	0.8	67.0	0.0	0.3	0.0
	要介護４	318	71	6	66	4	19	0	3	157	0	78	33	97	8	10	4	259	1	2	0
		100.0	22.3	1.9	20.8	1.3	6.0	0.0	0.9	49.4	0.0	24.5	10.4	30.5	2.5	3.1	1.3	81.4	0.3	0.6	0.0
	要介護５	170	55	12	59	4	16	0	0	82	0	31	19	52	11	5	8	142	0	0	0
		100.0	32.4	7.1	34.7	2.4	9.4	0.0	0.0	48.2	0.0	18.2	11.2	30.6	6.5	2.9	4.7	83.5	0.0	0.0	0.0

要介護度別の居住系サービスの利用状況については、特定施設入居者生活介護と認知症対応型共同生活介護ともに要介護１～５までの利用があるが人数は要介護１がピークとなっている。

図表３－３－１３　居住系サービス（全体、要介護度別）

［上段:n、下段:%］

			特定施設入居者生活介護（地域密着型、短期利用、地域密着型含む）	認知症対応型共同生活介護（短期利用型含む）
全体		354 100.0	156 44.1	198 55.9
要介護度別	要介護１	118 100.0	47 39.8	71 60.2
	要介護２	94 100.0	36 38.3	58 61.7
	要介護３	64 100.0	26 40.6	38 59.4
	要介護４	50 100.0	33 43.6	17 56.4
	要介護５	28 100.0	14 43.6	14 56.4

要介護度別の施設サービスの利用状況については、介護老人福祉施設では要介護４・５で 392 人、地域密着型介護老人福祉施設では 157 人と利用者の大半を占めている。介護老人保健施設も要介護４・５が 267 人に上っており、施設サービスは重度の方の利用が殆どであることがわかる。

図表３－３－１４　施設サービスの利用状況（全体、要介護度別）

［上段:n、下段:%］

			介護老人福祉施設	地域密着型介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設
全体		1,198 100.0	497 41.5	227 18.9	443 37.0	31 2.6
要介護度別	要介護１	53 100.0	10 18.9	4 7.5	37 69.8	2 3.8
	要介護２	104 100.0	30 28.8	25 24.0	48 46.2	1 1.0
	要介護３	200 100.0	65 32.5	41 20.5	91 45.5	3 1.5
	要介護４	478 100.0	215 45.0	86 18.0	166 34.7	11 2.3
	要介護５	363 100.0	177 48.8	71 19.6	101 27.8	14 3.9

③　サービスパッケージの状況

単機能、２サービス、３以上サービスの組み合わせ（多いもの）

居宅サービス利用者が、サービスをどのように組み合わせて使っているかを分析したところ、最も多いのが「通所介護+福祉用具」が 28.6%、「通所リハ+福祉用具」が 13.6%、「訪問介護+福祉用具」が 12.2%であり、すべて福祉用具との組み合わせであった。

「訪問介護+通所介護」は 10.7%、「訪問看護+通所介護」は 6.1%と、訪問系+通所系を組み合わせる利用パターンは要介護４・５でも極めて少なかった。

図表３－３－１５　サービスパッケージの状況（全体、要介護度別：複数回答）

［上段:n、下段:%］

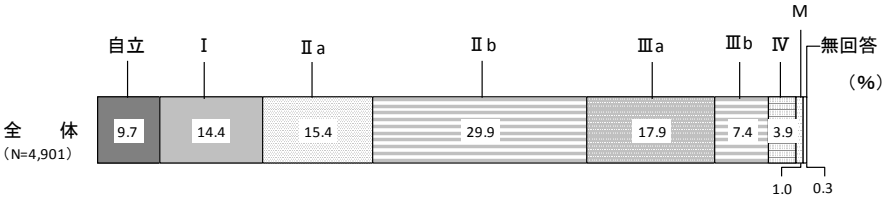
		単機能型											複数機能型																在宅拡充型				無回答
		通所介護を利用している	通所リハビリテーションを利用している	認知症対応型通所介護を利用している	地域密着型通所介護を利用している	訪問介護を利用している	訪問看護を利用している	訪問リハビリテーションを利用している	短期入所生活介護を利用している	短期入所療養介護を利用している（介護老人保健施設）	短期入所療養介護を利用している（介護療養型医療施設等）	福祉用具貸与を利用している	訪問介護＋通所介護	訪問介護＋訪問看護	訪問介護＋通所リハビリテーション	訪問介護＋福祉用具貸与	訪問介護＋短期入所生活介護	短期入所生活介護＋通所リハビリテーション	短期入所生活介護＋福祉用具	通所介護＋訪問看護	通所介護＋福祉用具	通所介護＋短期入所生活介護	通所介護＋短期入所療養介護（介護老人保健施設）	通所介護＋居宅療養管理指導	通所リハビリテーション＋福祉用具	訪問介護＋通所介護＋短期入所生活介護	訪問介護＋短期入所生活介護＋福祉用具	通所介護＋短期入所生活介護＋福祉用具	定期巡回随時対応型訪問介護看護	通所介護＋定期巡回随時対応型訪問介護安吾	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	
全体		2,543 100.0	1,378 54.2	536 21.1	246 9.7	0 0.0	498 19.6	322 12.7	16 0.6	412 16.2	41 1.6	1 0.0	1,375 54.1	273 10.7	119 4.7	82 3.2	309 12.2	45 1.8	56 2.2	216 8.5	154 6.1	728 28.6	219 8.6	13 0.5	30 1.2	345 13.6	29 1.1	38 1.5	135 5.3	24 0.9	13 0.5	80 3.1	20 0.8	1 0.0
要介護度別	要介護１	1,078 100.0	610 56.6	217 20.1	95 8.8	0 0.0	203 18.8	81 7.5	3 0.3	76 7.1	10 0.9	0 0.0	379 35.2	99 9.2	31 2.9	27 2.5	82 7.6	4 0.4	8 0.7	23 2.1	30 2.8	206 19.1	49 4.5	1 0.1	6 0.6	86 8.0	3 0.3	2 0.2	16 1.5	11 1.0	5 0.5	33 3.1	2 0.2	1 0.1
	要介護２	622 100.0	340 54.7	134 21.5	57 9.2	0 0.0	102 16.4	71 11.4	3 0.5	84 13.5	5 0.8	0 0.0	357 57.4	56 9.0	22 3.5	12 1.9	64 10.3	6 1.0	20 3.2	34 5.5	30 4.8	183 29.4	48 7.7	1 0.2	2 0.3	91 14.6	5 0.8	5 0.8	23 3.7	6 1.0	2 0.3	19 3.1	3 0.5	0 0.0
	要介護３	355 100.0	189 53.2	76 21.4	42 11.8	0 0.0	67 18.9	45 12.7	2 0.6	103 29.0	8 2.3	0 0.0	238 67.0	45 12.7	14 3.9	15 4.2	53 14.9	6 1.7	6 1.7	55 15.5	26 7.3	133 37.5	50 14.1	3 0.8	1 0.3	61 17.2	2 0.6	4 1.1	32 9.0	4 1.1	4 1.1	13 3.7	3 0.8	0 0.0
	要介護４	318 100.0	157 49.4	78 24.5	33 10.4	0 0.0	71 22.3	66 20.8	4 1.3	97 30.5	8 2.5	0 0.0	259 81.4	43 13.5	25 7.9	20 6.3	58 18.2	16 5.0	16 5.0	70 22.0	36 11.3	133 41.8	46 14.5	2 0.6	11 3.5	76 23.9	10 3.1	15 4.7	41 12.9	3 0.9	2 0.6	10 3.1	4 1.3	0 0.0
	要介護５	170 100.0	82 48.2	31 18.2	19 11.2	0 0.0	55 32.4	59 34.7	4 2.4	52 30.6	10 5.9	1 0.6	142 83.5	30 17.6	27 15.9	8 4.7	52 30.6	13 7.6	6 3.5	34 20.0	32 18.8	73 42.9	26 15.3	6 3.5	10 5.9	31 18.2	9 5.3	12 7.1	23 13.5	0 0.0	0 0.0	5 2.9	8 4.7	0 0.0

（4）認知症と介護保険サービスに関する分析

①　認知症の状況（認定調査員、８区分）（問 10）

対象者の認知症の状況を、認知症高齢者の日常生活自立度（認定調査員調査分）でみると、最も多いのが「Ⅱb」の 29.9%、次いで「Ⅲa」の 17.9%、「Ⅱa」の 15.4%であった。「自立」は 9.7%であったことから、何らかの認知症の状況の人（自立度Ⅰ以上）はサービス利用者の９割に上り、見守りが必要な人（自立度Ⅱ以上）も７割以上となっている。

図表３－３－１６－①　認知症高齢者の日常生活自立度（認定調査員調査分）（全体）



［上段:N、下段:%］

		自立	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答
全　体	4,901	477	706	756	1,465	879	363	191	51	13
	100.0	9.7	14.4	15.4	29.9	17.9	7.4	3.9	1.0	0.3

要介護度別にみると、要支援１と要支援２では、「自立」が各々34.1%、40.0%であり、「Ⅰ」が 38.2%、49.8%となっている。要介護１では「Ⅱｂ」が 54.4%、「Ⅱa」が 26.3%、要介護２も「Ⅱｂ」が 46.3%と半数近くを占める。要介護３では「Ⅱｂ」、「Ⅲa」、「Ⅲｂ」がそれぞれ 26.7%、32.0%、17.3%と幅があるが、要介護４では「Ⅲa」39.5%となり、要介護５では「Ⅲb」が 19.1%、「Ⅳ」が 22.8%と、要介護度が重くなると認知症の状況も重度化する。

図表３－３－１６－②　認知症高齢者の日常生活自立度 8 区分（認定調査員調査分）
（全体、要介護度別）

［上段:N、下段:%］

			自立	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答
全体		4,901	477	706	756	1,465	879	363	191	51	13
		100.0	9.7	14.4	15.4	29.9	17.9	7.4	3.9	1.0	0.3
要介護度	要支援１	364	124	139	62	39	0	0	0	0	0
		100.0	34.1	38.2	17.0	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要支援２	442	177	220	38	5	0	0	0	0	2
		100.0	40.0	49.8	8.6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	要介護１	1,249	71	161	329	679	4	1	0	0	4
		100.0	5.7	12.9	26.3	54.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.3
	要介護２	820	49	87	130	380	121	50	0	0	3
		100.0	6.0	10.6	15.9	46.3	14.8	6.1	0.0	0.0	0.4
	要介護３	619	23	39	84	165	198	107	1	0	2
		100.0	3.7	6.3	13.6	26.7	32.0	17.3	0.2	0.0	0.3
	要介護４	846	25	50	91	155	334	98	62	31	0
		100.0	3.0	5.9	10.8	18.3	39.5	11.6	7.3	3.7	0.0
	要介護５	561	8	10	22	42	222	107	128	20	2
		100.0	1.4	1.8	3.9	7.5	39.6	19.1	22.8	3.6	0.4

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例	判断にあたっての留意事項
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。		在宅生活が基本であり、一人暮らしも可能である。相談、指導等を実施することにより、症状の改善や進行の阻止を図る。
Ⅱ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		在宅生活が基本であるが、一人暮らしは困難な場合もあるので、日中の居宅サービスを利用することにより、在宅生活の支援と症状の改善及び進行の阻止をる。
Ⅱａ	家庭外で上記Ⅱの状態がみられる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
Ⅱｂ	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない等	
Ⅲ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。		日常生活に支障を来たすような行動や意思疎通の困難さがランクⅡより重度となり、介護が必要となる状態である。「ときどき」とはどのくらいの頻度を指すかについては、症状・行動の種類等により異なるので一概には決められないが、一時も目を離せない状態ではない。 在宅生活が基本であるが、一人暮らしは困難であるので、夜間の利用も含めた居宅サービスを利用しこれらのサービスを組み合わせることによる在宅での対応を図る。
Ⅲａ	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
Ⅲｂ	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢａに同じ	
Ⅳ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ	常に目を離すことができない状態である。症状・行動はランクⅢと同じであるが、頻度の違いにより区分される。 家族の介護力等の在宅基盤の強弱により居宅サービスを利用しながら在宅生活を続けるか、又は特別養護老人ホーム・老人保健施設等の施設サービスを利用するかを選択する。施設サービスを選択する場合には、施設の特徴を踏まえた選択を行う。
Ｍ	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	ランクⅠ～Ⅴと制定されていた高齢者が、精神病院や認知症専門棟を有する老人保健施設等での治療が必要となったり、重篤な身体疾患が見られ老人病院等での治療が必要となった状態である。専門医療機関を受診するよう勧める必要がある。

（平成18年４月３日　老発第　0409003号「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」の活用についての一部改正について）

② 認知症自立度と障害自立度との関連について（問 11）

対象者の障害高齢者の日常生活自度で最も多いのが「A（準寝たきり：屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない）」であり、うち「A１」が 21.4%、「A２」が 25.8%であり、以下「B2」が 19.2%、「J2」が 12.7%であった。

認知症自立度と障害自立度との関係をみると、認知症自立度が「自立」だと障害自立度は「A1」が 24.1%、「A2」が 23.1%であるが、「Ⅰ」だと「A2」が 35.1%となる。また「Ⅱa」でも「A2」が 35.2%、「Ⅱb」でも「A2」が 31.9%となっている。しかし認知症自立度がⅢ以上になると、「B2」の割合が高くなり「Ⅲa」では 43.9%、「Ⅲｂ」では 38.0%と高率になる。さらに「Ⅳ」では「C2」が 69.6%、「M」も「C2」が 100%となり、認知症の自立度と寝たきり度とが相関関係にあることがわかる。

図表３－３－１７　障害高齢者の日常生活自立度 9 区分
（全体、認知症自立度別（認定調査員調査分））

［上段:N、下段:%］

			自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	無回答
全体		4,901	1	342	620	1,047	1,265	313	940	10	350	13
		100.0	0.0	7.0	12.7	21.4	25.8	6.4	19.2	0.2	7.1	0.3
認知症自立度	自立	477	1	131	62	115	110	27	26	0	5	0
		100.0	0.2	27.5	13.0	24.1	23.1	5.7	5.5	0.0	1.0	0.0
	Ⅰ	706	0	101	104	150	248	48	52	0	3	0
		100.0	0.0	14.3	14.7	21.2	35.1	6.8	7.4	0.0	0.4	0.0
	Ⅱａ	756	0	46	103	133	266	81	122	1	4	0
		100.0	0.0	6.1	13.6	17.6	35.2	10.7	16.1	0.1	0.5	0.0
	Ⅱｂ	1,465	0	60	281	373	467	94	175	2	13	0
		100.0	0.0	4.1	19.2	25.5	31.9	6.4	11.9	0.1	0.9	0.0
	Ⅲａ	879	0	3	32	173	119	44	386	4	118	0
		100.0	0.0	0.3	3.6	19.7	13.5	5.0	43.9	0.5	13.4	0.0
	Ⅲｂ	363	0	1	37	90	54	19	138	1	23	0
		100.0	0.0	0.3	10.2	24.8	14.9	5.2	38.0	0.3	6.3	0.0
	Ⅳ	191	0	0	1	13	1	0	41	2	133	0
		100.0	0.0	0.0	0.5	6.8	0.5	0.0	21.5	1.0	69.6	0.0
	M	51	0	0	0	0	0	0	0	0	51	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）

生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうてない

③　認知症とサービスの利用に関する分析

認知症自立度ごとに、サービスの利用状況をみると、自立とⅠでは「居宅サービス（介護予防）」の利用割合が高く、自立からⅡｂまでは「居宅サービス、地域密着型サービス」の利用割合が高い。Ⅲａ以上になると、「施設サービス」の割合が高くなり、Ⅲａで52.9%、Ⅳでは70.7%になり殆どが施設利用となる。

図表３－３－１８　サービス種別利用状況

（全体、認知症自立度別（認定調査員調査分））

［上段:N、下段:%］

			居宅サービス、地域密着型サービス	居住系サービス	施設サービス	居宅サービス（介護予防）	居住系サービス（介護予防）	無回答
全体		4,901	2,534	354	1,196	800	4	13
		100.0	51.7	7.2	24.4	16.3	0.1	0.3
認知症自立度	自立	477	168	2	6	299	2	0
		100.0	35.2	0.4	1.3	62.7	0.4	0.0
	Ⅰ	706	289	17	41	358	1	0
		100.0	40.9	2.4	5.8	50.7	0.1	0.0
	Ⅱａ	756	494	48	114	99	1	0
		100.0	65.3	6.3	15.1	13.1	0.1	0.0
	Ⅱｂ	1,465	1,054	146	221	44	0	0
		100.0	71.9	10.0	15.1	3.0	0.0	0.0
	Ⅲａ	879	332	82	465	0	0	0
		100.0	37.8	9.3	52.9	0.0	0.0	0.0
	Ⅲｂ	363	140	53	170	0	0	0
		100.0	38.6	14.6	46.8	0.0	0.0	0.0
	Ⅳ	191	50	6	135	0	0	0
		100.0	26.2	3.1	70.7	0.0	0.0	0.0
	Ｍ	51	7	0	44	0	0	0
		100.0	13.7	0.0	86.3	0.0	0.0	0.0

（５）医療の状況の分析

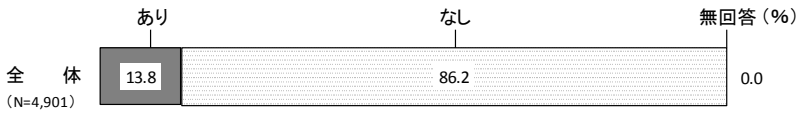
①　医療の状況（医療措置の有無、個別の状況）

ア．医療措置の有無（問 12）

医療措置の有無をみると、全体の 13.8%にあたる 674 人が特別な医療を受けているとしている。

要介護度別に、「あり」の割合をみると、要介護４では 24.0%、要介護５では 41.7%要介護度が高くなるに従い、医療措置を受けている人が増える。

図表３－３－１９－①　医療措置の有無（全体）



図表３－３－１９－②　医療措置の有無（全体、要介護度別）

［上段:N、下段:%］

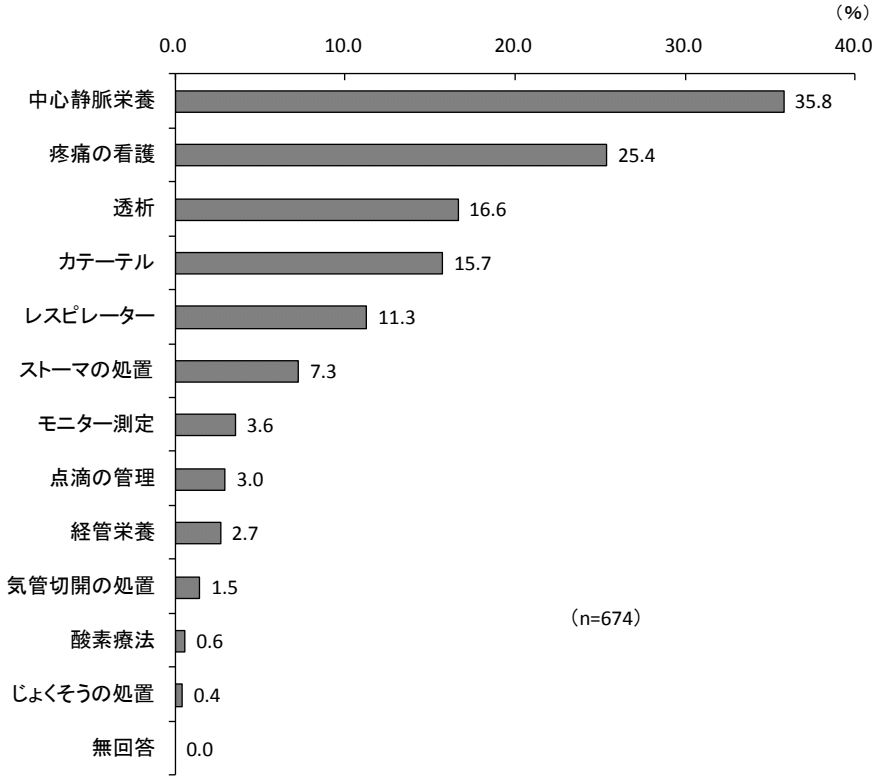
			あり	なし	無回答
全体		4,901 100.0	674 13.8	4,227 86.2	0 0.0
要介護度	要支援１	364 100.0	9 2.5	355 97.5	0 0.0
	要支援２	442 100.0	37 8.4	405 91.6	0 0.0
	要介護１	1,249 100.0	51 4.1	1,198 95.9	0 0.0
	要介護２	820 100.0	78 9.5	742 90.5	0 0.0
	要介護３	619 100.0	62 10.0	557 90.0	0 0.0
	要介護４	846 100.0	203 24.0	643 76.0	0 0.0
	要介護５	561 100.0	234 41.7	327 58.3	0 0.0

イ．医療措置の内容（問 13）

医療措置がある人の内容をみると、「中心静脈栄養」が 35.8%で最も多く、「疼痛の看護」が 25.4%で続いている。

要介護度別にみると、上位２項目とも、殆どが要介護４と要介護５での利用となっている。

図表３－３－２０－①　医療措置の内容（全体：複数回答）
＜医療措置ありと回答した人＞



図表３－３－２０－②　医療措置の内容（全体：複数回答、要介護度別）
＜医療措置ありと回答した人＞

［上段:n、下段:%］

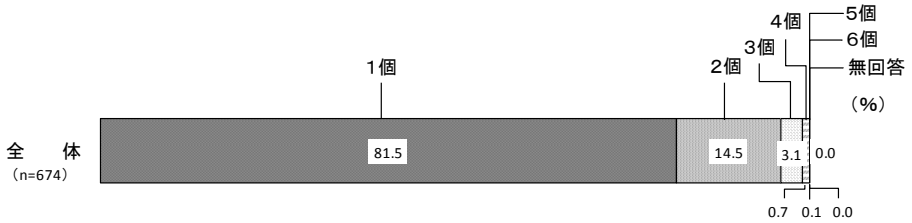
			カテーテル	じょくそうの処置	ストーマの処置	モニター測定	レスピレーター	気管切開の処置	経管栄養	酸素療法	中心静脈栄養	点滴の管理	透析	疼痛の看護	無回答
全体		674	106	3	49	24	76	10	18	4	241	20	112	171	0
		100.0	15.7	0.4	7.3	3.6	11.3	1.5	2.7	0.6	35.8	3.0	16.6	25.4	0.0
要介護度	要支援１	9	1	0	0	2	5	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	11.1	0.0	0.0	22.2	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要支援２	37	13	0	9	4	4	1	1	0	0	0	0	5	0
		100.0	35.1	0.0	24.3	10.8	10.8	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0
	要介護１	51	16	0	8	5	12	2	0	0	0	2	5	6	0
		100.0	31.4	0.0	15.7	9.8	23.5	3.9	0.0	0.0	0.0	3.9	9.8	11.8	0.0
	要介護２	78	18	0	15	4	13	2	1	1	3	1	13	14	0
		100.0	23.1	0.0	19.2	5.1	16.7	2.6	1.3	1.3	3.8	1.3	16.7	17.9	0.0
	要介護３	62	8	0	3	2	9	2	1	1	2	3	19	18	0
		100.0	12.9	0.0	4.8	3.2	14.5	3.2	1.6	1.6	3.2	4.8	30.6	29.0	0.0
	要介護４	203	15	1	8	3	20	0	4	1	107	4	32	49	0
		100.0	7.4	0.5	3.9	1.5	9.9	0.0	2.0	0.5	52.7	2.0	15.8	24.1	0.0
	要介護５	234	35	2	6	4	13	2	11	1	129	10	43	79	0
		100.0	15.0	0.9	2.6	1.7	5.6	0.9	4.7	0.4	55.1	4.3	18.4	33.8	0.0

ウ．医療措置がある人の個数（問 14）

医療措置がある人の、医療措置の個数は、「１つ」が 81.5%、「２つ」が 14.5%、「３つ」が 3.1%となっている。

要介護度別にみると、要介護３までは「１つ」が 80%以上であるが、要介護４以上では複数受けている人が増え、要介護４では「２つ」が 19.2%、要介護５では 20.1%となっている。

図表３－３－２１－①　医療措置がある人の個数（全体）



図表３－３－２１－②　医療措置がある人の個数（全体、要介護度別）
＜医療措置ありと回答した人＞

［上段:n、下段:%］

			1個	2個	3個	4個	5個	6個	無回答
全体		674 100.0	549 81.5	98 14.5	21 3.1	5 0.7	0 0.0	1 0.1	0 0.0
要介護度	要支援１	9 100.0	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要支援２	37 100.0	37 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護１	51 100.0	46 90.2	5 9.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護２	78 100.0	73 93.6	3 3.8	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護３	62 100.0	57 91.9	4 6.5	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護４	203 100.0	163 80.3	39 19.2	1 0.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護５	234 100.0	164 70.1	47 20.1	17 7.3	5 2.1	0 0.0	1 0.4	0 0.0

② サービスと医療状況の関係について

居宅サービス利用者で、通所介護と訪問介護を両方利用している人、通所介護と通所リハビリテーションの両方を利用している人の医療措置の有無を検討した。

通所介護と訪問介護を両方利用している人では、医療措置のある人は 50 人（18.4%）であるが、要介護４・要介護５で医療措置の割合が、32.6%、56.7%とそれぞれ高くなる。また、通所介護と通所リハビリテーションの両方を利用している人についても全体では 20.9%であり、要介護４と要介護５では人数は少なくなるがそれぞれ 30.0%、66.7%と高くなっている。

図表３－３－２２　居宅サービス利用と医療措置の有無
（全体、要介護度別）

ア：居宅＆通所介護＆訪問介護

[上段:n、下段:%]

			あり	なし	無回答
全体		272 100.0	50 18.4	222 81.6	0 0.0
要介護度別	要介護１	98 100.0	5 5.1	93 94.9	0 0.0
	要介護２	56 100.0	6 10.7	50 89.3	0 0.0
	要介護３	45 100.0	8 17.8	37 82.2	0 0.0
	要介護４	43 100.0	14 32.6	29 67.4	0 0.0
	要介護５	30 100.0	17 56.7	13 43.3	0 0.0

イ：居宅＆通所介護＆通所リハビリテーション

[上段:n、下段:%]

			あり	なし	無回答
全体		67 100.0	14 20.9	53 79.1	0 0.0
要介護度別	要介護１	14 100.0	0 0.0	14 100.0	0 0.0
	要介護２	10 100.0	1 10.0	9 90.0	0 0.0
	要介護３	14 100.0	1 7.1	13 92.9	0 0.0
	要介護４	20 100.0	6 30.0	14 70.0	0 0.0
	要介護５	9 100.0	6 66.7	3 33.3	0 0.0

（６）サービス利用の要因に関する分析

①　家族構成別・要介護度別サービス利用状況

家族構成（独居、同居世帯、老老世帯など）によって、居宅サービスの通所介護、訪問介護、ショートステイの利用にどのような違いがあるかをみた。

独居世帯では要介護３、要介護５での利用割合が高くなっているが、通所介護では家族構成での大きな違いがない。また、老老世帯の３サービスの利用割合は全体と比較してやや低くなっている。

図表３－３－２３　主な居宅サービスの利用率
（全体、要介護度別）

ア：全体

［上段:n、下段:%］

			訪問介護	通所介護	短期入所生活介護	無回答
全体		2,543 100.0	251 9.9	681 26.8	237 9.3	1,640 64.5
要介護度別	要介護１	1,078 100.0	82 7.6	316 29.3	105 9.7	688 63.8
	要介護２	622 100.0	77 12.4	135 21.7	52 8.4	422 67.8
	要介護３	355 100.0	41 11.5	83 23.4	24 6.8	236 66.5
	要介護４	318 100.0	29 9.1	100 31.4	35 11.0	191 60.1
	要介護５	170 100.0	22 12.9	47 27.6	21 12.4	103 60.6

イ：同居世帯

［上段:n、下段:%］

			訪問介護	通所介護	短期入所生活介護	無回答
全体		1,682 100.0	159 9.5	448 26.6	163 9.7	1,083 64.4
要介護度別	要介護１	680 100.0	48 7.1	193 28.4	64 9.4	442 65.0
	要介護２	434 100.0	51 11.8	96 22.1	41 9.4	290 66.8
	要介護３	239 100.0	26 10.9	51 21.3	18 7.5	160 66.9
	要介護４	218 100.0	20 9.2	71 32.6	23 10.6	129 59.2
	要介護５	111 100.0	14 12.6	37 33.3	17 15.3	62 55.9

ウ：独居世帯

[上段:n、下段:%]

			訪問介護	通所介護	短期入所生活介護	無回答
全体		364 100.0	44 12.1	108 29.7	35 9.6	223 61.3
要介護度別	要介護１	201 100.0	17 8.5	66 32.8	22 10.9	121 60.2
	要介護２	74 100.0	10 13.5	13 17.6	5 6.8	53 71.6
	要介護３	40 100.0	10 25.0	12 30.0	2 5.0	23 57.5
	要介護４	31 100.0	3 9.7	11 35.5	4 12.9	17 54.8
	要介護５	18 100.0	4 22.2	6 33.3	2 11.1	9 50.0

エ：老老世帯

[上段:n、下段:%]

			訪問介護	通所介護	短期入所生活介護	無回答
全体		495 100.0	48 9.7	125 25.3	39 7.9	332 67.1
要介護度別	要介護１	196 100.0	17 8.7	57 29.1	19 9.7	124 63.3
	要介護２	114 100.0	16 14.0	26 22.8	6 5.3	79 69.3
	要介護３	75 100.0	5 6.7	20 26.7	4 5.3	52 69.3
	要介護４	69 100.0	6 8.7	18 26.1	8 11.6	45 65.2
	要介護５	41 100.0	4 9.8	4 9.8	2 4.9	32 78.0

手法４　介護保険施設ヒアリング調査

１　調査概要

（１）調査の目的

施設・居住系サービスの利用者について、本人や家族の状況や施設・居住系サービスを希望した理由、申し込んでから入居までに困ったこと、あったらよかった支援等を探り、生活の継続性や連続性の実態を検討し、高齢者の住まいのアセスメントの参考とする。

（２）調査対象

特別養護老人ホーム等施設・居住系サービス職員

	施設数	人数
特別養護老人ホーム	６施設	48 人
地域密着型介護老人福祉施設	５施設	25 人
介護老人保健施設	４施設	41 人
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	５施設	20 人
特定施設入所者生活介護	５施設	23 人
計	25 施設	157 人

（３）調査方法

特別養護老人ホーム（６施設）・地域密着型介護老人福祉施設（５施設）・老人保健施設（４施設）・グループホーム（14 施設）・特定施設入所者生活介護（５施設）に入居する、ここ３年間に入居した方について、ケアマネ・相談員に聞き取り調査を実施した。

（４）調査日時

平成 27 年 12 月７日から 12 月 10 日

（5）調査項目

調査項目	設問
施設名	施設名
在宅時状況	同居・独居等住まい方
	要介護度
	認知症自立度
	症状
	身体状況
	主介護者
	主介護者の就労状況
	他の家族の居場所
	生活状況
	住まいの状況
	経済状況
在宅時のケアプラン、利用サービス	入所時のケアプラン
	入所直前のケアプラン
入居までの経過	施設利用ニーズと申込理由
	待機期間の状況
施設ケアマネジャーの現状評価	現在の状況
	入居時からの変化
	金銭管理
現在の家族状況	面会状況
	家族の健康状態
これからの展望・ニーズ	これからの展望・ニーズ
在宅時に不足していたと思う支援、あればよかった支援	介護保険サービス
	医療サービス
	見守り・生活支援
	介護者負担軽減策
住まいに関する問題、支援策	住まいに関する問題、支援策

２　調査結果のまとめ

（１）調査結果の概要

介護度は要介護４が最も多く、31.2%で、要介護５と合わせると 41.4%となっている。一方で、要介護１は２番目に多く 22.9%で、要介護２と合わせると 38.25％である。

独居は全体の 22.3%である。なお、同居者が死別や病気で入院などの実質独居を含んでいる。

住宅の種類は一戸建てが 87.9%である。

利用しているサービスをみると、訪問サービスの利用者は 10.8%、通所サービスの利用者は 60.0%、ショートステイの利用者は 61.1%となっており、在宅でのサービス利用者の割合は他のサービスと比較して少なくなっている。

地域の支えがあって在宅サービスを利用しながら生活を継続できていても、症状が悪化すると施設に入所してしまう。24 時間見守る支援体制が必要であった。

介護度が上がるとさまざまな症状があらわれ、かつそれぞれの症状が重くなる。家族と同居していても家族が就労していると常時介護をすることは困難であるため、朝早くから夜遅くまで利用できるサービスや忙しい時期だけ入所できる施設など柔軟なサービスが必要であった。

居宅内に段差がある場合には、手すりの設置やスロープなどをレンタルするが、集合住宅においては、器具の設置等も難しい場合があるため、環境に応じた支援が望まれている。

また、住宅改修は申請から完了までに時間がかかり、実施された時の状態が申請時とは変わってしまうため、早期に実施される仕組みが必要であった。

図表３－４－１　調査結果の概要

要介護度	人数	住まい方		住宅種類		利用サービス					住宅問題
		独居	同居者あり	一戸建て	集合住宅	訪問	通所	ショート	その他	利用なしまたは不明	
1	36	10	26	35	1	3	24	15	配食、輸血	7	15
2	24	6	18	24	0	3	16	11	電動ベッド	2	7
3	31	8	23	28	3	2	20	18	ポータブルトイレ、ベッド、手すり、介助バー、スロープ、歩行器	3	19
4	49	8	41	46	3	5	25	40	グループホーム、ベッド、手すり、スロープ、コールマット、歩行器、車いす、車いす用クッション、ふれあいタクシー、生活保護	0	22
5	16	3	13	4	12	3	5	12	ベッド、手すり、スロープ、歩行器、車いす	4	2
要支援2	1	0	1	1	0	1	1	0			視力低下で入所

（２）介護保険施設入居者が必要としていた支援

在宅時の入居者の身体状況としては、認知症・アルツハイマー型認知症・高次脳機能障害・失語症・うつ病・高脂血症・心臓疾患・骨折・両変形性膝関節症・骨粗鬆症・下肢筋力低下・関節リュウマチ・食事摂取減少・胃瘻・慢性腎臓病・糖尿病・パーキンソン症候群・ガンなどがあげられ、大半の入居者は複数の疾患を抱えている。病状について何も回答がなかったのは 158 名中７名のみである。

入居を申し込んだ理由については、介護度２までの場合、本人の状況としては「認知症の進行」「転倒の可能性あるいは転倒による骨折で歩行困難」「視力の低下」「家族に迷惑をかけたくないという意向」などがあげられ、家族や介護者については「高齢・病気・仕事などにより介護が困難」「一人にしておくことが不安」「精神的に負担」「本人との関係の悪化」「施設での落ち着いた生活・専門家がいる施設が安心」があげられている。また、「自営の仕事が忙繁期のみ入所希望」「雪で送迎のできない冬期間のみ入所希望」「脱水症状が心配な夏季のみ入所希望」といった期間を限定する入所希望理由もあった。
介護度３～５の場合は、本人の「心身状態の衰え・歩行困難」「認知症の進行による意思疎通困難や妄想幻覚」が多くあげられ、介護者や家族も「介護の限界」「介護負担が大きい」といった理由が大半である。

待機期間中は、「ショートステイ、デイサービスを利用しながら在宅生活を送る」という状況が一番多い。その他、「訪問介護、通所介護を利用」「認知症対応型通所介護を利用」「ロングステイを利用」「軽費老人ホームを利用」「複合型サービスから入居」「サービス付き高齢者向け住宅に入居しながら、デイサービスを利用」「老人保健施設より入居」「病院から入居」などがあげられた。

居住環境について、住宅は 87.9%が一戸建てである。構造上の問題点としては「車イスでの日常動作が可能となるようなバリアフリー化」「段差の解消」「手すりの設置」「滑りにくい床」「ベッドからトイレまでの動線の短縮」「火の出るガスを使用しないキッチンの改修（IH などの調理機器）」「一人で出ていかない工夫」などがあげられ、改修やレンタルで対応できたケースもあるが「住宅改修が難しい構造」「居室が家族と過ごすスペースと離れている」「家が大きすぎる」といった個別の困難事例もあった。また、制度としての問題点として「施設サービス利用中はスロープやベッドを借りる事ができない」「低所得者向けの住宅改修や福祉用具に関する補助等が必要」「一時外出や外泊を希望する家族に対する住宅改修の支援」「手すり設置と段差解消を申請しても設置される頃には状態が変わっていることがあり、手続きが早く進むことが必要」といった意見も出されていた。
集合住宅に居住していたのは約 1 割だが、「介護者が賃貸住宅で同居は無理」「アパートに転居し自室も無い場合、在宅介護にはいくつものハードルがある」との意見があった。

これらの必要としていた支援を大別すると、次の４つに分類することができる。

①訪問による多様な在宅サービス

②地域で支える体制

③住環境の改善

④家族への支援策

（３）要介護１・２の入居者が必要としていた支援

介護度別に必要としていた支援について整理した。なお、要介護１・２の方は 60 人である。

介助が必要であるが、ある程度、移動・食事・排泄が自分でできるレベルにもかかわらず、施設入所となった理由を分析すると、「認知症がすすみ、いずれにしても在宅での介護が難しい」といった回答が 12 件あり 25.5%を占めている。

一方で、「サービスの利用や見守りがあれば在宅が可能だったかもしれない」という回答は 15 件で 32.0%、「住宅の改修があれば」という回答は 14 件で 29.8%となっている。

以下に、分類した４つの支援ごとの主な回答及び属性を掲載する。

①　訪問による多様な在宅サービス

認知症対応型共同生活介護	NO.2	女性	81 歳	長男	不明
要介護１　認知症は「物忘れ」程度だったが、ひどくなってきた。長男の帰宅が遅く一人で過ごすことが多かった。デイサービスや訪問サービスを利用すると在宅復帰も考えられる。					

介護老人福祉施設	NO.8	女性	93 歳	夫が施設入所で独居	一戸建て
要介護１　軽度認知症だが、自立でトイレには行ける。夫の介護度があがり施設に入所したため独居となった。転倒の恐れあり。訪問看護ステーションの利用が考えられたが、一人暮らしでの利用が難しかった。					

特定施設入居者生活介護	NO.3	女性	85 歳	夫	一戸建て
要介護１　認知症とうつ症状あり。２人きりの生活は夫も病気がちで心配。長男の妻が時々来てくれるが夜が不安。いつも看護師さんがいる施設が安心。夫の世話も難しい状態でヘルパーを利用し、洗濯、掃除の援助を受けた。24 時間対応の訪問サービスが利用できるとよかった。					

特定施設入居者生活介護	NO.2	男性	83 歳	姪夫婦	一戸建て
要介護２　姪（亡兄宅）の離れでくらしていたが、本宅での食事や洋式トイレを長時間使うことで、年頃の子どもが迷惑していて、一緒に生活していくのが困難に。動悸、血圧上昇、倦怠感を訴え不安症状になる。食事面での配食サービスや病院の送迎、また生活相談等も充実していればまだ自宅での生活も可能であったと思われる。					

②　地域で支える体制

特定施設入居者生活介護	NO.3	男性	95 歳	妻が入院	一戸建て
要介護１　アルツハイマー型認知症と膝痛。妻が入院し一人では暮らせなくなった。軽費老人ホームや老健デイを利用して入所を待った。見守り生活支援。奥さんがそばにいないという心配があった。奥さんがいれば在宅も可能だったのでは。介護者負担軽減策					

認知症対応型共同生活介護	NO.1	女性	91 歳	家族３人	一戸建て
要介護２　アルツハイマー型認知症で、家族の精神的負担が大きく、火・水・木はデイサービス、土・日はショートステイを利用。月・金は在宅だったが、一人で自宅にいることが多く、近所の見守りや生活支援があるとよかった。					

③　住環境の改善

特定施設入居者生活介護	NO.1	女性	84 歳	夫	一戸建て
要介護１　パーキンソンの症状があり転倒が危険なので車イスが欠かせない。在宅では車イスでの日常動作が可能となるようなバリアフリー化が必要。					

介護老人福祉施設	NO.5	女性	93 歳	独居	一戸建て
要介護１　アルツハイマー型の軽度で場所の理解ができない。腰部背柱管狭窄症で長距離移動が困難。足腰が弱くなってきたため、自宅で転倒を繰り返している。主に生活の場であった居間に、立ち上がるときに掴むところがなかった。昔ながらの一軒家であるため、段差などの障害が多く、転倒の原因になっていた。段差の解消や手すりの設置等、バリアフリーが必要であった。本人は２階への行き来が難しく、掃除等の管理が行えなかった。					

介護老人保健施設	NO.7	女性	99 歳	長男夫婦と孫	一戸建て
要介護２　認知症は「物忘れ」程度。脱水症で入院した後に入居したが、リハビリをして在宅復帰に向けて調整中。居宅内に段差があるので、手すりの設置やスロープのレンタルを提案。低栄養にならないよう訪問看護をすすめるが、家族は自宅に訪問されることに抵抗がある。					

④　家族への支援策

介護老人保健施設	NO.5	男性	96 歳	長男の家族	一戸建て
要介護２　アルツハイマー型認知症。杖歩行もできるが、玄関から自室までは車いすを使用。デイサービスを２回利用していた。長男は呉服屋で繁忙期のため入所。現在は自宅にスムースに戻れるようリハビリ中。家族は在宅を希望しているが、仕事の繁忙期（冬の成人式前）に、入所できることを要望。					

特定施設入居者生活介護	NO.5	女性	83 歳	夫	一戸建て
要介護２　日中は夫と畑に行ったりデイケアに通いながら暮らしていたが、認知症の進行で一人で外出し戻れなくなったことから、夫からきつく当たられ、自殺企図等があった。家族や夫が認知症に対して理解が少なく、腹を立ててきつく当たったりしていた。認知症の人が在宅で過ごせるための支援、地域包括ケアシステムを考えていくことが必要。本人と家族の距離を置く方策が必要。					

（4）要介護３・４・５の入居者が必要としていた支援

要介護３・４・５の方は 96 人である。

身の回りのことが自分ではできない、歩行も困難というレベルになると、夜間や 24 時間のサービスや見守りの必要性、医療との連携が求められるようになる。また、住宅改修を必要とする割合も高い。

以下に、分類した４つの支援ごとの主な回答及び属性を掲載する。

①　訪問による多様な在宅サービス

介護老人福祉施設	NO.5	女性	84 歳	長男夫婦と孫	一戸建て
要介護３　認知症による鬱症状があった。介護者は長男の妻だが、夫（長男）も介護が必要で仕事もあるため、デイサービスやショートステイを利用していた。在宅時は配食サービスや話し相手が必要だった。					

介護老人保健施設	NO.4	女性	94 歳	長女家族	一戸建て
要介護３　意思疎通困難。異食あり。食べ物を噛まずに飲み込み窒息の既往あり。糖尿病。心不全。自宅では徐々に食事摂食できなくなり体力低下がみられ、手引き歩行が難しくなり、介護負担が増大。在宅サービス利用していた。窒息を繰り返しており、全粥 0.5 ㎜刻み菜とろみつきなど、食事を作ることが一番大変。糖尿病の食事の管理（減塩食など）が難しい。一般食を食べてのどにつまらせたこともあったことから、医療面のケアが必要。					

地域密着型介護老人福祉施設	NO.2	男性	88 歳	長男家族	一戸建て
要介護４　昼夜逆転。尿、便の失禁が多い。飲酒してデイに来たことがあり、生活のリズムが全く崩れていた。長男夫婦の介護負担大きく自宅で看るのは困難。長男は夜勤のある仕事。ロングショート、訪問看護（瘡褥処理）、通所利用日増加（本人が金銭に厳しく利用回数をセーブしていた）、ヘルパーの回数を増やす必要があった。					

介護老人保健施設	NO.2	男性	85 歳	妻　長男夫婦　孫	一戸建て
要介護４　認知症はあるが問題行動はない。しりもちをつき、圧迫骨折で介護が必要になった。デイサービスを３日利用し、高齢の妻が介護していたが困難になった。訪問サービスでホームヘルパーを利用していたら在宅も可能だった。車いすでも生活できる環境づくりが必要。					

地域密着型介護老人福祉施設	NO.1	男性	87 歳	長男夫婦	一戸建て
要介護５　物忘れ、昼夜逆転、糖尿病、ペースメーカー留置、脳梗塞後遺症、胃瘻造設就労中の為常時介護が困難。特に夜が困難なのでショートステイ（ロングステイ）利用。朝早くから夜遅くまでのサービスが必要。					

介護老人保健施設	NO.2	女性	100 歳	長男	一戸建て
要介護５　不穏で介護抵抗があった。適宜ショートを利用していたが、在宅では寝たきりで家族は面倒をみられていない。体調不良で通所サービスを利用せず、何のサービスを利用していなかった。訪問サービスを利用できたら良かった。					

②　地域で支える体制

介護老人福祉施設	NO.3	女性	90 歳	長男夫婦	一戸建て
要介護３　物忘れ、意思疎通困難、昼夜逆転、不穏がある。中国人の長男の妻は働いていて日中は独居。病院の通院乗降、日中の見守りサービス、配食サービスが必要。					

介護老人保健施設	NO.2	男性	85 歳	妻	一戸建て
要介護４　元々おしゃべりが少ない方で、認知症は見られたが、問題行動は特になし。ペースメーカー使用。平成 25 年９月に尻もちつき圧迫骨折、生活全般的に介護必要。妻も高齢で介護困難。週３日デイケアを利用していた。本人の立ち上がりが不安定であったので、そういったことを支援できるサービスを利用していたら、在宅でもやっていけたかもしれない。					

地域密着型介護老人福祉施設	NO.1	女性	81 歳	夫	一戸建て
要介護４　アルツハイマー型認知症で物忘れがあり怒りっぽい。腰椎骨粗鬆症、変形性膝関節症、糖尿病、高血圧症、低栄養状態。高齢者のみの世帯で、本人は近所の方との関わりはほとんどない。調理のヘルプが必要だった（できあいの総菜を食べていた）。夫が洗濯のためにコインランドリーに行っていた。生活支援や車椅子が使用できる住宅環境が必要。					

地域密着型介護老人福祉施設	NO.4	女性	91 歳	独居	一戸建て
要介護５　夫と死別後７年間、在宅サービスを利用しながら独居で生活していた。認知症がすすみグループホームに入居したが、それまでは、近所の支えがあり、在宅の生活が続けられた。さらに、24 時間、認知症の独居者を見守る支援体制が望まれる。					

③　住環境の改善

介護老人福祉施設	NO.5	女性	94 歳	長男夫婦と同居	集合住宅
要介護度３　アルツハイマー型認知症。一戸建てに住んでいたが、長男の自己破産により集合住宅に転居した。自立歩行できるので在宅介護も可能だったが、集合住宅では難しい					

地域密着型介護老人福祉施設	NO.5	女性	89 歳	長女の夫と同居	一戸建て
要介護４　アルツハイマー型認知症。長女は死去している。デイサービス６日、ショートステイも利用していた。一旦、入居すると住宅改修が受けられないが、一時外出や外泊を希望する家族に対して住宅改修の支援があるとよい。					

地域密着型介護老人福祉施設	NO.1	女性	90 歳	夫　長男夫婦	一戸建て
要介護５　認知症がすすんでいる。デイサービスを週３日利用し在宅で生活していた。介護ベッドの購入や洋式トイレへの改修を行った。手すり設置や屋内段差解消を申請したが、利用しないうちに入居となった。住宅改修は時間がかかるので、実施された時に状態が変わっていることがある。手続きが早く進む仕組みになるとよい。					

④　家族への支援策

介護老人保健施設	NO.1	女性	92 歳	長女夫婦	一戸建て
要介護３　認知症は軽度。３人暮らしだが家族も体調を崩しており、満足に介助できない。本人も腰痛によりＡＤＬ低下している。腰痛悪化に伴い家族の介護負担が大きくなる。立位が取れない状況で車イスと床をはって移動している。ロングステイがあれば家族の負担が少なくなっていたのでは。					

特定施設入居者生活介護	NO.3	女性	91 歳	長男夫婦	一戸建て
要介護４　理解力低下があり気分変動が激しい。短い会話は可。自宅やデイサービスで転倒し医大に入院してリハビリテーションを受けていた。単独歩行は難しく気分変動も激しいため、介護者にとって心身共に負担が大きくなった。家族に対する認知症を理解してもらうためのアプローチ。					

介護老人福祉施設	NO.2	女性	77 歳	長男夫婦	一戸建て
要介護４　関節リュウマチ、高血圧症、骨粗鬆症。近年はデイ、ヘルパー等利用しながら在宅介護を受けていた（在宅時はベッドで寝たきり）家族に迷惑かけ心苦しいと思っている。高い施設には入られないと考え、長年ショートや施設入居を考えていたが、年金内でやりくりできるか分からず利用をためらっていた。情報提供があれば良かった。					

地域密着型介護老人福祉施設	NO.3	男性	87 歳	妻　長女家族	一戸建て
要介護５　１年前から足腰の筋力低下によりトイレの立ち上がりが困難。H27 年５月、肺炎から慢性閉塞性肺疾患となり状態が悪化。食不振により経鼻経管栄養となる。妻も認知症があり介護が必要な状況。長期入院を経てショート利用で待機していた。医療重度者が在宅復帰する際の家族に対する医療相談や支援のサービスが必要。夜間の駆けつけ訪問看護サービス、経管栄養を受け入れる施設が不足。					

第４章　坂井地区の要介護者の介護保険サービス利用に関する課題整理

1　調査研究のまとめ

・ 本調査研究では、手法１から手法４までデータ分析やアンケート調査、ヒアリング調査の手法を通して、坂井地区における介護の現状・意識や介護保険制度・サービスの状況について分析を行ってきた。
・ そこで、調査研究のまとめとして、まず手法ごとの分析結果をとりまとめる。手順としては、介護保険データで全体の傾向を概観したうえで、施設入居希望者や施設に入居した者のそれぞれの実態を把握し、そして家族介護者の状況や意識を探ることで、坂井地区の介護や介護保険制度についての現状を探っていく。

（１）介護保険データ分析の結果から

①　サービス利用者の属性

＜平均年齢 84.94 歳、平均要介護度は 2.35＞

・ 分析対象 4901 人のうち、女性が 3,530 人（72.0%）、男性が 1,371 人（28.0%）であり、年代は多い順に「85～89 歳」の 1,434 人（29.3%）、「80～84 歳」の 1,088 人（22.2%）、「90～94 歳」の 1,011 人（20.6%）で平均年齢は 84.94 歳である。
・ 要介護度は、多い順に「要介護１」の 1,249 人（25.5%）、「要介護４」の 846 人（17.3%）、「要介護３」の 820 人（16.7%）であり、平均要介護度は 2.35 である。

＜同居世帯が 74.0%であり、一人暮らしは 25.7%＞

・ 世帯人員は、多い順に「１人」の 1,262 人（25.7%）、「２人」の 971 人（19.8%）、「3 人」の 749 人（15.3%）である。
・ 世帯構成は、一人暮らし（独居）世帯は、1,262 人（25.7%）である。同居世帯全体では 3,628 人（74.0%）であり、2 人世帯のうち構成員が 65 歳以上の老老世帯は 839 人（17.1%）である。

＜要介護度が高くなると施設サービス利用者が増える＞

・ 要介護度別の状況をみると、居宅サービス利用者は、要介護１が最も多く 1,078 人であるが、以降要介護度が高くなると人数が少なくなり、要介護５では 170 人となる。

②　介護保険サービスの利用概況

＜居宅サービス利用者は 68.3%＞

・ サービスの利用状況をみると、居宅サービス利用者は 3.345 人（68.3%）、グループホーム等の居住系サービス利用者は 357 人（7.3%）、特別養護老人ホーム等の施設サービス利用者は 1,199 人（24.5%）となっている。
・ 居住系サービスについては、「認知症対応型共同生活介護」が 198 人、「特定施設入居者生活介護」が 156 人であり、施設系サービスについては、「介護老人福祉施設」が 497 人、「地域密着型介護老人福祉施設」が 227 人、「介護老人保健施設」が 443 人、「介護療養型医療施設」が 31 人などとなっている。

＜通所介護、福祉用具の利用が半数を超えるが、訪問介護は２割に留まる＞

・ 居宅サービス利用者 3.345 人のうち、要介護１以上の居宅サービス利用者（2,543 人、居宅サービスに占める割合 51.9%）のサービス利用状況をみると、「通所介護」が 54.2%となっており、通所系サービス（通所介護、通所リハビリテーション、認知症対応型共同生活介護）の利用が活発となっている。

＜要支援者のサービスも、要介護者のサービスと同様の傾向＞

・ 要支援者（802 人，居宅サービスに占める割合 16.4%）の介護予防サービスの利用状況をみると、「介護予防通所介護」が 50.1%で上位となっている。

③　要介護度別にみたサービスの利用状況

＜要介護３以上で施設利用の割合が高まる＞

・ 要介護度別に、サービスの利用状況をみた。居宅・居住系・施設サービス利用者の内訳は、全体では 68.3%、7.3%、24.4%であるが、要介護１では居宅サービスが 86.3%、居住系サービスが 9.4%、施設サービスが 4.2%、要介護５では居宅サービスが 30.3%、居住系サービスが 5.0%、施設サービスが 64.7%となり、要介護３以上になると、施設利用の割合が高くなることがわかる。

＜通所介護は要介護度に係らず５割前後の利用率を維持＞

・ 居宅サービス利用者では「福祉用具」の利用が全体で 54.1%であり、要介護度が高くなると利用率も高くなる。通所系のサービスでは「通所介護」（54.2%）の利用率がいが、要介護度が高くても 50%前後を推移しており、「通所リハビリテーション」も全体で 21.1%、要介護４で 24.5%が利用している。

＜訪問介護は要介護５でも利用率が３割台＞

・ 訪問系サービスでは「訪問介護」の利用割合が全体で 19.6%だが要介護５でも 32.4%であり、利用割合は「短期入所生活介護」と同程度であった。さらに「訪問介護」については、利用率が全体で 12.7%、要介護５でも 34.7%のみとなっている。

＜居住系サービスは要介護１の利用が多い＞

・ 居住系サービス利用者は要介護１での利用が最も多く、特定施設では要介護１が 47 人、認知症グループホームでは 71 人である。
・ 施設サービス利用者については、要介護３以上の介護度で利用者数が増えるが、要介護１・２の介護老人福祉施設（地域密着型含む）利用者が 69 人となっている。

④　居宅サービスパッケージの状況

＜通所系サービスと福祉用具の利用が大半＞

・ 居宅サービス利用者が、サービスをどのように組み合わせて使っているかを分析したところ、最も多いのが「通所介護+福祉用具」が 28.6%、「通所リハ+福祉用具」が 13.6%、「訪問介護+福祉用具」が 12.2%であり、すべて福祉用具との組み合わせである。

＜重度になっても訪問系+通所系サービスの組み合わせが少ない＞

・「訪問介護+通所介護」は 10.7%、「訪問看護+通所介護」は 6.1%と、訪問系+通所系を組み合わせる利用パターンは要介護４・５でも極めて少ない。

⑤　介護保険サービスと認知症についての状況

＜認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の人が７割を超える＞

・分析対象とした 4,901 人の認知症の状況を把握した。殆どの人が何らかの認知機能の低下が認められ、自立は 9.7%と１割に満たなかった。最も多いのが「Ⅱｂ」で 29.9%、Ⅲａは 17.9%、Ⅱａも 15.4%であり、見守りが必要な人も７割以上である。

＜要介護１・２の半数前後が認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱｂ＞

・要介護度別に認知症の日常生活自立度をみると、要介護度が高くなると認知症も重度になる傾向がみられた。最も多い「Ⅱｂ」は、1,465 人であるが、要介護１での該当者が 679 人（要介護１の 54.4%）、要介護２では 380 人（要介護２の 46.3%）である。

＜自立度Ⅲ以上で施設サービス利用者が大半となる＞

・さらに、認知症自立度別に利用しているサービスをみると、Ⅱｂまでは居宅サービスと地域密着型サービスの利用が大半であるが、Ⅲａでは施設サービスが過半数に転じ、以下、施設サービスの利用が大半となる。

⑥　医療措置の状況

＜医療措置を受けている人は全体の１割台＞

・医療措置を受けている人は 13.8%である。

⑦　家族構成でみたサービスの利用状況

＜独居・同居・老老世帯でもサービス利用の傾向が変わらない＞

・家族構成で３つの居宅サービス（訪問介護、通所介護、ショートステイ）の利用をみると、全体と比較して老老世帯利用割合が低くなっているがどの世帯構成においても利用の傾向が変わらない。

（２）事業所への待機者調査の結果から

・このうち、施設への入居を待機している利用者について、居宅介護支援事業所と施設・居住系サービス事業所の双方に調査を行い、両者から坂井地区の施設入居希望者の実態を探った。

・本分析は居宅介護支援事業者からの在宅者 286 人、施設・居住系事業者からの施設入居者 255 人を対象に、現況を分析したものである。

① 居宅支援事業所への調査

＜在宅者の３分の２が中重度＞

・ 待機者を要介護度別にみると、中重度者「要介護 3～5」（74.1%）が約 4 分の 3 を占めている。また「要介護１～２」が 17.5%、「要支援 1～2」は 7.3%となっており、軽度での申込希望者は約 4 分の１いる状況が明らかになった。在宅（286 人）の申込施設は「特別養護老人ホーム」が最も多く 60.1%であり、次いで「老人保健施設」の 25.9%となっている。

・ 待機者の介護状況をみると、「主たる介護者が就労中」との回答が 46.2%と最も高くなっており、次いで「主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中」が 29.4%となっている。

＜家族と同居が多く、ショートステイ利用＞

・ 在宅での待機者の住まい環境は、「持家」が最も多く 55.9%であり、家族構成は「家族などと同居」が 37.4%を占めており、「二人暮らし」（12.6%）や「独居」（9.8%）を大きく上回っている。

・ 主たる介護者の続柄をみると、「娘」や「息子」の子どもが合計 29.0%を占め、「配偶者」は 15.0%となっている。主たる介護者の年齢では、「65 歳未満」が 34.6%、「65 歳以上」が 24.5%という割合で、約 4 人に 1 人が高年齢層となっている。

・ 在宅待機者の介護保険サービスの利用状況は、「ショートステイ」（60.1%）が最も多く、次いで「福祉用具貸与」（40.4%）、「通所介護」（39.3%）などとなっている。

② 施設・居住系事業所への調査

＜在宅以外の待機者の４割が医療機関（病院）に入院中＞

・ 在宅以外の待機者では、「医療機関(病院)」に入院している人が 40.4%である。

・ 待機者を要介護度別にみると、中重度者「要介護 3～5」（58.8%）が半数以上いるが、「要介護１～２」が 7.0%、「要支援 1～2」が 30.9%となっており、軽度での申込希望者も３割を超えている状況が明らかになった。施設（255 人）の申込施設は「特別養護老人ホーム」が最も多く 61.2%であり、次いで「老人保健施設」の 20.0%となっている。

・ 待機者の介護状況をみると、「主たる介護者が就労中」との回答が 35.7%と最も高くなっており、次いで「主たる介護者が高齢者・障害者または疾病があり療養中」が 19.7%となっている。

・ 居宅と施設を比較してみると、要介護度では軽度の申込が居宅の待機者よりも、施設での待機者が多く、とりわけ「要支援１～２」が多くなっている。家族の状況では、大きな違いはなかった。

（３）施設利用者調査から

すでに介護保険施設や居住系サービスを利用している 157 人の方を対象に、本人や家族の状況や施設・居住系サービスを利用した希望、入居までに困ったこと・あったらよかったことを探った。

ア．現状の問題

・ 24 時間見守る支援体制の必要性
・ 症状や家族の状況に応じた柔軟なサービスの必要性
・ 集合住宅など環境に応じた支援

イ．あればよかった支援

＜多様な訪問サービス＞
・ 訪問看護ステーション、配食サービス、洗濯･掃除などのホームヘルパー
＜見守り＞
・近所の見守り、日中の見守りサービス
＜住まいの充実＞
・ バリアフリー化、手すり･スロープのレンタル、介護ベッドの購入
＜介護負担の解消＞
・ 家族に対する認知症理解、情報提供、在宅復帰時の医療相談

（４）家族調査から

上記の結果を受け、施設への入居を希望している要介護者の家族に対して、サービスの利用状況や住まいの課題、介護負担、離職等に関する項目でのアンケート調査を実施した。

＜同居世帯が半数以上＞
・ 平均年齢は 84.8 歳、平均要介護度は 2.97 であった。世帯状況は、「65 歳未満の子や孫などと同居」が半数を占め、「ひとり暮らし」は 7.7%である。

＜住まいのバリアフリーが進んでいない＞
・ 「一戸建て」が 94.1%であるが、65.1%がバリアフリー化されていない。住宅の広さは「46 坪以上（56.2%）」が５割を超え、介護を受けている広さは「6、7 畳」が 42.0%、「8,9 畳」も 36.1%で部屋も広い。バリアフリー化されていないことへの住まいの困りごとは、「段差による移動の支障」が７割に近く、「風呂場、トイレが車いすで利用できない」が６割、「室内や廊下に手すりがない」が５割を超えている。

＜在宅生活継続の課題は、サービスの周知＞
・ 在宅生活での支援で困っていることは、「介護に適した住宅に改修できないこと」であるが、「食事やトイレの介助など１日に何度か自宅へ訪問し、必要があれば２４時間いつでも訪問してくれるサービスがないこと」、「通院に付き添ってくれるサービスがないこと」、「自宅に定期的に訪問して診療し、緊急時にも対応してくれる医師がいないこと」

などであり、介護者への情報の周知が課題としてあげられた。

＜本人も介護者も強い施設志向＞

・ 施設への入居希望の理由は、「家族（介護者）が介護を続けることが困難になってきたため（32.5%）」が最も多く、「今は自宅で生活できているが、将来に対する不安を感じたため（29.0%）」が続いており、具体的には、介護者の高齢化と本人の状態悪化・高齢化があがっている。

・ 療養場所については、本人・介護者ともに「できるだけ入居した施設で過ごし、さいごも病院や施設で過ごす（本人：32.0%、介護者：45.6%）」が最も多い。さいごを除いた療養中の過ごし方としては、『できるだけ入居した施設』は本人 45.6%、介護者 56.8%、『できるだけ自宅』は本人 23.7%、介護者 16.6%で、介護者の施設志向がみられる。

＜住宅状況よりも、家族介護者の厳しさ・難しさ＞

・ 在宅で療養していくうえで困っていることは、「家族介護者にゆとりがない（43.2%）」が最も多く、「家族介護者の、清拭や移乗など介護技術が難しい（24.9%）」が続くなど、在宅での家族介護の厳しさ・難しさが施設志向に通じる。住宅については、住まいも介護する部屋も広く、「療養するのに適切な住環境の調整が難しい」が１割台にとどまっていることから、住まいの広さ、住宅の状況よりも介護者の負担感が在宅を困難にさせる要因となっていることがわかる。

＜通所サービスがメインのサービス利用＞

・ 利用している介護サービスは、「通所介護」、「短期入所療養介護」が３割を超えるが、「訪問介護」、「訪問看護」は１割前後であり訪問系サービス利用が低い。

＜介護者の半数が仕事への影響を感じている＞

・ 主たる介護者の状況は、「病気で通院している」が 30.8%、「要支援または要介護認定を受けている」が 24.9%、「フルタイムの仕事をしている」が 23.7%などとなっている。

・ 介護と仕事の両立については、「介護のために仕事をやめた」と「介護のために働き方を変えた」がともに 15.4%であり、３割が実際に仕事への影響を受けている。これに「仕事をやめたり、働き方を変えることを考えたことがある（19.5%）」の２割を加えると介護者の半数が仕事への影響を感じている。

＜強い介護負担感と求められる介護者支援策＞

・ 要介護度別に負担感をみると、介護度が低いほど負担感が強く、介護度が高くなるに従い負担感が低くなっている。介護者の年齢別では、40 歳代、50 歳代、65～69 歳など若い層で負担感が強く、70 歳代は低い。
介護の負担感別にサービスの利用状況をみると、負担感が軽度の人は、「訪問看護」、「訪問介護」などの訪問系サービスの利用に加え、中等度、重度の人よりもサービスの利用が活発である。一方で負担感が中等度、重度の人は「通所介護」「短期入所療養介護」を利用しており、これらサービスを利用していても負担感は強い。

・ 主たる介護者が必要としている介護者支援策は、「在宅介護者への手当（34.3%）」、「介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度、再就職支援施策（33.7%）」、「介護者に対する定期的な情報提供（29.6%）」、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり（29.0%）」などが上位にあがっている。

２　調査からみえた課題

・ 各調査で得られた結果からは、介護保険サービスの利用について、高齢者の住まいや生活環境について、また介護に対する意識について、さまざまな課題があることが明らかになった。またそれらの課題は、坂井地区特有の課題というよりも介護保険制度全体の課題と考えられる内容でもあった。

・そこで本稿では、坂井地区における地域包括ケアシステム推進に向けた課題として、上記の３点から整理を行い考察する。

（１）介護保険サービスの利用に関する課題

介護保険サービス利用に関する課題としては次の４点が考えられた。

①　在宅生活に向き合うケアプランの必要性

・ 坂井地区の介護保険居宅サービス利用者が最もよく利用するサービスが「通所介護」（54.2%）と「福祉用具貸与」（54,1%）であり、この２つは全要介護度を通じた利用率が高かった。その一方、「訪問介護」（19.6%）や「訪問看護」（12.7%）などの訪問系サービスは 10%台の利用率で重度になっても割合が２～３割だった。

・ そこでこれらサービスの組み合わせを見たところ、「通所介護と福祉用具」（28.6%）、「通所リハビリと福祉用具」（13.6%）、「訪問介護と福祉用具」（12.2%）といずれも福祉用具との組み合わせが多く要介護５での利用者は 20～50 人台ずつだった。また「通所介護と訪問介護」（10.7%、要介護５では 30 人）、「通所介護と訪問介護とショートステイ」（1.1%、要介護５では９人）などの訪問通所を組み合わせた数は少なかった。

・ 中重度の在宅生活を支えるために 24 時間 365 日の重層的な介護サービスと生活支援が必要であり、そのためには一人ひとりの状況に沿ったケアプランが重要である。しかしながら概況からは中重度での在宅サービスの広がりが見えない結果となった。このことからもより一層のケアマネジメントの充実が必要であると考えられた。

②　施設入居のあり方の検討の必要性

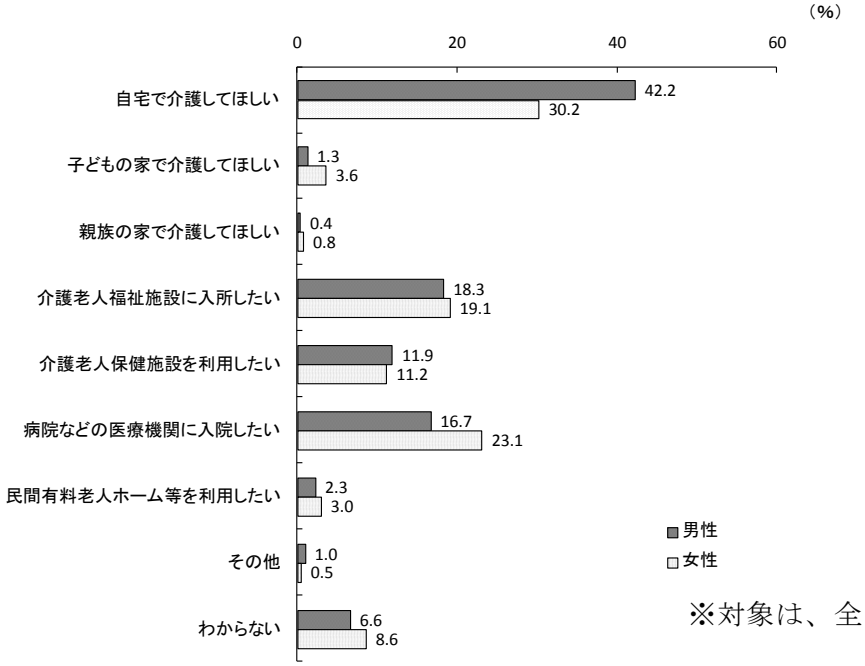
・ 坂井地区の施設系サービスの利用者は 1,198 人であるが、このうち特別養護老人ホーム（小規模含む）は 724 人であり、うち約１割にあたる 69 人が要介護１・２であった。居住系サービスについても、特定施設と認知症対応型共同生活介護の利用者は要介護１の人が多く、重度になるに従い減る傾向があった。

・ また、施設居住系施設への入居希望者は、居宅支援事業所からの調査では 286 人、施設・居住系事業所からの調査では 255 人であり、重複を除いた待機者の数は 250 人であった。

・ うち要支援と要介護１・２を合わせた軽度の方の申し込み状況をみると、居宅事業所に申し込んだのは 38 人（13.3%）だったが、施設居住系事業所に直接申し込んだのは 71 人（27.8%）であった。

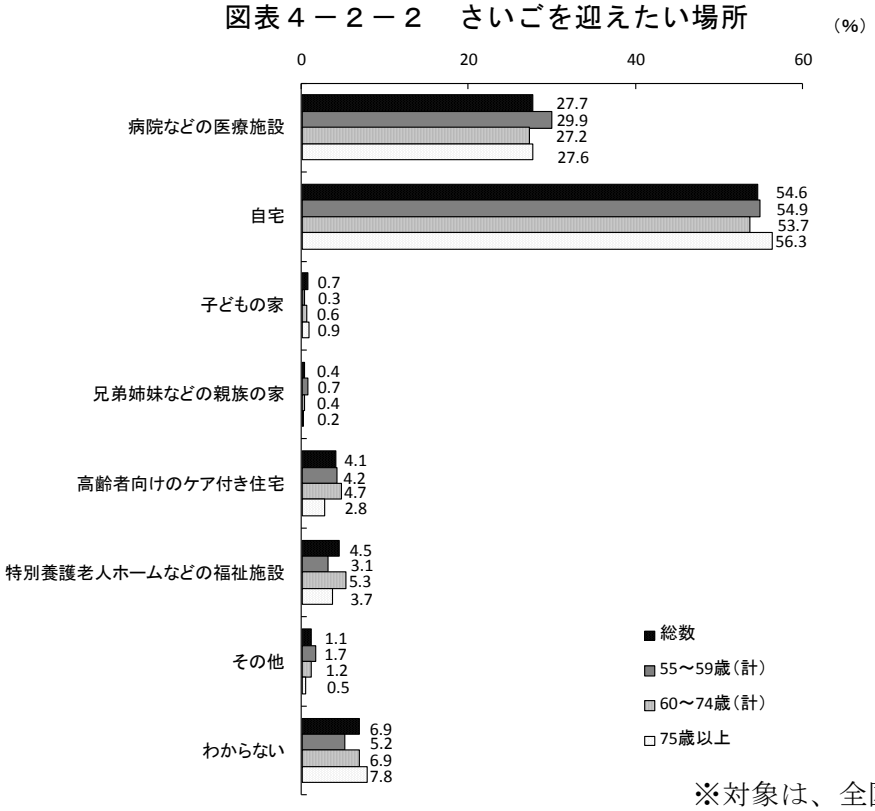
・ 早期から複数の特養に申込む待機者問題は全国的にも課題となってきたが、一方で内閣府の「高齢者の健康に関する意識調査」（平成 24 年）では「介護を受けたい場所」が「自宅」約４割、さいごを迎えたい場所も「自宅」が半数以上との結果もあることから、今後は施設の必要性を分析しながら真に必要な人が入居できるシステムをつくるとともに、在宅で安心して介護ができる体制づくりを進めていくことが必要である。

図表４－２－１　介護を受けたい場所



※対象は、全国 60 歳以上の男女

図表４－２－２　さいごを迎えたい場所



※対象は、全国 55 歳以上の男女

出典：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」（平成 24 年）

③　その人の状況やライフスタイルに応じた支援・サービスの充実

・ 要介護度別に訪問介護や通所介護、ショートステイの利用状況を分析したところ、同居世帯、老老世帯、独居での利用状況に大きな違いがみられなかった。本分析はケアプランの分析ではないため、ケアプランの違いを問うものではないが、やはり中重度での訪問介護の利用割合の低さが目立つ結果となった。

・ かつて「2015 年の高齢者介護」では独居ケアモデル、認知症ケアモデルなどが提唱され生活支援の必要性がうたわれていた。坂井地区においても、今後は生活やライフスタイルとそれを支えるサービスのタイプごとに、ケアモデルを作成してケアプランにつなげる取組みをしていくことが考えられる。

④　認知症の進行に対応したケア・支援のあり方の必要性

・ 厚生労働省のデータによれば、嘗ては要介護認定者の半数が認知症といわれていたが、高齢化の進行による後期高齢者の増加に伴い、認知症の割合も高くなり、今回の分析では認知症の日常生活自立度Ⅱｂ以上の割合は 60%、Ⅱ以上では 75%となった。

・ 認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上では、施設の利用が急激に増えることから、この時期に認知症とそれに伴う状況は急変し在宅生活を困難にしていると考えられる。国が示している「新オレンジプラン」に沿って、認知症に対する理解を深め偏見をなくすことや、認知症の人を地域で支える体制を充実させること、また認知症の症状を穏やかにするケアの工夫、認知症の進行に応じて適切な医療や介護を受けられる、認知症ケアパスの作成を進めることなどが重要である。

（２）家族介護に関する課題

①　在宅ケアの意識啓発の必要性

・ 介護者への調査では、在宅生活を送る上での困りごととして「家族介護者にゆとりがない」ことがあげられ、介護が理由で仕事を辞めたり働き方を変えた人の割合も高く、介護負担感も強いことが明らかになった。またこうしたことも背景となってか、希望する療養の場として「できるだけ入居した施設で過ごしさいごも病院や施設で」が４割を超え、本人の３割を超える結果となった。
以上をふまえると、これからの在宅医療体制の取組みに市民の在宅ケアの意識啓発が欠かせない。今後はさまざまな方法で市民啓発を進め、皆で取り組む介護の意識づくり、在宅医療への理解、介護のまちづくりへとつなげていくことが重要である。

②　介護負担感の解消（サービス利用の促進、相談交流の支援など）

・介護者のアンケート調査からは、在宅介護の経験が短い人ほど介護の負担感が高いこと、逆に訪問看護などのサービスを利用している人ほど介護負担感が低いことがあきらかになった。

・ このことは、家族同士の交流・情報交換が重要であること、介護保険サービスの利用が介護負担の軽減に大きく貢献していることを示唆する結果となった。

・ 今後は、介護負担の解消の視点からも、サービスの利用や相談や交流支援を進めていくことが考えられる。

③　在宅医療、介護保険に関するさらなる情報周知

・ 在宅生活での支援で困りごとは、「食事やトイレの介助など１日に何度か自宅へ訪問し、必要があれば２４時間いつでも訪問してくれるサービスがない」、「通院に付き添ってくれるサービスがない」、「自宅に定期的に訪問して診療し、緊急時にも対応してくれる医師がいないこと」などがあげられた。
・ これらは坂井地区でも利用ができるサービスであり、特に在宅医療については力を入れてきた点であることから、今後は介護者への情報提供が必要である。

（３）高齢者の住まい・生活環境に関する課題

・ 坂井地区では住まいも介護する部屋も広く、調査結果では住まいの問題よりむしろ介護者の負担感が在宅を困難にさせる要因と指摘されていた。しかし、一戸建ての多くがバリアフリー化されておらず、「段差による移動の支障」が７割に近く、「風呂場、トイレが車いすで利用できない」が６割、「室内や廊下に手すりがない」が５割を超えるなど、在宅介護に必要な環境が整備されていない。
・ 今後は在宅介護の基礎となる、住まいのバリアフリーや住宅改修への情報提供を進める必要がある。高齢者の事故の多くが住宅内で起きるという情報や、高齢者の身体状況の変化、住まいのチェックリストなど、住み続けられる住まいの情報を整備しながら、バリアフリー実現への取組みを進めていく必要がある。

３　今後の方向性

以上の結果もふくめ、今後の方向性として考えられるのは次のような点である。

（１）住まいのアセスメントによるケアマネジメントの充実

・ 来年度以降はよりよいケアプランを作成するための、課題整理表の活用や、「住まいのアセスメント分析シート」（チェックリスト）の作成を行うなどして、ケアプランの質の向上を進める取組みをする必要がある。
・ ケアマネジャーをはじめ、医療職も含めた多職種による事例検討会や好事例の紹介等を積極的に行い、坂井地区の医療・介護の知見を活かした取組みを進めることが重要である。

（２）生活援助、福祉用具等のアセスメントの必要性

・ 独居の方や、家族が就労しており日中独居になる方の生活支援や見守りのサービスについても検討することが必要である。同居家族のいる方の生活援助の利用については、同居家族がいるだけで訪問介護の利用が制限されないよう、ケアマネジメントを充実していくことが重要である。
・ 坂井地区では福祉用具の利用が活発な状況にあるが、他方住宅改修の利用が少ない傾向があった。これら償還系サービスも介護保険事業に大きな影響を与えることから今後はアセスメントを行い適正なサービス提供につなげていくことが必要である。

（３）コミュニティごとの地域包括ケア推進体制の充実

・ 坂井地区では要支援者の半数が通所介護を利用しており、それが重度になっても続く傾向がみられる。通所介護は生活リズムを整え、交流を促す点からも大変効果的であるが住み慣れた地域で活動ができることが最も重要である。
・ 今後、介護予防訪問介護と介護予防通所介護が総合事業に移行する予定であるが、その利用が可能な限り日常生活圏域、とりわけ徒歩圏で行われ、要介護状態になっても住み慣れた地域で支援を受けることにつながるような体制ができることが望ましい。

（４）介護負担解消、相談、家族支援

・ 介護負担を軽減し在宅介護をしやすくするために、広域連合からの情報提供を進めるとともに、在宅医療･在宅介護相談センターのような相談環境の整備を行うことが考えられる。
・ また、家族会の立ち上げ支援を行うことが考えられる。

資　料　編

１　家族向けアンケート調査（調査票）

坂井地区広域連合 高齢者の住まいのアセスメントに関する調査研究

介護サービスに関する調査
（ご家族への調査協力のお願い）

平素は介護保険事業の運営につきまして多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて当広域連合におきましては、現在平成 27 年度～29 年度を運営期間とする第６期介護保険事業計画を推進しているところであり、地域包括ケアシステムの構築に向けて、高齢者の住まいに関する施策を充実させていきたいと考えています。

今回、その一環として、高齢者が介護が必要になっても在宅で暮らし続ける仕組みを検討するために、「高齢者の住まいのアセスメントに関する調査」を実施することになりました。つきましては、介護保険施設の入所を希望されている方を対象に、施設入所の申込をされた理由や日ごろの介護、住まいに関しておたずねさせていただきたいと存じます。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 1 月　坂井地区広域連合介護保険課

記入についてのお願い

1. **封筒のあて名の介護者の方**がご記入をお願いいたします。
2. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
3. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を〇印で囲んでください。
   □の場合は回答内容などを記入してください。
4. 〇の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
5. 「その他」に〇印をつけられた方は、〔　　〕内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。
記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

２月１日（月）までに ご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

【問合せ先】
坂井地区広域連合介護保険課
TEL　0776－91－3309（直通）

調査票のご記入に先立ちまして、おたずねします

問1　この調査票はどなたがご記入されますか。あて名ご本人の方（入居予定者）からみた続柄でお答えください。（１つに○）

（N＝169）

１．配偶者	22.5%	４．娘・息子の配偶者	22.5%	７．その他の親族	1.2%
２．娘	23.1%	５．兄弟姉妹	3.0%	８．その他〔具体的に：〕	1.2%
３．息子	23.7%	６．親	1.8%	無回答	1.2%

問2　この調査票をご記入の方はどちらにお住まいですか。（１つに○）

（N＝169）

１．あわら市	23.1%	３．あわら市、坂井市以外の福井県内〔具体的に：　〕	0.6%
２．坂井市	75.1%	４．福井県以外〔具体的に：〕	0.6%
		無回答	0.6%

あて名ご本人の方（入居予定者）についておたずねします

問3　あて名ご本人（入居予定者）の性別は次のうちどれですか。（１つに○）

（N＝169）

１．男性	27.8%	２．女性	69.8%	無回答	2.4%

問４　あて名ご本人（入居予定者）の年齢は次のうちどれですか。（１つに○）

＊平成 27 年 10 月 1 日現在の年齢でお答えください。

（N＝169）

１．40～64 歳	1.8%	３．70～74 歳	4.1%	５．80～84 歳	21.9%	７．90～94 歳	19.5%
２．65～69 歳	5.9%	４．75～79 歳	10.1%	６．85～89 歳	26.6%	８．95 歳以上	9.5%
						無回答	0.6%

問５　あて名ご本人（入居予定者）の世帯の状況をお答えください。（１つに○）

（N＝169）

１．ひとり暮らし（あて名ご本人のみ）	7.7%	５．65 歳未満の子や孫などと同居	50.9%
２．夫婦のみ（配偶者は 65 歳以上）	14.2%	６．１～5 以外で全員が 65 歳以上	8.3%
３．夫婦のみ（配偶者は 65 歳未満）	1.2%	７．その他〔具体的に：　〕	11.8%
４．65 歳以上の子などとふたり暮らし	4.7%	無回答	1.2%

問６　あて名ご本人（入居予定者）の要介護度は、次のどれですか。（１つに○）

（N＝169）

１．要支援１	1.8%	３．要介護１	12.4%	５．要介護３	26.0%	７．要介護５	10.7%
２．要支援２	3.0%	４．要介護２	16.0%	６．要介護４	29.0%	８．わからない	0.6%
						無回答	0.6%

問７　あて名ご本人（入居予定者）は、現在どこで療養されていますか。（１つに○）

（N＝169）

１．自宅	52.7%	５．特別養護老人ホーム	9.5%
２．病院	7.7%	６．有料老人ホーム	2.4%
３．介護老人保健施設（老健）	13.0%	７．グループホーム※2	2.4%
４．サービス付き高齢者向け住宅※１	0.6%	８．その他〔具体的に：〕	10.1%
		無回答	1.8%

※1　サービス付き高齢者向け住宅：安否確認や生活相談等の福祉サービスの提供を受けられる高齢者向け住宅

※2　グループホーム：認知症の高齢者が共同生活をして、専門的に介護を受けられる住居

問８　あて名ご本人（入居予定者）がお住まいの住宅（入院や施設入所されている場合はその直前にお住まいだった住宅）はどのような種類の住宅ですか。（１つに○）

（N＝169）

１．一戸建て	94.1%	→ 問 10 へお進みください
２．分譲マンション	0.6%	→ 問９へお進みください
３．賃貸マンション	0.0%	
４．アパート	0.0%	
５．公営賃貸住宅（市・県営、公社等）	2.4%	
６．その他〔具体的に：〕	0.6%	
無回答	2.4%	

問9　問8で２～６に○をつけた方におうかがいします。お住まいの住宅に、エレベーターは設置されていますか。（１つに○）

（ｎ＝6）

１．設置されている	33.3%	２．設置されていない	50.0%	無回答	16.7%

問10　あて名ご本人（入居予定者）がお住まいの住宅（入院や施設入所されている場合はその直前にお住まいだった住宅）の広さはどれくらいですか。（１つに○）

（N＝169）

１．９坪以下	1.2%	４．22～30 坪	10.1%
２．10～15 坪	1.8%	５．31～45 坪	21.9%
３．16～21 坪	3.6%	６．46 坪以上	56.2%
		無回答	5.3%

問11　あて名ご本人（入居予定者）がお住まいの住宅（入院や施設入所されている場合はその直前にお住まいだった住宅）で、主に介護を受けている部屋の広さはどれくらいですか。（１つに○）

（N＝169）

１．1～5畳	7.1%	４．10～12 畳	9.5%
２．6、7畳	42.0%	５．13畳以上	2.4%
３．8、9畳	36.1%	無回答	3.0%

問12　問8であて名ご本人（入居予定者）がお住まいの住宅（入院や施設入所されている場合はその直前にお住まいだった住宅）は、バリアフリー*化されている等、介護に適している状態になっていますか。（１つに○）

（N＝169）

１．はい	30.8%	⟶問 14 へお進みください
２．いいえ	65.1%	⟶問 13 へお進みください
無回答	4.1%	

※バリアフリー：社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障害や、精神的な障壁を取り除くための施策、もしくは具体的に障害を取り除いた事物および状態のこと

問13　問12で「２．いいえ」と答えた方におうかがいします。どこが介護に適していない状態であると思いますか。（いくつでも○）

（n＝110）

１．介護に使用できる本人専用の居室がない	12.7%
２．本人専用の居室はあるが他者が入るのに抵抗を感じる間取りである	10.9%
３．室内、室外に段差があり、移動に支障がある	67.3%
４．階段がある	20.9%
５．室内や廊下に手すりが付いていない	55.5%
６．廊下などの通路が狭い	17.3%
７．風呂場に介助者が一緒に入れない	33.6%
８．浴槽の立ち上がりが高い	50.0%
９．風呂場に手すりが付いていない	42.7%
10．風呂場が車いすで利用できない	60.9%
11．トイレに介助者が一緒に入れない	38.2%
12．トイレが車いすで利用できない	60.9%
13．トイレに手すりがない	32.7%
14．その他〔具体的に：　〕	10.0%
無回答	0.9%

問14　あて名ご本人（入居予定者）はどちらにお住まい（入院や施設入所されている場合はその直前にお住まいだった住宅）ですか。（１つに○）

（N＝169）

１．あわら市金津地区	13.0%	６．坂井市坂井町	10.7%
２．あわら市芦原地区	10.1%	７．福井市	0.0%
３．坂井市三国町	28.4%	８．永平寺町	0.0%
４．坂井市丸岡町	19.5%	９．石川県加賀市	0.0%
５．坂井市春江町	14.2%	10．その他の市町村〔具体的に：〕	0.6%
		無回答	3.6%

在宅で療養されている方におたずねします

問15　あて名ご本人（入所予定者）が在宅生活を続けるための支援で困っていることは何ですか。（いくつでも○）

（N＝169）

1．介護に適した住宅に改修できないこと	22.5%
2．見守りやゴミ出しなどの生活支援サービスがないこと	11.2%
3．食事の用意など調理や配食などのサービスがないこと	9.5%
4．食事やトイレの介助など１日に何度か自宅へ訪問し、必要があれば２４時間いつでも訪問してくれるサービスがないこと	17.8%
5．通院に付き添ってくれるサービスがないこと	14.8%
6．自宅に定期的に訪問して診療し、緊急時にも対応してくれる医師がいないこと	13.6%
7．仕事等のために日中、長時間介護が受けられ、必要に応じて宿泊することができるサービスがないこと	11.2%
8．介護サービスの内容、費用、利用方法についての情報が正確に得られないこと	6.5%
9．収入が少なく、介護サービスが必要なだけ利用できないこと	12.4%
10．その他	16.0%
（具体的に：　　）	
無回答	42.0%

問16　あて名ご本人（入居予定者）は、どのような医療処置を受けていますか。（いくつでも○）

（N＝169）

1．点滴の管理	4.1%	8．人工透析	0.6%
2．ストーマの処置	1.2%	9．人工呼吸器	0.0%
3．気管切開の処置	0.6%	10．経管栄養（鼻腔経管栄養、胃ろう）	4.7%
4．IVH（中心静脈栄養）	0.0%	11．じょくそうの処置	3.6%
5．痰の吸引	3.6%	12．ぼうこう留置カテーテル	5.3%
6．在宅酸素療法	2.4%	13．インスリン注射	4.7%
7．疼痛の緩和	4.7%	14．その他〔具体的に：　　〕	13.6%
		無回答	62.1%

問17　あて名ご本人（入居予定者）は、現在、定期的に医師の診療を受けていますか。（１つに○）

（N＝169）

1．訪問診療※を受けている	5.9%
2．通院している	55.0%
3．病院・施設に入院・入所している	10.7%
4．医師の診療は受けていない	2.4%
無回答	26.0%

※訪問診療：定期的かつ計画的に医師が自宅を訪問し、診療を行うこと

あて名ご本人が介護保険施設に入居を希望している理由をおたずねします
※調査時点ですでに入居されている方は入居前の状況をお聞かせください

問18　どの介護保険施設の入居を希望していますか。（１つに○）

（N＝169）

１．特別養護老人ホーム	46.2%
２．介護老人保健施設	20.7%
３．有料老人ホーム	1.8%
４．グループホーム	6.5%
５．その他〔具体的に：　　〕	4.1%
無回答	20.7%

問19　入居の申込をされた理由は次のうちどれですか。
最もよくあてはまるものに◎、次にあてはまると思うものに○をつけてください。（それぞれ１つに◎と○）

（N＝169）

	最も	次に
１．日常的に介護する人がいないため	13.6%	11.2%
２．家族（介護者）が介護を続けることが困難になってきたため	32.5%	13.0%
３．今は自宅で生活できているが、将来に対する不安を感じたため	29.0%	11.8%
〔具体的に：　〕		
４．病院や他の施設に入院・入所中だが、退院・退所の期限があるため	1.8%	2.4%
５．病院や他の施設に入院・入所中だが、経済的な負担が大きいため	1.8%	0.6%
６．その他	3.6%	2.4%
〔具体的に：　〕		
無回答	17.8%	58.6%

問20　特別養護老人ホームに申込をされた方におたずねします。
最初に申込をされたのはいつですか。（１つに○）

（N＝169）

１．平成 22 年以前	1.2%	５．平成 26 年	14.2%
２．平成 23 年	3.0%	６．平成 27 年	30.2%
３．平成 24 年	3.6%	７．わからない	2.4%
４．平成 25 年	5.9%	無回答	39.6%

問21　何か所に申込をされていますか。（１つに○）

（N＝169）

１．１か所	47.9%	４．４か所	0.6%
２．２か所	10.1%	５．５か所以上	3.0%
３．３か所	7.7%	無回答	30.8%

問22　特別養護老人ホームを検討の際、以下の住まいも比較検討されましたか。
（いくつでも○）

（N＝169）

1．サービス付き高齢者向け住宅※1	12.4%	⟶ 問 22－１へお進みください
2．グループホーム※2	13.0%	⟶ 問 22－２へお進みください
3．その他〔具体的に：　〕	5.3%	
4．検討したところはない	31.4%	
無回答	40.2%	

※1　サービス付き高齢者向け住宅：安否確認や生活相談等の福祉サービスの提供を受けられる高齢者向け住宅
※2　グループホーム：認知症の高齢者が共同生活をして、専門的に介護を受けられる住居

問 22－１　問 22 で、「１．サービス付き高齢者向け住宅」に○をつけた方におうかがいします。
サービス付き高齢者向け住宅を選ばなかった理由は次のうちどれですか。
あてはまるものをお答えください。（いくつでも○）

（n＝21）

1．入居費用が高いと感じたから	61.9%
2．近くにこの住宅がなかったから	9.5%
3．この住宅がどんなものかよく知らないから	19.0%
4．提供するサービス内容が合わないため	14.3%
5．その他〔具体的に：　〕	9.5%
無回答	9.5%

問 22－２　問 22 で、「２．グループホーム」に○をつけた方におうかがいします。
グループホームを選ばなかった理由は何ですか。
あてはまるものをお答えください。（いくつでも○）

（n＝22）

1．入居費用が高いと感じたから	45.5%
2．近くにこの施設がなかったから	22.7%
3．この施設がどんなものかよく知らないから	22.7%
4．提供するサービス内容が合わないため	13.6%
5．その他〔具体的に：　〕	13.6%
無回答	9.1%

問23　施設入居後、あて名ご本人（入居予定者）はどのように過ごしたいと思っていると思いますか。（１つに○）

（N＝169）

1．できるだけ入居した施設で過ごし、さいごも病院や施設で過ごしたい	32.0%
2．できるだけ入居した施設で過ごすが、さいごは自宅で過ごしたい	13.6%
3．できるだけ自宅に戻って過ごすが、さいごは病院や施設で過ごしたい	7.1%
4．できるだけ自宅に戻って過ごし、さいごも自宅で過ごしたい	16.6%
5．その他〔具体的に：　〕	5.9%
無回答	24.9%

問24　施設入居後、介護をしている方は、あて名ご本人（入居予定者）にどのように過ごしてもらいたいと思いますか。（１つに○）

（N＝169）

１．できるだけ入居した施設で過ごし、さいごも病院や施設で過ごしてもらいたい	45.6%
２．できるだけ入居した施設で過ごすが、さいごは自宅で過ごしてもらいたい	11.2%
３．できるだけ自宅に戻って過ごすが、さいごは病院や施設で過ごしてもらいたい	10.1%
４．できるだけ自宅に戻って過ごし、さいごも自宅で過ごしてもらいたい	6.5%
５．その他〔具体的に：　〕	3.0%
無回答	23.7%

問25　あて名ご本人（入居予定者）が在宅生活を送るうえで困っていることは何ですか。（いくつでも○）

（N＝169）

１．在宅療養（看取りを含む）について相談する場がない	3.0%
２．薬を飲み忘れることが多い	20.1%
３．予定どおりに医師が来てくれない	0.0%
４．医療機関での待ち時間が長い	23.1%
５．デイサービス（通所介護）やショートステイ（短期入所）が利用できない	2.4%
６．療養するのに適切な住環境の調整が難しい	15.4%
７．緊急時に医師と連絡がとれない	7.7%
８．家族介護者の、清拭や移乗など介護技術が難しい	24.9%
９．口腔ケアや歯科診療が受けられない	7.7%
10．医師や介護サービス事業所が悩みを聞いてくれない	0.0%
11．医療や介護サービスにお金がかかる	16.0%
12．家族介護者にゆとりがない	43.2%
13．家族介護者が医療行為をするのが難しい・負担が大きい	18.9%
14．その他〔具体的に：　〕	14.2%
15．困ることは特にない	3.6%
無回答	23.7%

問26　介護サービスをご利用されていますか。あてはまるものをお答えください。（いくつでも○）

（N＝169）

１．訪問介護	16.6%	７．通所リハビリテーション	16.0%
２．訪問看護	9.5%	８．短期入所療養介護	30.2%
３．訪問リハビリテーション	3.6%	９．夜間対応型訪問介護	0.6%
４．訪問入浴介護	4.7%	10．定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0.6%
５．居宅療養管理指導	1.2%	11．小規模多機能型居宅介護	5.9%
６．通所介護	37.3%	12．看護小規模多機能型居宅介護	0.0%
		無回答	27.2%

主に介護している方の状況についておたずねします

問27　あて名ご本人（入居予定者）を主に介護しているのは、どなたですか。（１つに○）

（N＝169）

１．配偶者	23.7%	４．娘・息子の配偶者	23.1%	７．孫	0.6%
２．娘	21.9%	５．兄弟姉妹	3.0%	８．その他の親族	0.6%
３．息子	15.4%	６．親	0.0%	９．その他〔具体的に：　〕	0.6%
				無回答	11.2%

問28　あて名ご本人（入居予定者）を主に介護している方の年齢はおいくつですか。（１つに○）

（N＝169）

１．30 歳未満	0.6%	４．50 歳代	24.3%	７．70～74 歳	5.9%	10．85～89 歳	5.3%
２．30 歳代	0.0%	５．60～64 歳	22.5%	８．75～79 歳	9.5%	11．90～94 歳	0.6%
３．40 歳代	6.5%	６．65～69 歳	11.2%	９．80～84 歳	7.1%	12．95 歳以上	0.0%
						無回答	6.5%

問29　あて名ご本人（入居予定者）を主に介護している方はどこに住んでいますか。（１つに○）

（N＝169）

１．同じ住宅	76.9%	５．同じ町内（旧町内）	8.9%
２．同じ住宅ではないが同じ敷地	1.2%	６．市内	3.6%
３．同じ町内会または行政区	0.6%	７．県内	1.2%
４．同じ小学校区内	1.2%	８．県外〔具体的に：　〕	0.6%
		無回答	5.9%

問30　あて名ご本人（入居予定者）を主に介護している方について、次の中からあてはまるものをお答えください。（いくつでも○）

（N＝169）

１．要支援または要介護認定を受けている	24.9%		
２．障害者である（障害者の手帳を持っている）	11.2%		
３．病気で通院している（病名：　）	30.8%		
４．ご本人（入居予定者）を含め複数の方を介護している	10.7%		
５．フルタイムの仕事をしている	23.7%		
６．パートタイムの仕事をしている	16.0%		
７．子育て中である	4.7%		
８．ご本人（入居予定者）と別居している	10.1%		
	30 分以内	30 分以上	無回答
→ 30 分以内で行ける・30 分以上かかる　※いずれかに○	8.3%	1.2%	0.6%
９．あてはまるものはない	13.0%		
無回答	8.9%		

問31　あて名ご本人（入居予定者）を主に介護している方について、介護のために仕事をやめたり、働き方を変えたりしたことはありますか。（１つに○）

（N＝169）

１．介護のために仕事をやめた	15.4%
２．介護のために働き方を変えた	15.4%
３．介護のために仕事をやめたり働き方を変えることを考えたことがある	19.5%
４．介護のために仕事をやめたり働き方を変えることを考えたことはない	19.5%
無回答	30.2%

問32　あなた以外のご家族は、介護にどのようにかかわっていますか。（１つに○）

（N＝169）

１．家族のなかで自分だけが介護している	46.7%
２．家族のなかで自分と他の特定の人が介護している	23.1%
３．家族全体で介護を分担している	14.2%
４．その他〔具体的に：　　〕	3.6%
無回答	12.4%

問33　介護をしていくうえで、あなたの気持ちに最もあてはまると思うものはどれですか。（それぞれ１つに○）

（N＝169）

	思わない	たまに思う	ときどき思う	よく思う	いつも思う	無回答	平均
回答の例 --→	1	2	③	4	5		
１介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか	5.9%	13.6%	23.1%	21.9%	23.1%	12.4%	2.49
２介護を受けている方のそばにいると腹が立つことがありますか	14.8%	20.1%	28.4%	18.3%	7.1%	11.2%	1.81
３介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	20.7%	23.7%	17.8%	18.9%	7.7%	11.2%	1.65
４介護を受けている方のそばにいると、気が休まらないと思いますか	13.6%	16.6%	19.5%	26.6%	13.0%	10.7%	2.10
５介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか	18.9%	30.2%	17.2%	13.6%	7.7%	12.4%	1.55
６介護を受けている方が家にいるので、友達を自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	33.7%	18.9%	14.8%	9.5%	9.5%	13.6%	1.33
７介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	14.2%	25.4%	17.2%	16.6%	15.4%	11.2%	1.93
８介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	11.8%	33.7%	19.5%	11.8%	10.7%	12.4%	1.72

問34　介護をしていて良かったと思うことはどのようなことですか。（いくつでも○）

（N＝169）

１．あて名ご本人とコミュニケーションができた	16.0%
２．仕事や生き方の見直しにつながった	17.8%
３．介護の専門職から知識を得られた	15.4%
４．介護の技術を学ぶことができた	8.9%
５．地域のことを理解できるようになった	4.7%
６．同じ経験をする仲間と交流できた	10.1%
７．介護保険制度が理解できた	27.8%
８．自分の老後を考えることができた	57.4%
９．その他〔具体的に：　〕	4.1%
10．特にない	14.2%
無回答	11.8%

問35　これからの介護者支援策として、あなたが必要だと思うのは次のどれですか。（いくつでも○）

（N＝169）

１．介護者に対する定期的な情報提供	29.6%
２．介護者が気軽に休息がとれる機会づくり	29.0%
３．リフレッシュのための日帰り旅行などの機会提供	13.0%
４．電話や訪問による相談サービス	20.7%
５．本人や介護者が集まって話せる場づくり	10.1%
６．家族会や介護者の自助グループ	5.9%
７．在宅介護者への手当	34.3%
８．介護休業取得者のいる企業への支援制度	20.1%
９．介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度、再就職支援施策	33.7%
10．介護者の経験を活かした介護問題への発言の場づくり	6.5%
11．その他〔具体的に：　〕	6.5%
無回答	21.9%

問36　最後に、あなたが、在宅療養者の医療や介護サービスについてのお考えや満足もしくは不満に思われること、坂井地区で取り組んでほしいこと、今後に向けての希望などについてご自由にお書きください。

―――ご協力ありがとうございました―

２　介護保険施設ヒアリング調査

（１）介護保険施設ヒアリング調査票

介護保険施設等入居者調査（No1）

記入日:　月　日　記入者：

施設名		
対象者	No.　性別 ：　年齢 ：　歳 家族構成 ：　従前住所地 ：	
入居年月日	平成　年　月　日	待機年数 ：　年　ヶ月
在宅の時の状況	◆同居・独居等住まい方 ： ◆要介護度 ：1　2　3　4　5 ◆認知症 ： 自立度 ：Ⅰ　Ⅱa　Ⅱb　Ⅲa　Ⅲb　Ⅳ　M ◆症状 ：物忘れ　意思疎通困難　介護への抵抗　昼夜逆転　徘徊　妄想(物とられ)　不穏　幻覚 ◆身体状況（疾病・栄養、生活習慣）： ◆主介護者 ： 就労状況 ： ◆他の家族の居場所 ： ◆生活状況 ： ◆住まいの状況 一戸建て（バリアフリーに関する改修状況 ： 集合住宅（　階　エレベーターの有無　部屋のバリアフリーの状況 ： ◆経済状況 ：ゆとりがある　ふつう　苦しい	
在宅の時のケアプラン、利用サービスについて	◆入所時のケアプランの課題 ： ◆入所直前のサービス利用 （訪問） ： （通所）デイサービス ：　回／週 （ショート）ショートステイ、ロングステイ ：　週／年 （福祉用具） ： （病院、その他施設） ： （介護保険外サービス） ：	
入居までの経過	◆施設利用のニーズと申し込んだ理由 本人 ： 家族 ： ◆待機期間の状況 ：	

介護保険施設等入居者調査（No２）

施設名	
対象者	No.
施設ケアマネジャーの現状の評価	◆現在の状況（生活、入居者同士の状況他）　： ◆入居時から変化があったこと（改善状況等）：－IADL、ADL、認知機能 ◆金銭管理　：
現在の家族の状況	◆面会状況　： ◆家族の健康状態　：
これからの展望・ニーズなど（今後、介護度が上がった時にどうするか）	
在宅時に不足していたと思う支援・あればよかった支援（具体的な内容）	◆介護保険サービス 訪問サービス　： 通所サービス　： ◆医療サービス　： ◆見守り・生活支援　： ◆介護者負担軽減策　：
住まいに関する問題、支援策について	

高齢者の住まいのアセスメントに関する
調査研究

報告書
平成 28 年 3 月

発　　行：坂井地区広域連合
〒919－0526 福井県坂井市坂井町上兵庫第 40 号 15 番地
TEL：0776（72）3305
FAX：0776（72）3306

調査支援：株式会社生活構造研究所
〒102－0083 東京都千代田区麹町 2 丁目 5 番地 4
TEL：03（5275）7861